出雲市築山土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

寿昌寺遺跡・築山遺跡発掘調査報告書

2004年10月

出雲市教育委員会

出雲市築山土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

寿昌寺遺跡・築山遺跡発掘調査報告書

2004年10月

出雲市教育委員会

寿昌寺遺跡　空撮写真

巻頭図版 2

築山Ⅰ区　包含層出土漆器
（出土時家紋遺存状況）

築山Ⅱ区　SK09出土土器

序

出雲市文化財室では、出雲市築山土地区画整理組合からの委託を受け、平成13年度から築山土地区画整理予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりましたが、今年度の調査報告書の刊行をもって終了する運びとなりました。本書は、平成13・14年度に発掘調査を行った寿昌寺遺跡、築山遺跡の成果をまとめたものです。

これらの遺跡が所在する上塩冶地区は、県内でも有数の遺跡密集地帯となっており、数多くの歴史的文化遺産が残っています。

本書に掲載した寿昌寺遺跡からは中世の館の区画溝が確認され、付近の有力者であった塩冶氏との関連も考えられています。一方、築山遺跡からは出雲平野では珍しい縄文土器が多数出土しており、貴重な資料となりました。

こうした調査成果は、出雲地域の歴史を解明していく上でも貴重な資料になるものと思われます。本書が地域の埋蔵文化財に対する理解や歴史解明の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の刊行にあたり御協力いただきました地元の皆様、出雲市築山土地区画整理組合をはじめ、関係の方々に対して心から御礼申し上げます。

平成16年10月

出雲市教育委員会
教育長　加　藤　武　行

例　　言

1. 本書は、出雲市築山土地区画整理組合の委託を受け、出雲市文化財室が平成13・14年度に実施した寿昌寺遺跡、築山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、下記の期間において実施した。
   寿昌寺遺跡……平成14年1月8日～6月27日
   築山遺跡……平成14年5月3日～平成15年3月31日
3. 発掘調査を行った地番は、次のとおりである。
   寿昌寺遺跡……出雲市上塩冶町351番地3ほか
   築山遺跡……出雲市上塩冶町1683番地ほか
4. 調査は次の組織で行った。
   平成13年度
   ［事　務　局］板倉　優（出雲市芸術文化振興課長）、川上　稔（出雲市文化財室長）
   ［調　査　員］遠藤正樹（出雲市文化財室　副主任主事）
   佐々木紀明、伊藤晶子（同　臨時職員）
   平成14年度
   ［調査指導者］伊藤徳広（島根県教育庁文化財課　主事）
   ［事　務　局］板倉　優（出雲市芸術文化振興課長）、川上　稔（出雲市文化財室長）
   ［調　査　員］遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室　副主任主事）
   佐々木紀明、伊藤晶子、伊藤めぐみ、櫻井康行（同　臨時職員）
   平成15年度（報告書作成）
   ［調査指導者］原田敏照（島根県教育庁文化財課　文化財保護主事）
   ［事　務　局］板倉　優（出雲市芸術文化振興課長）、川上　稔（出雲市文化財室長）
   ［調　査　員］遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室　副主任主事）
   佐々木紀明、佐藤睦子
   平成16年度（報告書作成）
   ［事　務　局］板倉　優（出雲市芸術文化振興課長）、川上　稔（出雲市文化財室長）
   ［調　査　員］遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室　副主任主事）
5. 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。
   SD―溝状遺構、SE―井戸、SK―土壙、SX―不明遺構、P―ピット状遺構、SB－掘立柱建物跡
6. 本書で示した方位は真北を示す。座標は日本測地系に基づくものである。
7. 本遺跡の出土遺物及び実測図、写真は出雲市教育委員会で保管している。
8. 本書掲載の遺物実測図及び写真撮影については、遠藤、藤永のほか、佐々木紀明、伊藤めぐみ、伊藤晶子、櫻井康行、佐藤睦子、宮崎　綾、高橋亜紀、鵜口令子、岩崎晶美が行った。
9. 本書の執筆、編集は遠藤、藤永が行った。
10. 各遺跡の調査担当者は、次のとおりである。
    寿昌寺遺跡……遠藤正樹
    築山遺跡Ⅰ区……藤永照隆
    築山遺跡Ⅱ区……遠藤正樹、藤永照隆
11. 文化財調査コンサルタント株式会社　渡邉正巳氏からは玉稿を賜った。
12. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、以下の方々に御指導、御協力を賜った。
    西尾克己（島根県教育庁文化財課）、広江耕史、柳浦俊一、林健亮（以上島根県埋蔵文化財調査センター）、杉原和恵（防府市教育委員会）、尾島　治（津山郷土博物館）、今岡　清（島根県文化財保護指導委員）、
13. 遺物整理、報告書作成作業については、次の方々に従事していただいた。
    鵜口令子、岩崎晶美、吹野初子、遠藤恭子、荒木恵理子、飯国陽子

目　　次

巻頭図版
序　文
例　言
目　次

本 文 目 次

第１章　調査に至る経緯と経過……(藤永)…… 1
第２章　位置と環境……(藤永)…… 2
第３章　寿昌寺遺跡の調査……(遠藤)…… 4
　第１節　寿昌寺遺跡の調査…… 5
　　1.調査の概要
　　2.遺構と遺物
　　3.包含層出土遺物
　　4.中屋山の調査
　第２節　考察…… 61
　　1.鍛冶炉遺構について
　　2.遺物の組成について
　第３節　まとめ…… 64
写真図版
第４章　築山遺跡の調査……89
　第１節　Ⅰ区の調査……(藤永)……90
　　1.調査の概要
　　2.遺構と遺物
　第２節　Ⅱ区の調査……(遠藤)…… 110
　　1.調査の概要
　　2.遺構と遺物
　第３節　まとめ……(藤永)…… 154
　寄稿　築山遺跡における自然科学分析……(渡辺正巳)…… 156
写真図版

第１章　調査に至る経緯と経過

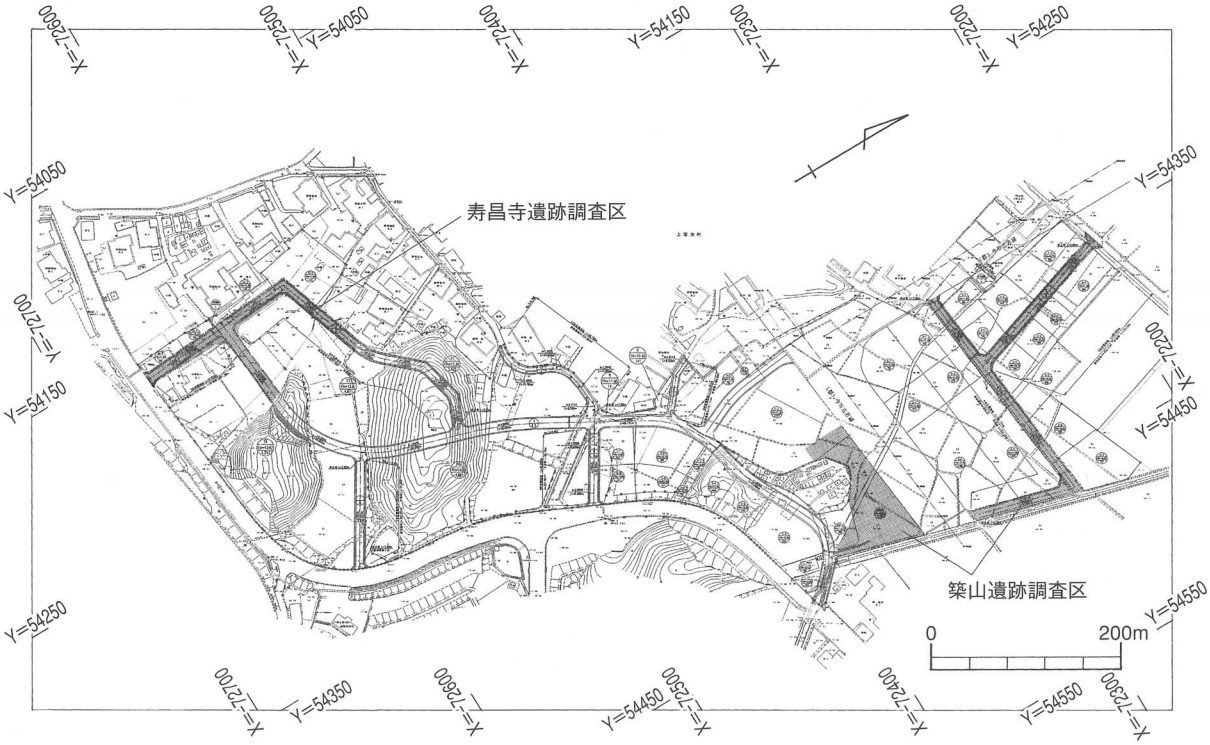
築山土地区画整理事業準備委員会（以下準備委員会という）より、平成10年10月26日付で出雲市上塩冶町築山地内土地区画整理事業に係る埋蔵文化財試掘調査の依頼が提出された。これに対して、出雲市教育委員会は平成11年２月に事業予定地内の試掘調査を実施し、事業地の大部分が周知の遺跡である築山遺跡･寿昌寺遺跡の範囲内であることを確認するとともに、事業実施前に発掘調査の実施が必要となる旨の報告を行った。

その後準備委員会と出雲市（平成13年度より文化財保護部局が市長部局へ移動）で協議を重ねた結果、出雲市と準備委員会で委託契約を締結し、平成14年１月から発掘調査を開始することで合意に至った。

こうした経緯を経て平成14年１月８日より出雲市は発掘調査を開始した。なお、同２月には出雲市築山地区土地区画整理組合（以下区画整理組合という）が設立し、準備委員会が解散することとなったため、事業主体及び契約相手方が区画整理組合へ変更されることとなった。

調査は平成14年１月より同年６月まで寿昌寺遺跡の調査を、同年５月より平成15年３月まで築山遺跡の調査を行ない、築山遺跡の発掘終了と共に全ての現地作業を完了した。なお、工法上面的調査が困難な部分については、この期間内に随時工事立会調査も実施している。

文化財保護法上の手続きについては、平成13年８月31日付で準備委員会より埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条の２）が出雲市経由島根県教育委員会へ提出され、出雲市は13年12月25日付で埋蔵文化財発掘調査の報告（文化財保護法第58条の２）を島根県教育委員会へ提出した。また、調査終了後の意見書については、寿昌寺遺跡に係る意見書を平成14年７月８日付で、築山遺跡に係る意見書を平成15年３月31日付で島根県教育委員会へ提出した。



第１図　寿昌寺遺跡・築山遺跡調査地位置図

第2章　位置と環境

寿昌寺遺跡、築山遺跡が所在する出雲市上塩冶町築山地区は、当地の二大河川である斐伊川と神戸川が出雲平野に流れ込む基点部に位置する。現在の出雲平野をとりまく環境は、北に北山山麓、南に中国山地から派生した丘陵地が連なり、東に宍道湖、西に日本海がある。宍道湖、日本海にはそれぞれ斐伊川、神戸川が注いでおり、出雲平野はこの二大河川によって形成された沖積平野である。

＜縄文時代＞　確認される出雲平野最古の遺跡としては、縄文時代早期末の菱根遺跡（71）、上長浜貝塚（75）が挙げられ、前期末には三田谷遺跡（12）にも人々が暮らし始める。当時は縄文海進の影響によって出雲平野の大部分が海となっていたとみられ、平野の縁辺部で遺跡が確認されるのみである。

平野の沖積作用が進んだ縄文後・晩期になると、矢野遺跡（39）など平野中央部でも遺物の散布が確認され始め、築山遺跡（2）、浅柄遺跡（86）など平野縁辺部でも遺跡の増加傾向が見られる。

＜弥生時代＞　弥生時代前期には大きな変化は見られないが、弥生時代中期中葉以降になると下古志遺跡（77）、天神遺跡（20）、などで大形の区画溝を配した大規模集落が営まれるようになり、遺跡数も激的に増加する。また、平野部の青木遺跡（62）や中野美保遺跡（47）では中期から後期にかけて貼石墓や四隅突出型墳丘墓が築かれ、南丘陵地の西谷墳墓群（32）では後期後葉に西部出雲地域の王墓と考えられる最大級の四隅突出型墳丘墓が密集して築かれる。

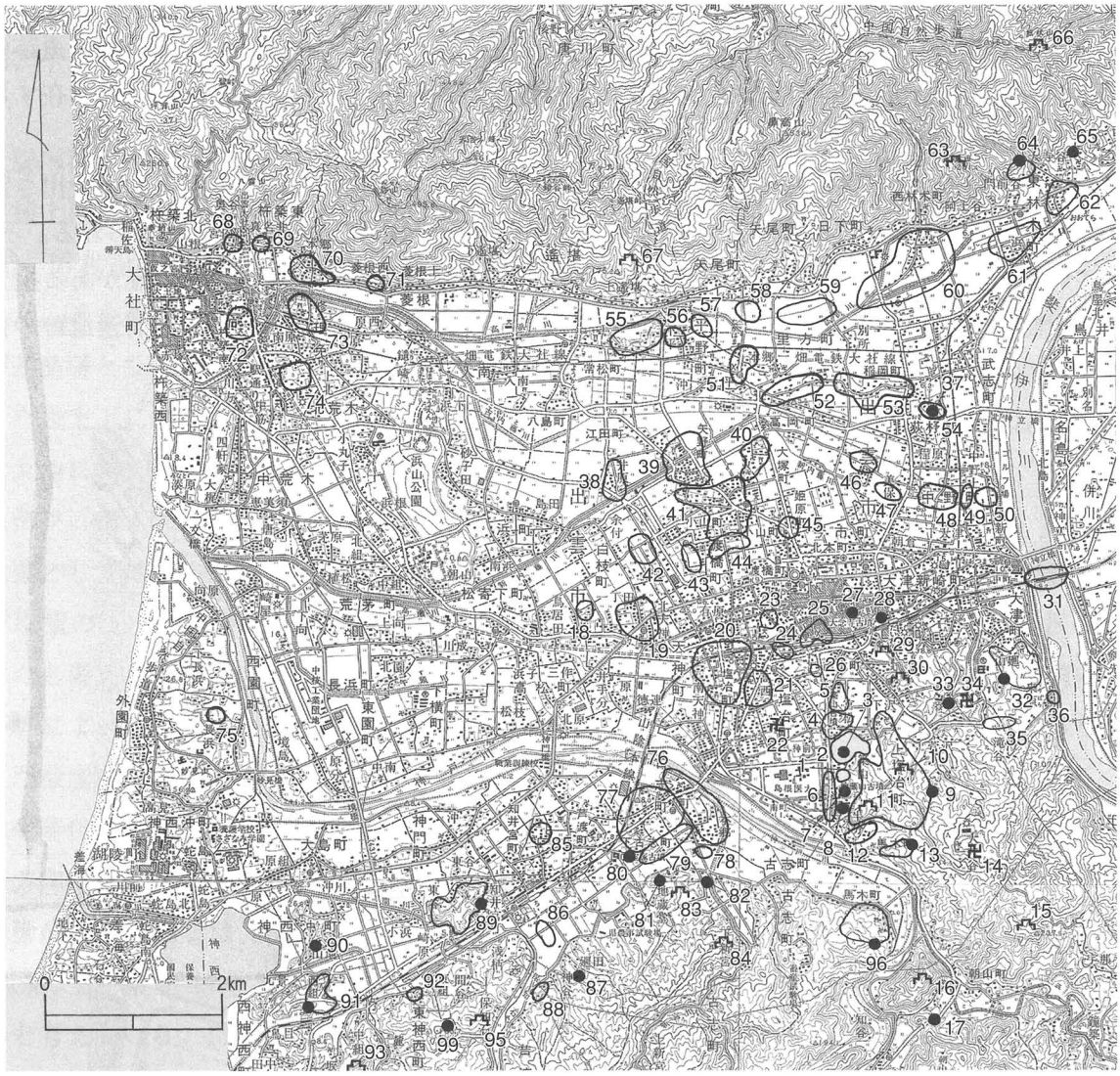
＜古墳時代＞　古墳時代に入ると多くの集落遺跡は衰退する。井原遺跡（38）、三田谷遺跡（12）、浅柄遺跡（86）などで集落跡は見つかっているが、その様相は未だ明らかでない。これに対し古墳の様相は比較的明確である。前・中期には山地古墳（90）、大寺古墳（65）、北光寺古墳（94）など特筆すべき古墳は数えるほどであるが、後期後半になると神戸川東岸に大念寺古墳（28）、築山古墳（3）といった大形横穴式石室墳が、神戸川西岸に放レ山古墳（82）、妙蓮寺山古墳（81）などの中小形横穴式石室墳が続々と築かれる。また、後期末～終末期には上塩冶横穴墓群（9）や神門横穴墓（89）を始め市内各所で横穴墓の造営が盛興する。

＜古代＞　「出雲国風土記」によると、出雲平野は当時西流して神門水海に注いでいた出雲大川本流（現在の斐伊川）と神戸川に挟まれた大変肥沃な土地であったようである。当時の出雲大川を境に北を出雲郡、南を神門郡と行政区画が分かれ、古志本郷遺跡（76）では神門郡家に比定される施設が確認されている。その他、神門寺境内廃寺（22）、天寺平廃寺（34）の古代寺院、光明寺3号墓（13）、小坂古墳石柩（96）、朝山古墓（17）、菅沢古墓（33）の初期火葬墓といった特徴的な遺跡が調査地周辺の上塩冶町・古志町周辺に集中する。平野各所の集落遺跡においても遺構遺物ともに増加傾向が見られる。

＜中世＞　中世には出雲守護職の佐々木氏（後の塩冶氏）が13世紀末頃塩冶郷に本拠を移してより、塩冶高貞が幕閣の権力闘争に破れ自刃する（1341年）までの間、塩冶地域が出雲国の中心地となる。高貞失脚の後も塩冶氏は有力国人としての立場を守っており、1531年頃に尼子氏の圧迫を受けて塩冶郷を去るまで当地は塩冶氏の本拠として発展したものと考えられる。主な遺跡としては中世館跡を検出した蔵小路西遺跡（44）、渡橋沖遺跡（43）、矢野遺跡（39）、下古志遺跡（77）、寿昌寺遺跡（1）、青磁優品の出土で知られる荻杼古墓（37）、丘陵地各所に点在する山城（29・30ほか）などが挙げられる。

＜近世＞　近世に入ると、松江藩の土地政策により網状河川であった斐伊川が1本の大河川に改

修されたほか、斐伊川西岸に来原岩樋（36）、間府岩樋（35）が開削された。こうした大規模な水利政策によって出雲平野は日本海側有数の穀倉地帯として発達することとなった。



第２図　築山遺跡周辺の遺跡

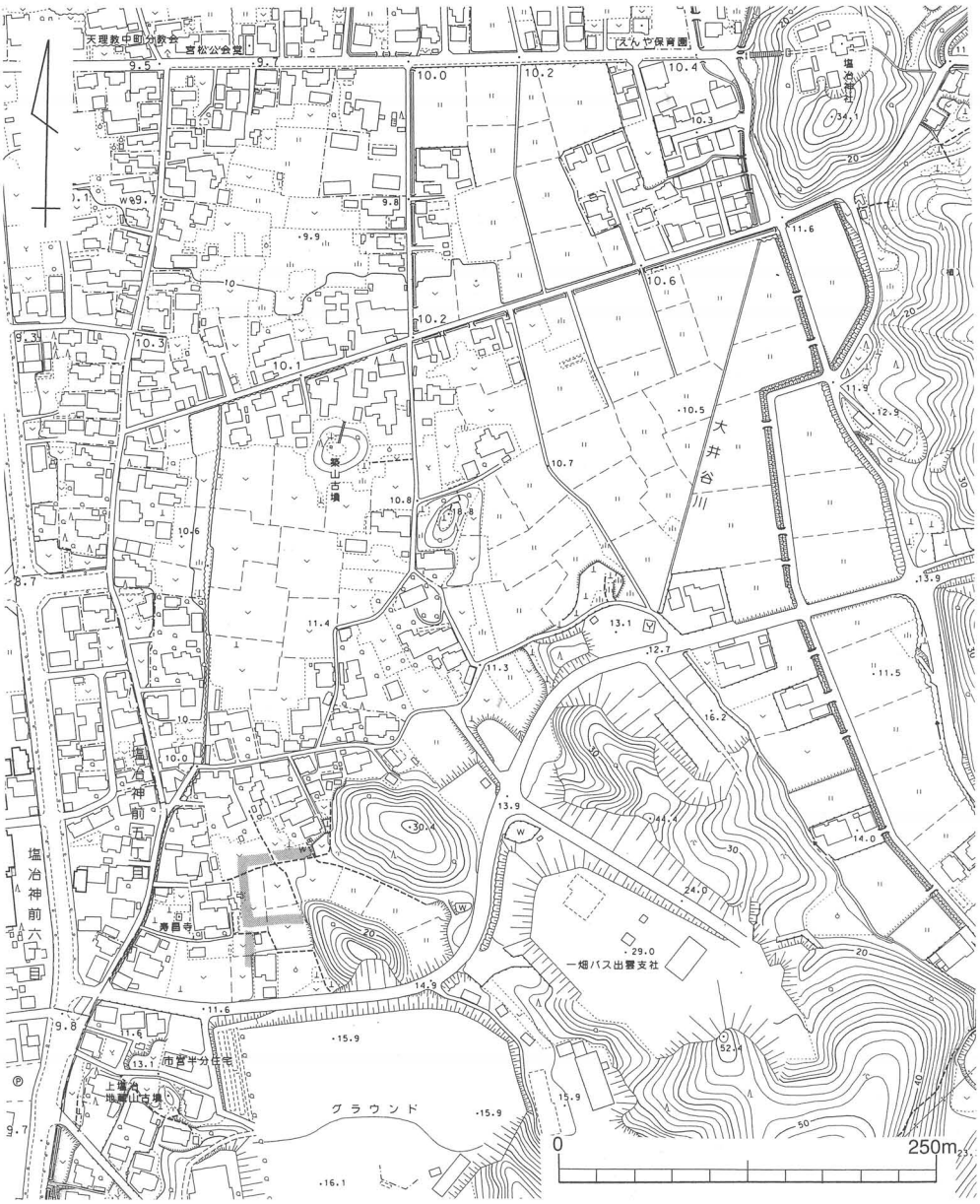
1. 寿昌寺遺跡　2. 築山遺跡　3. 上塩冶築山古墳　4. 宮松遺跡　5. 角田遺跡　6. 寿昌寺西遺跡外　7. 上塩冶地蔵山古墳　8. 半分古墳　9. 上塩冶横穴墓群　10. 大井谷城跡　11. 半分城跡　12. 三田谷遺跡　13. 光明寺古墳群　14. 大井谷Ⅱ遺跡　15. 唐墨城跡　16. 姉山城跡　17. 朝山古墓　18. 白枝本郷遺跡　19. 壱丁田遺跡　20. 天神遺跡　21. 高西遺跡　22. 神門寺境内廃寺　23. 海上遺跡　24. 善行寺遺跡　25. 藤ヶ森遺跡　26.　藤ヶ森南遺跡　27. 塚山古墳　28. 今市大念寺古墳　29. 平家丸城跡　30. 向山城跡　31. 斐伊川鉄橋遺跡　32. 西谷墳墓群　33. 菅沢古墓　34. 長者原廃寺　35. 間府岩樋　36. 来原岩樋　37. 荻杼古墓　38. 井原遺跡　39. 矢野遺跡　40. 大塚遺跡　41. 小山遺跡　42. 白枝荒神遺跡　43. 渡橋沖遺跡　44. 蔵小路西遺跡　45. 姫原西遺跡　46. 中野西遺跡　47. 中野美保遺跡　48. 中野清水遺跡　49. 大津町北遺跡　50. 大津大河内遺跡　51. 高浜Ⅰ遺跡　52. 高岡遺跡　53. 稲岡遺跡　54.　荻杼Ⅱ遺跡　55. 高浜川遺跡　56. 高浜Ⅱ遺跡　57. 里方八石原遺跡　58. 下澤遺跡　59. 里方本郷遺跡　60. 山持遺跡　61. 馬渡遺跡　62. 青木遺跡　63. 鳶ヶ巣城跡　64. 膳棚山古墳群・平林寺山古墳群　65. 大寺古墳　67. 蛇山城跡　68. 出雲大社境内遺跡　69. 真名井銅戈出土地　70. 修理免本郷遺跡　71. 菱根遺跡　72. 鹿蔵山遺跡　73. 原山遺跡　74. 南原遺跡　75. 上長浜貝塚　76. 古志本郷遺跡　77. 下古志遺跡　78. 古志遺跡　79. 田畑遺跡　80. 宝塚古墳　81. 妙蓮寺山古墳　82. 放レ山古墳　83. 浄土寺山城跡　84. 栗栖城跡　85. 知井宮多聞院遺跡　86. 浅柄遺跡　87. 深田谷横穴墓群　88. 保知石遺跡　89. 神門横穴墓群　90. 山地古墳　91. 神待山古墳群　92. 九景川遺跡　93. 神西城跡　94. 北光寺古墳　95. 高城跡　96. 刈山古墳群・小坂古墳

第３章　寿昌寺遺跡の調査

寿昌寺遺跡は上塩冶築山古墳から南へ約300ｍ、現在の寿昌寺から東へ約50ｍの地点に所在し（第３図）、耕土から土器片が採集されることから、調査以前より遺跡として周知されていた。

試掘調査の結果、第４トレンチから墨書土器（土師質土器）が出土したほか、広範囲に遺跡の存在を確認した。試掘トレンチ出土遺物や北側に塩冶判官館跡推定地や塩冶判官高貞碑が所在することから、寿昌寺遺跡は中世を中心とした遺跡であることが推定された。

調査の結果、13 ～ 15 世紀の掘立柱建物跡・溝・土壙・井戸・鍛冶炉・ピット群などが検出された。溝には幅３ｍ弱の溝が直行するものがあり、何らかの施設の区画溝になるものと考えられる。一方、区画溝の外側では、奈良火鉢など寺院関連遺物が出土するほか、寺院の本堂の可能性がある掘立柱建物跡を確認している。東側では鍛冶炉が確認されており、自給性が高い点も寺院関連遺跡の様相と一致している。



第３図　寿昌寺遺跡周辺図

第1節 寿昌寺遺跡の調査

1. 調査の概要

寿昌寺遺跡の調査は区画整理道路計画範囲の西側部分約1,050㎡を対象とし、表土を重機で掘削した後、手掘りにより作業を進めた。なお、調査終了後の路線変更により、追加調査も実施している。

＜土層堆積状況＞（第5～6図）

堆積土は基本的に上から近代以降の堆積土である①表土、②明褐色土、③褐灰色土（調査区北側のみ）、16世紀の堆積土である④褐色土の順に堆積し、一部ではその下層に⑤褐灰色砂質土が堆積していた。また基盤層は調査区の大半が淡橙色砂層からなっており、山際の調査区北東端部では地山面が基盤層となっている。

また表土下に堆積する撹乱土は、焙烙を含む新しい客土であるが、縄文土器を混入しており、採土した土地に縄文遺跡がある可能性もある。しかしながら採土地は特定できなかった。

＜遺構＞（第4図）

遺構としては、弥生時代、中世（13～15世紀）、近世以降と大きく3時期の遺構が確認された。土層堆積の①～③層が近代以降の堆積であることから、調査区内では、近代以降に大きな改変があったと考えられる。特に調査区北側では基盤層まで改変を受けており、深度のない遺構は後世の削平等によってすでに破壊されたのか、調査区北側で確認された中世以前の遺構は、井戸や土壙といった深度のある遺構のみである。

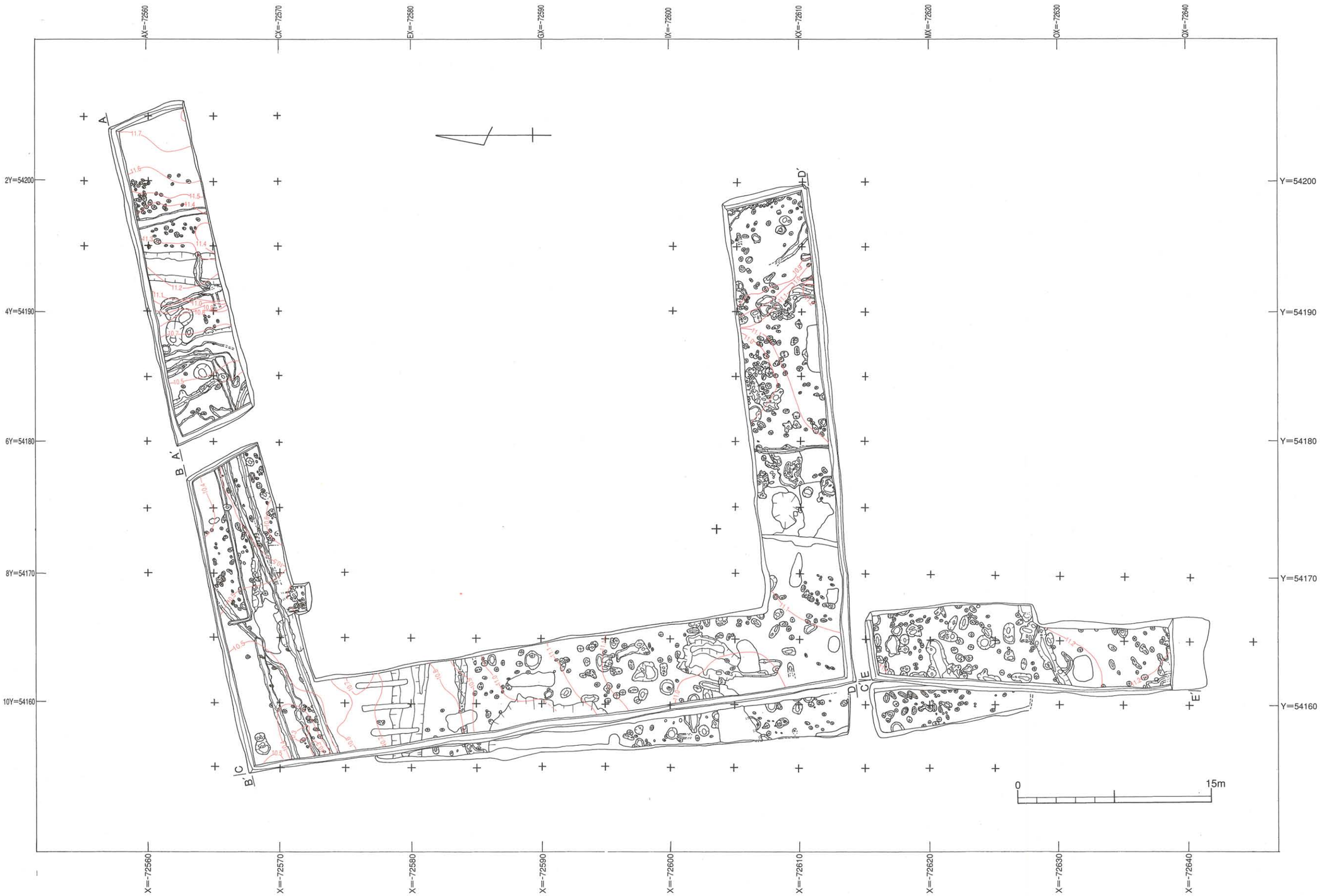
弥生時代の遺構としてはSD 29、SD 30、SK 03がある。このうち溝は弥生終末期の自然河道で、溝の方向から1条の溝として繋がる可能性もある。

中世の遺構としては、SD 15、SD 08、SK 08、SB 01、SK 09、SX 03が13世紀、SE 01が13～14世紀、SE 03が14世紀初～15世紀前半、SE 02が14世紀後半～15世紀前半、SK 41が15世紀後半と考えている。14～15世紀の遺構としては、井戸や土壙といった深度のある遺構しか検出されなかった。上面包含層の時期が16世紀であることから16世紀に14～15世紀の遺構面が破壊された可能性も考える必要があろう。

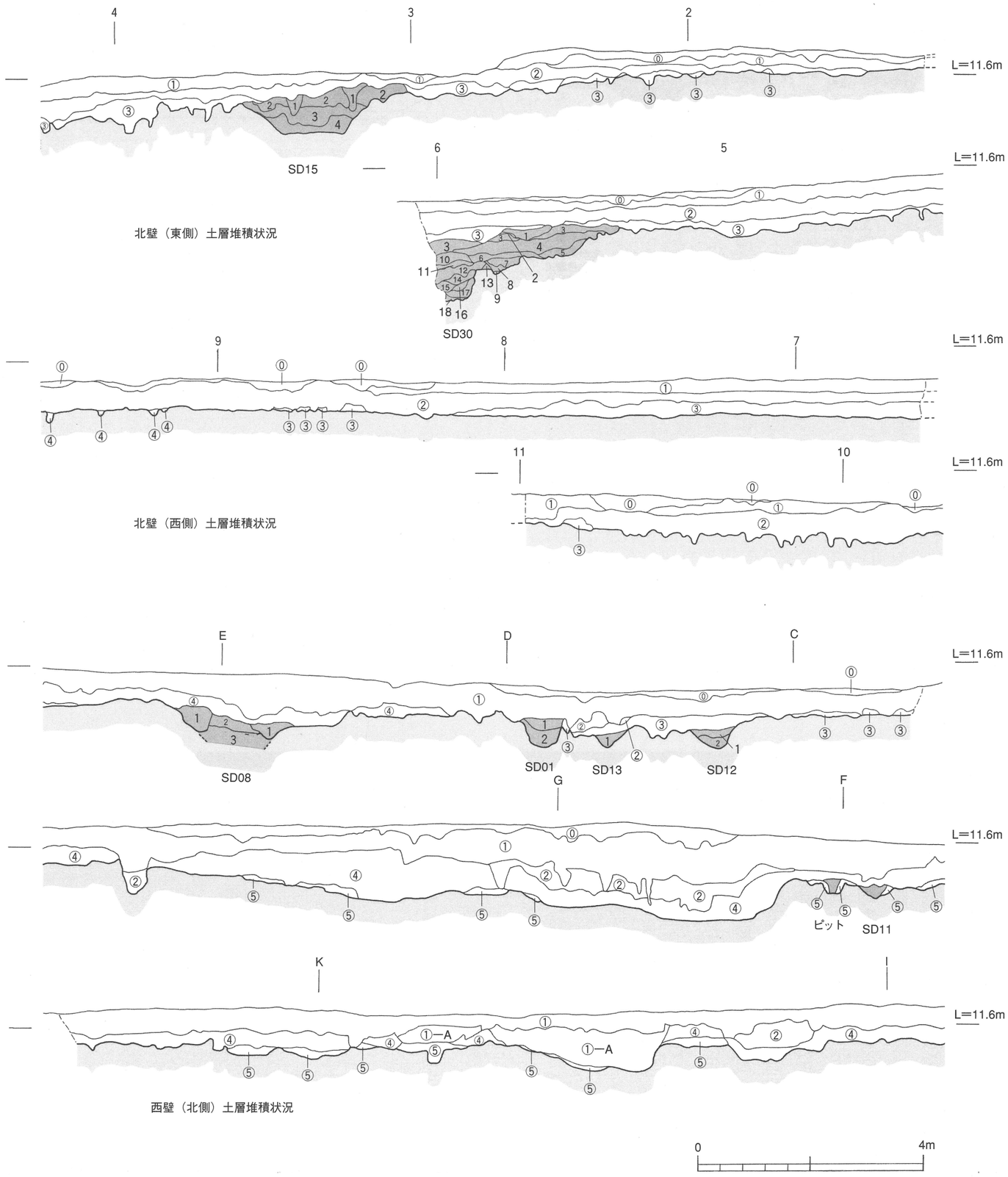
近世以降の遺構としては、調査区北側にSD 01、SD 02、SD 13、SD 12がある。このうちSD 01は多量の礫が充填されており、暗渠排水と考えられる。

＜遺物＞

縄文土器から近代に至るまでの遺物が出土している。出土遺物の中心は13世紀で、多量の土師質土器のほか、瀬戸焼、備前焼、瓷器系陶器、青磁、白磁などの貿易陶磁が出土している。特徴的なのは青磁の数が少なく、この時期の遺跡に出土する鎬蓮弁文碗も少ない点である。出土地別で見ると、区画溝内は大部分に後世の改変を受けているため詳細は不明であるが、区画溝外側からは威信財的な白磁四耳壺の破片が出土しているほか、瓦質土器、奈良火鉢、緑釉陶器といった寺院との関連を考える必要のある遺物も出土している。また五徳、坩堝といった生産関連遺物が出土していることも特徴的である。



第４図　寿昌寺遺跡全体図（S＝１／300）



基本層序

⓪盛土

①表土　　①ーA黄褐色粘土（地山ブロック多量に混入）

②明褐色土

③褐灰色土

④褐色土

⑤褐灰色砂質土

SD15
1.明褐色土（褐色土、地山粒子混入）
2.褐色土（地山粒子、礫混入）
3.暗褐色土（礫混入）
4.褐灰色土（礫混入）

SD12
1.茶褐色土
2.褐色土

SD13
1.褐色土

SD01
1.褐色土
2.暗褐色土

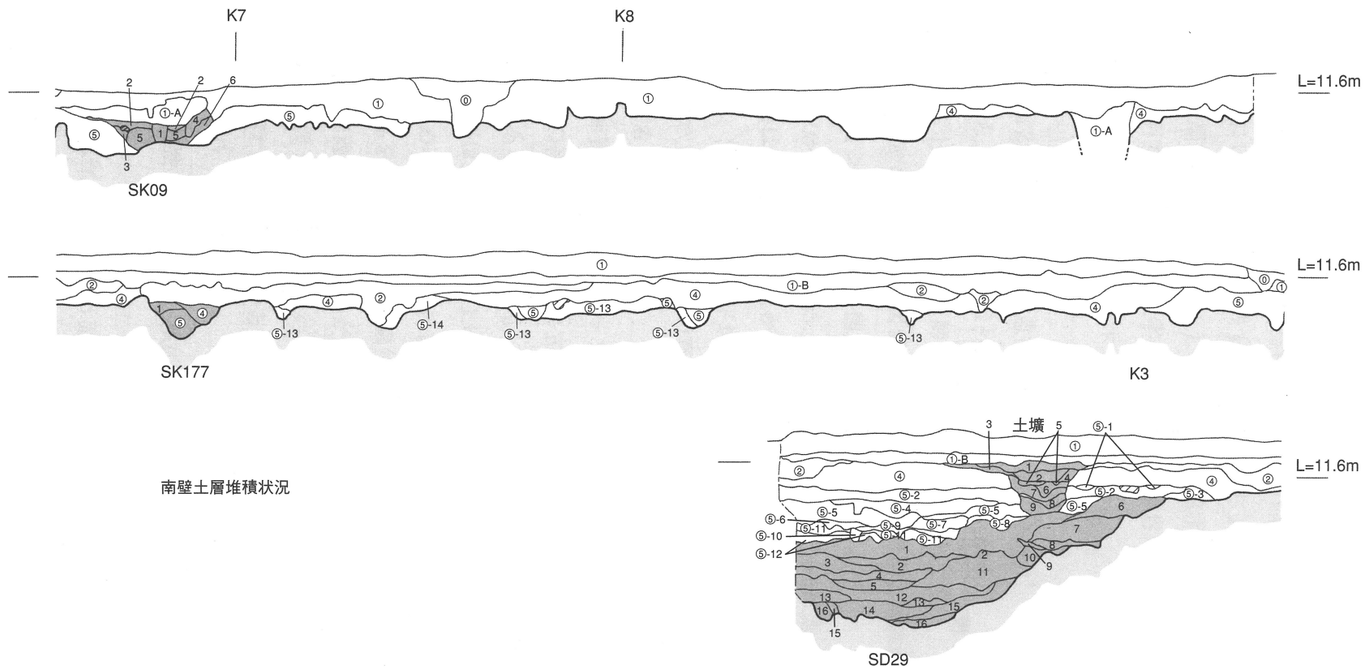
SD08
1.暗褐色土
2.褐灰色土
3.暗褐色土

SD11
1.明褐色砂質土

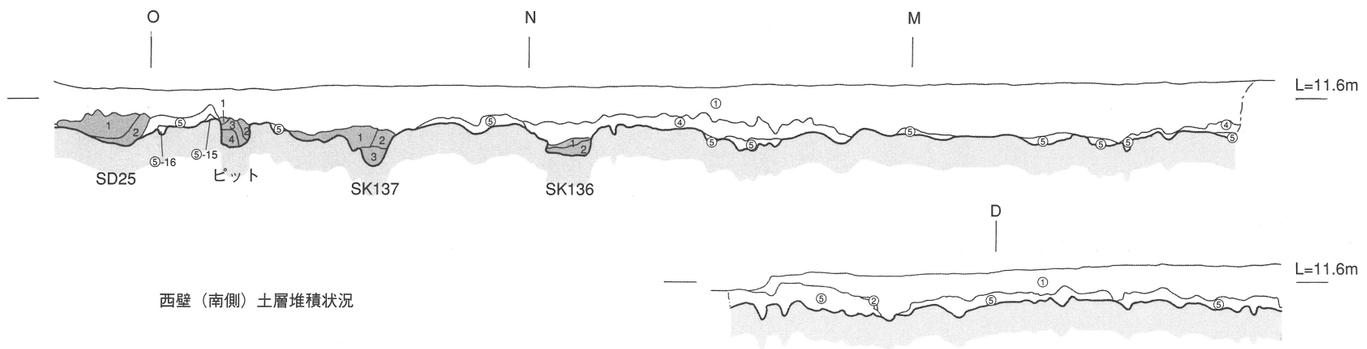
ピット
1.暗褐色土

SD30
1.明褐色土（地山粒子混入）
2.橙色土
3.茶褐色土（地山粒子混入）
4.褐灰色土（地山粒子混入）
5.暗赤褐色土（地山粒子混入）
6.褐色土（地山粒子混入）
7.褐灰色土
8.褐灰色土（地山粒子混入、礫混入）
9.褐色土
10.暗褐色土
11.暗褐色土（明褐色土混入）
12.黒褐色土
13.褐灰色土（地山粒子混入）
14.褐灰色土
15.暗褐色土
16.褐色土
17.褐灰色土
18.暗灰色砂質土

第５図　北壁土層堆積状況・西壁（北側）土層堆積状況（S＝１／80）



南壁土層堆積状況



西壁（南側）土層堆積状況

0　4m

基本層序

⓪盛土
　⓪-A　黄褐色粘土（地山ブロック多量に混入）
　⓪-B　黄褐色土

①表土

②明褐色土

③褐灰色土

④褐色土

⑤褐灰色砂質土
　⑤-1　茶褐色土
　⑤-2　やや暗い褐灰色土
　⑤-3　明褐色土
　⑤-4　灰褐色土
　⑤-5　灰褐色粘土（地山粒子混入）
　⑤-6　灰色砂質土（地山粒子少量混入）
　⑤-7　灰褐色土（赤褐色土混入）
　⑤-8　橙色土
　⑤-9　灰褐色土（黄褐色ブロック多量に混入）
　⑤-10　褐色粘土
　⑤-11　灰褐色粘土（地山粒子少量混入）
　⑤-12　黄褐色粘土（褐色粘土混入）
　⑤-13　灰褐色土
　⑤-14　明褐色土
　⑤-15　褐色土
　⑤-16　褐色土（地山ブロック混入）

SK09
1.灰褐色土
2.灰褐色土（地山粒子混入）
3.灰褐色土（地山ブロック混入）
4.灰褐色土（地山粒子少量混入）
5.暗黄褐色土
6.暗黄褐色土

SK177
1.茶褐色土

土壙（焼土壙）
1.灰褐色土（炭・遺物混入）
2.暗褐色土（炭・遺物混入）
3.暗褐色土（炭・焼土混入）
4.褐灰色土（炭少量混入）
5.褐灰色土
6.褐灰色土（炭混入）
7.褐灰色土
8.褐灰色土（炭少量混入）
9.褐灰色土

SD29
1.褐灰色粘土
2.暗灰色土
3.黄褐色粘土
4.暗褐色粘土
5.褐灰色砂質土（礫少量混入）
6.褐灰色土（地山粒子混入）
7.褐灰色土
8.黄褐色土
9.褐色土（杭痕）
10.褐灰色土（灰色土混入）
11.暗褐色土
12.灰褐色砂質土（礫混入）
13.黒褐色粘土
14.灰褐色砂質土（礫多量に混入）
15.灰褐色砂質土
16.褐灰色荒砂

SK136
1.褐灰色土（礫混入）
2.明褐色砂質土

SK137
1.やや暗い褐灰色土
2.褐色砂質土
3.褐色土

ピット
1.褐灰色土
2.黄褐色砂質土
（褐灰色土混入）
3.褐灰色土
（黄褐色砂質土混入）
4.褐色土
（黄褐色砂質土・小石混入）

SD25
1.暗褐色土
2.褐色土

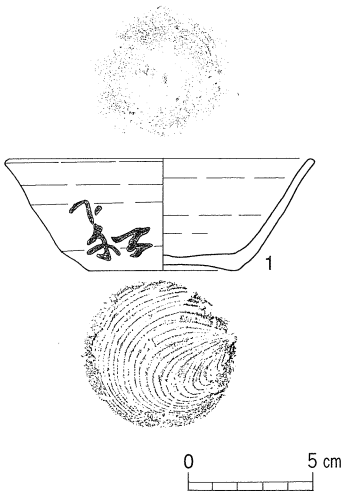
第６図　南壁土層堆積状況・西壁（南側）土層堆積状況（S＝１／80）

2. 遺構と遺物

＜第４トレンチ＞（第７図）

調査で検出された区画溝の内側に位置するトレンチで、墨書を施した土師質土器が出土している。

第７図１は第４トレンチ出土の土師質土器坏である。内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。外面に漢字２文字の墨書が残り、解読不明であるが、墨書文字の部首は、１文字目が「木」または「示」の可能性があり、２文字は「禾」と考えられる。



第７図　試掘トレンチ出土遺物

＜SD 15 ＞（第 13 図）

長さ 6.00 m以上、幅 2.66 mを測る溝状遺構で、溝の主軸はN～ 1°～Eを呈する。壁の立ち上がりは、東側は外反しながら立ち上がり、西側は内湾気味に立ち上がる。遺物は土師質土器片が少量出土している程度であるが、SD 08 の主軸と垂直関係にあり、SD 08 の時期と同時期の遺構と考えられる。

＜SE 03、SK 85、SK 84 ＞（第 14 ～ 16 図）

第 14 図は井戸（SE 03）と土壙（SK 85、SK 84）である。SE 03 は素堀の井戸で、東西 1.93 m、南北 1.42 mを測る。壁は直立的に立ち上がる。出土遺物から 14 世紀初頭から 15 世紀前半頃の遺構と考えられる。SK 85、SK 84 は床面で平坦面を作る土壙である。SK 85 は東西 1.74 m、南北 1.86 m以上を測り、土壙上で、10 ～ 20㎝ 程度の石を 10 個程度集積している。出土遺物から 13 世紀前半以降の遺構と考えられる。

第 15 図１～３は土師質土器である。１～２は小皿で、１は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸めに仕上げている。２は底部で、風化のため調整不明瞭であるが、内外面ともに回転ナデ調整しているものと考えられる。口縁部は外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。３は坏で、内外面ともに回転ナデ調整している。底部は欠損しているため不明である。口縁部の立ち上がりは、外反気味に伸び、端部は尖らせている。４は青磁碗で、底部を厚く作り、高台畳付及び高台見込を露胎としている。

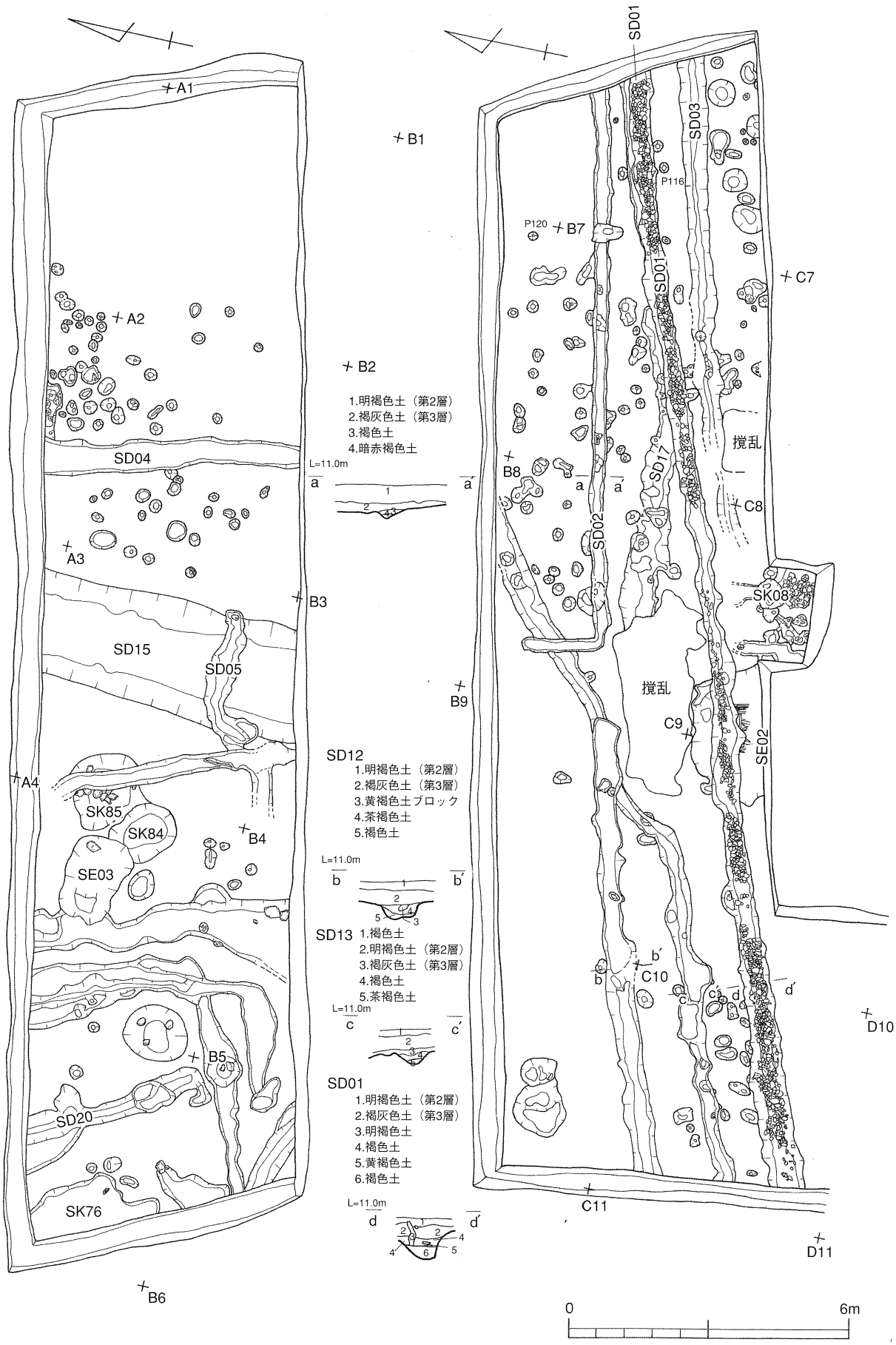
第 16 図１は常滑系陶器甕で、肩部のみが残存する。内外面ともにナデ調整しており、外面には押印文を残す。肩部が発達したタイプのものである。２は外面に格子タタキの残る甕片で、内面はナデ調整している。格子は３～ 4㎜ 程度の方形で構成されており、胎土は軟質のものである。

＜SK 76 ＞（第 8、17 図）

B５Grで検出された土壙（SK 76）で、検出された範囲内では深さ 10㎝ を測る。土師質土器片と須恵器皿が出土している。

第 17 図１は土師質土器坏である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を施している。２は須恵器皿で、内面はナデ調整及び回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕及びヘラ状工具痕を数条残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

＜SD 30 ＞（第 18 ～ 19 図）



第８図　遺構平面図１（S＝１／120）

東西3.20 m以上、南北6.24 m以上を測る溝状遺構で、底部に小溝を作り、壁の立ち上がりは東側で緩やかに上がっていく。遺物は弥生土器のみが出土している。SD 29に繋がる可能性がある。

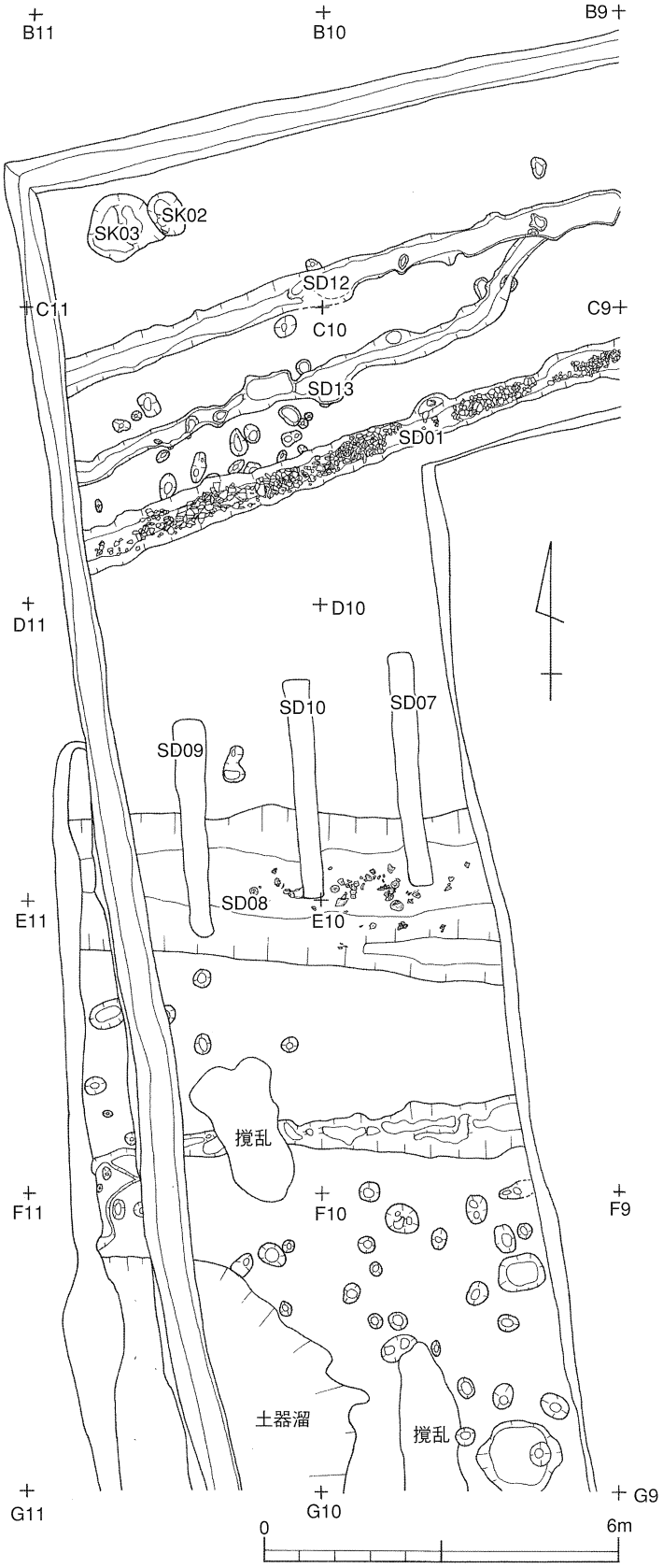
第19図1～3は弥生土器である。1は壺で、全体的に風化が著しいが、体部外面の一部にハケ目を残す。口縁部はナデ調整し、立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2～3は甕である。2は底部で、内面をナデ調整し、外面をヘラミガキ調整している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。3は口縁部から肩部にかけての破片で、口縁部の内外面をナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸びた後、内側に屈曲する。端部は尖らせている。

＜SD 20、P 120、P 116＞（第8、20図）

長さ3.8 m以上、幅約0.4 m、深さ約0.3 mを測る溝状遺構で、出土遺物から13世紀以降の遺構と考えられる。

第20図1～2は高台を有するタイプの土師質土器坏である。1は内外面ともに回転ナデ調整している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。後付けの高台は内湾気味に伸び、端部を尖らせている。2は後付けの高台が外反気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。3は在地の擂鉢で、内面見込に擂目を残す。内面見込周辺は使用のためか激しく摩耗している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は土錘である。直径5㎜ 程度の穿孔を施し、外面はヘラミガキ調整をしている。2，3はSD 20、1はP 120、4はP 116の遺物である。

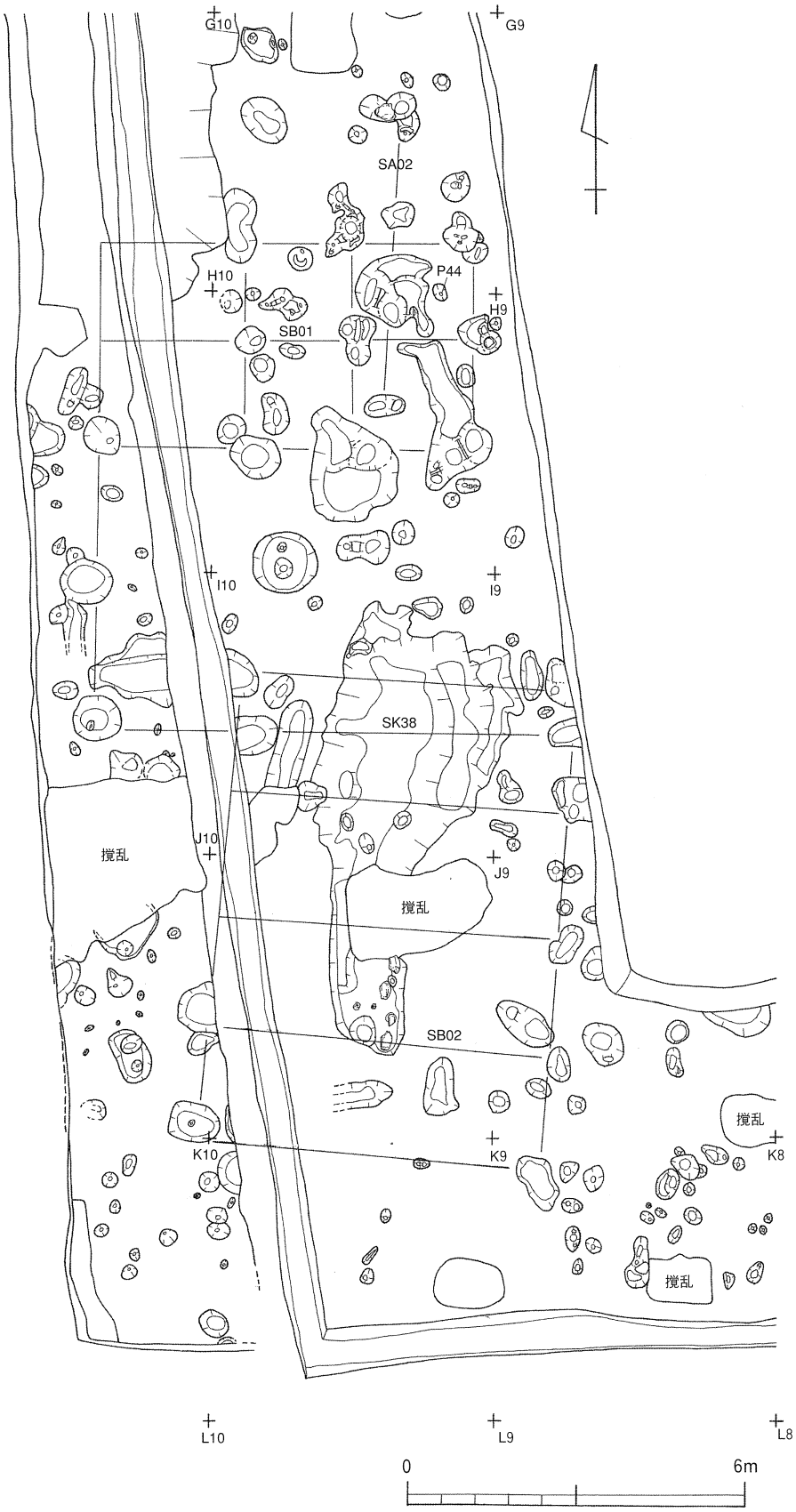
＜SD 01＞（第8～9、21～22図）



第９図　遺構平面図２（S＝１／120）

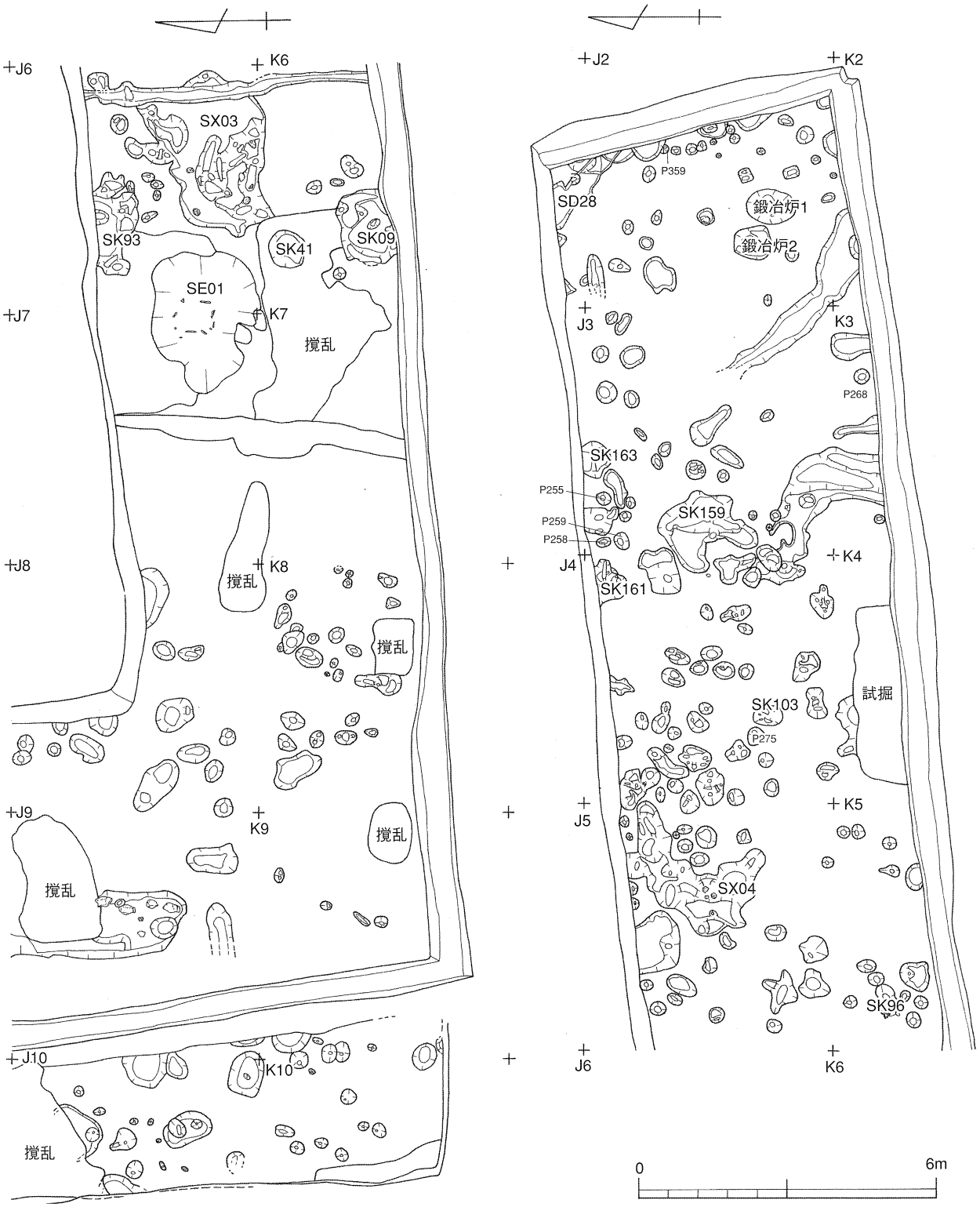
長さ25.0ｍ以上、幅約0.4ｍ、深さ約0.1ｍを測る溝状遺構で、多量の礫が混入していることから、暗渠排水だったものと考えられる。出土遺物から近世以降の遺構と考えられる。

第21図1～4は土師質土器坏である。1は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には静止糸切痕を残す。底部と器壁の界線がシャープである。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。2は内面ナデ、外面回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は内外面ともに回転ナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖らせている。5は青磁碗である。底部は厚めに作られ、高台見込は釉ハギしている。内面見込にはスタンプ文を施している。龍泉窯系碗E類の遺物と考えられる。6は瓷器系陶器甕で、内外面ともにナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外反した後、端部を肥厚させて上下に突出させている。7～11は備前焼である。7～10は擂鉢で、内外面ナデ調整を施している。7は注口で、口縁



第10図　遺構平面図3（S＝1／120）

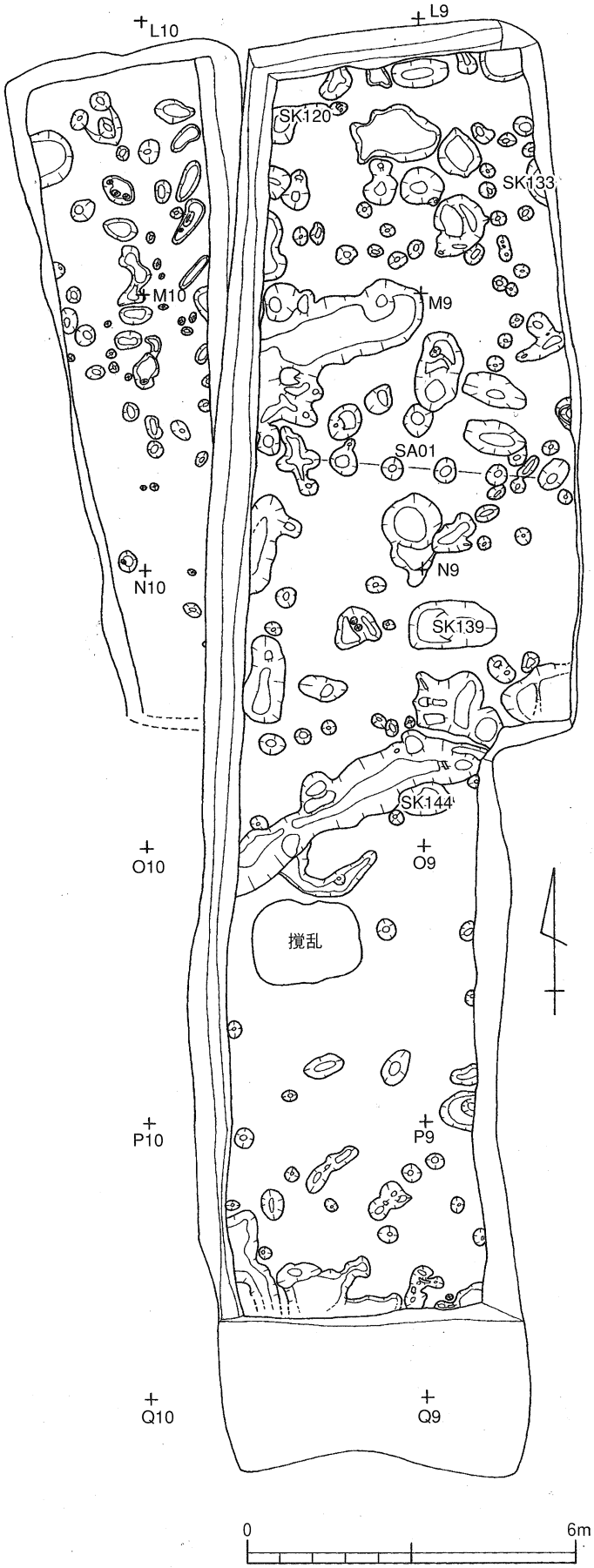
部は端部内側の突出が強調されて来ており、乗岡実氏の編年の中世３期bに相当する遺物と考えられる。8は内面に一単位９条の擂目を残す。胎土が須恵質で、やや古い様相がある。9～10は内面に一単位10条の擂目を残す。10は内面見込には擂目を施していない。使用頻度が高かったのか擂目の摩耗が著しい。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。11は甕である。口縁部内外面をナデ調整し、頸部内面にハケ目調整を施す。口縁部は内傾しながら立ち上がり、徐々に直立する。端部は外側に



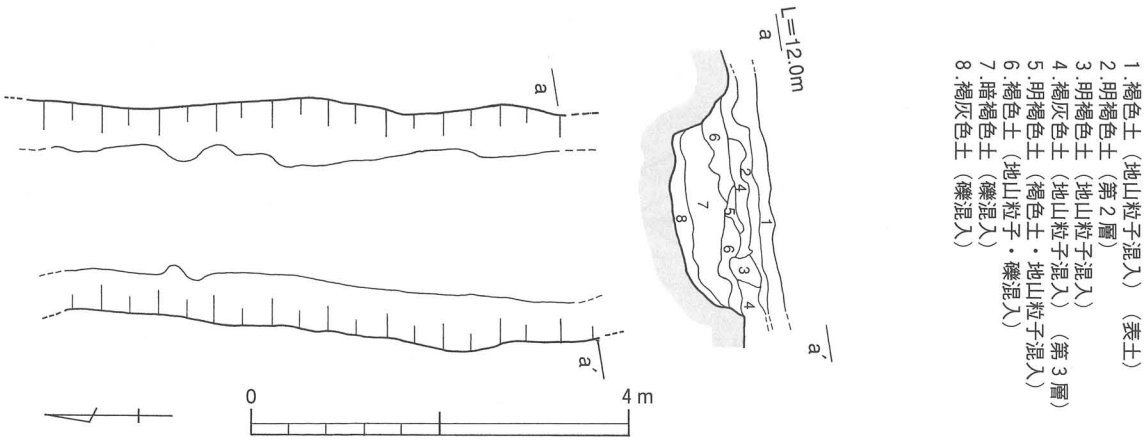
第11図　遺構平面図４（S＝１／120）

丸く折り曲げ玉縁状に仕上げている。12～13は在地の擂鉢で、内外面ナデ調整を施している。12は内面に数条の擂目を残す。口縁部は外反気味に立ち上がる。13は内面に不均等な間隔の擂目を残す。14は瓦質奈良火鉢の浅鉢で、内外面ナデ調整を施し、外面には菊花文と2条の沈線によって区画された珠文帯が残る。口縁部は内側に内湾しながら立ち上がり、端部では平坦面を作る。15は土製支脚の裾部である。欠損部が多く穿孔の有無は不明である。16～17は土錘である。16は風化のため外面の調整は不明である。直径5mm程度の穿孔を施している。17は直径4mm程度の穿孔を施し、外面はヘラミガキ調整している。18は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。19は平瓦もしくは在地の甕の破片である。外面に格子タタキが残る。20～21は肥前系陶器で、内外面施釉し、高台周辺を露胎としている。20は胎土目積焼成されたものである。高台は削り出しで、三日月高台としている。21は内面見込みに蛇ノ目ハギを施し、高台は削り出しで、三日月高台としている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。22～23は肥前系染付である。22は皿で、内外面に染付を施す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。23は碗で、外面に染付を施し、内外面ともに貫入が入る。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。24は陶胎染付椀で、外面には染付を施し、内外面ともに貫入が入る。高台見込は高台外側より深く繰り込み、高台畳付を露胎としている。

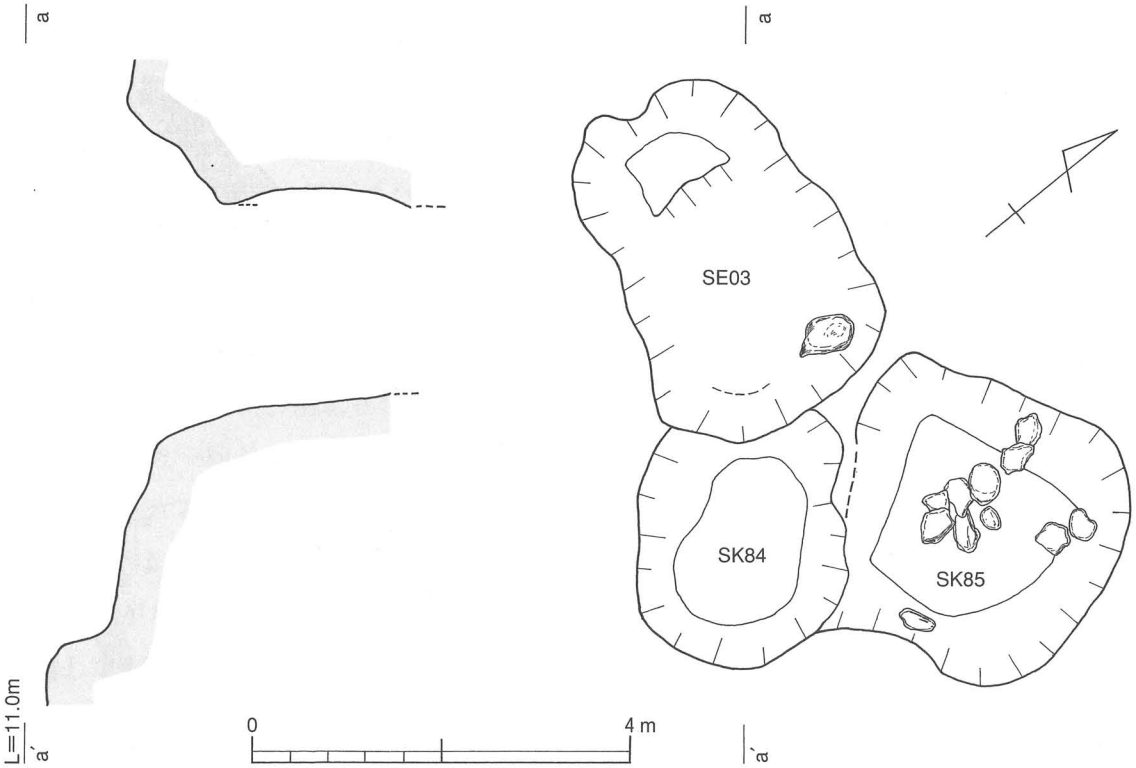
第22図1は擂鉢で、内外面を回転ナデ調整、外面下部を回転ヘラ削り調整し、内面に



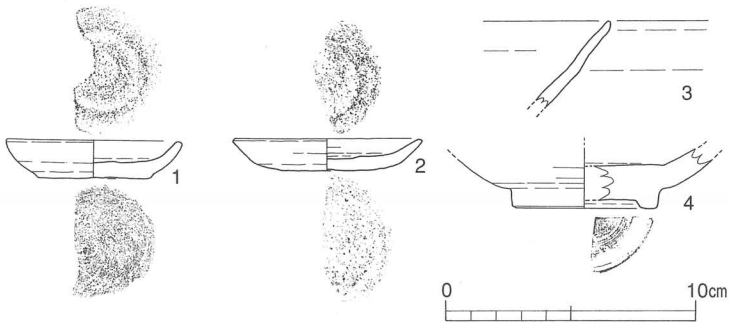
第12図　遺構平面図5（S＝1／120）



第13図　SD15遺構実測図（S＝1／80）



第14図　SE03・SK85・SK84遺構実測図（S＝1／80）



第15図　SE03出土遺物

は擂目を密に施すが、口縁部付近で一部擂目を施していない。口縁部の立ち上がりは、外方に屈曲した後、若干折り返す。端部は外側に折り曲げて肥厚させている。2は都市型焙烙で、内外面をナデ調整し、底部にはヘラ削り調整を施す。口縁部はやや内側に直線的に伸び、端部は丸く仕上げている。3

は瓦質の丸瓦で、凸面にナデ調整を施し、凹面にはコビキ痕及びヘラ状工具痕が残る。凹面及び側面に粘土の接合痕が残る。

＜SD 17＞（第8、23図）

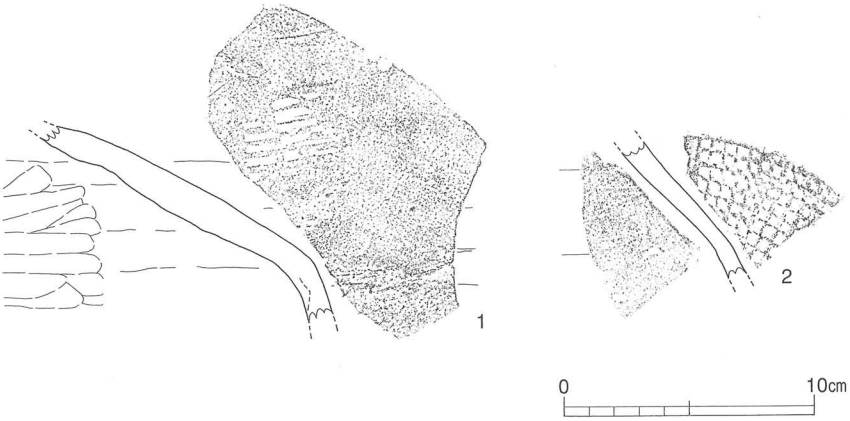
SD 01と切り合い関係にある遺構で、ほぼ同方向に重なっていることから、溝の大部分を欠損している。切り合い関係からSD 01より古い遺構と考えられる。

第23図は、鉈状の鉄製品で、土圧のためか大きく湾曲している。柄側には穿孔が施されている。

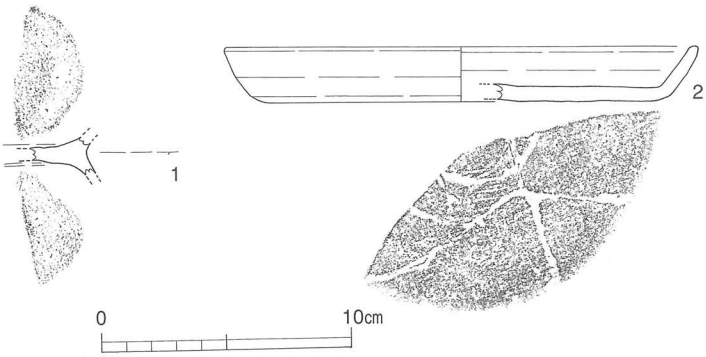
＜SK 08＞（第24～25図）

東西0.66 m、南北0.62 m、深さ約0.7 mを測るピットで、床面に東西25㎝、南北26㎝、厚さ12㎝の根石が置かれている。出土遺物から13世紀の遺構と考えられる。一方、ピット検出面南隣には、10㎝程度の礫が集石されており、ピットとの関連性も考える必要がある。

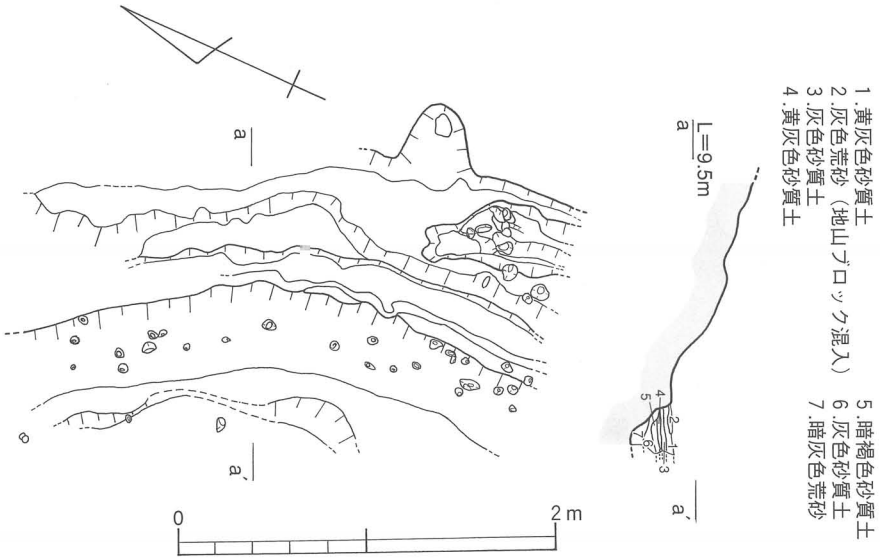
第25図1～3は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施している。



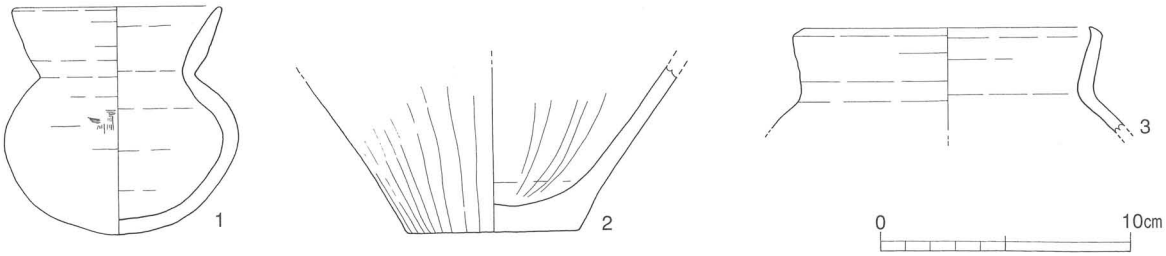
第16図　SK85出土遺物



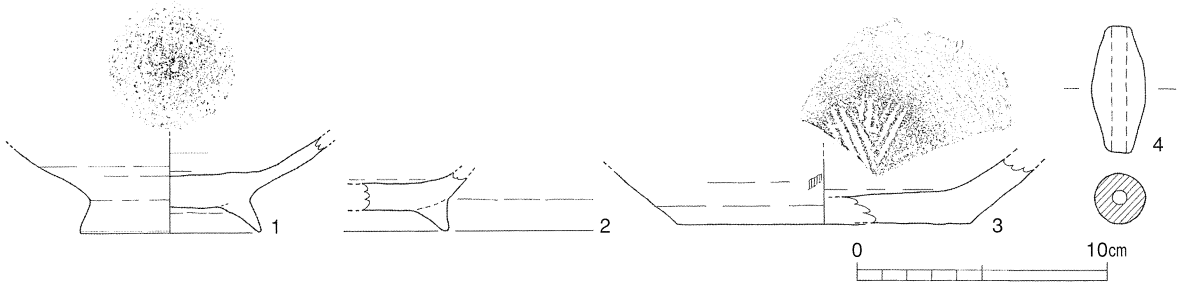
第17図　SK76出土遺物



第18図　SD30遺構実測図（S＝1／40）



第19図　SD30出土遺物



第20図　SD20・P116・P120出土遺物

1は小皿で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2～3は坏で、2は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は内面に回転ナデを施した後ナデている。底部は回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がった後、端部内側を尖り気味に仕上げる。内外面にタールが付着しており、燈明具と考えられる。4は在地のものと推定される土器片で、甕の一部と考えられる。内外面ともにナデ調整を施し、外面には文様入りの格子タタキを施している。勝間田焼などの模倣と考えられる。5は在地の捏鉢で、内面はハケ目の後、ナデ調整、外面はハケ目調整を施し、口縁部付近はナデ消している。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部には平坦面を作る。

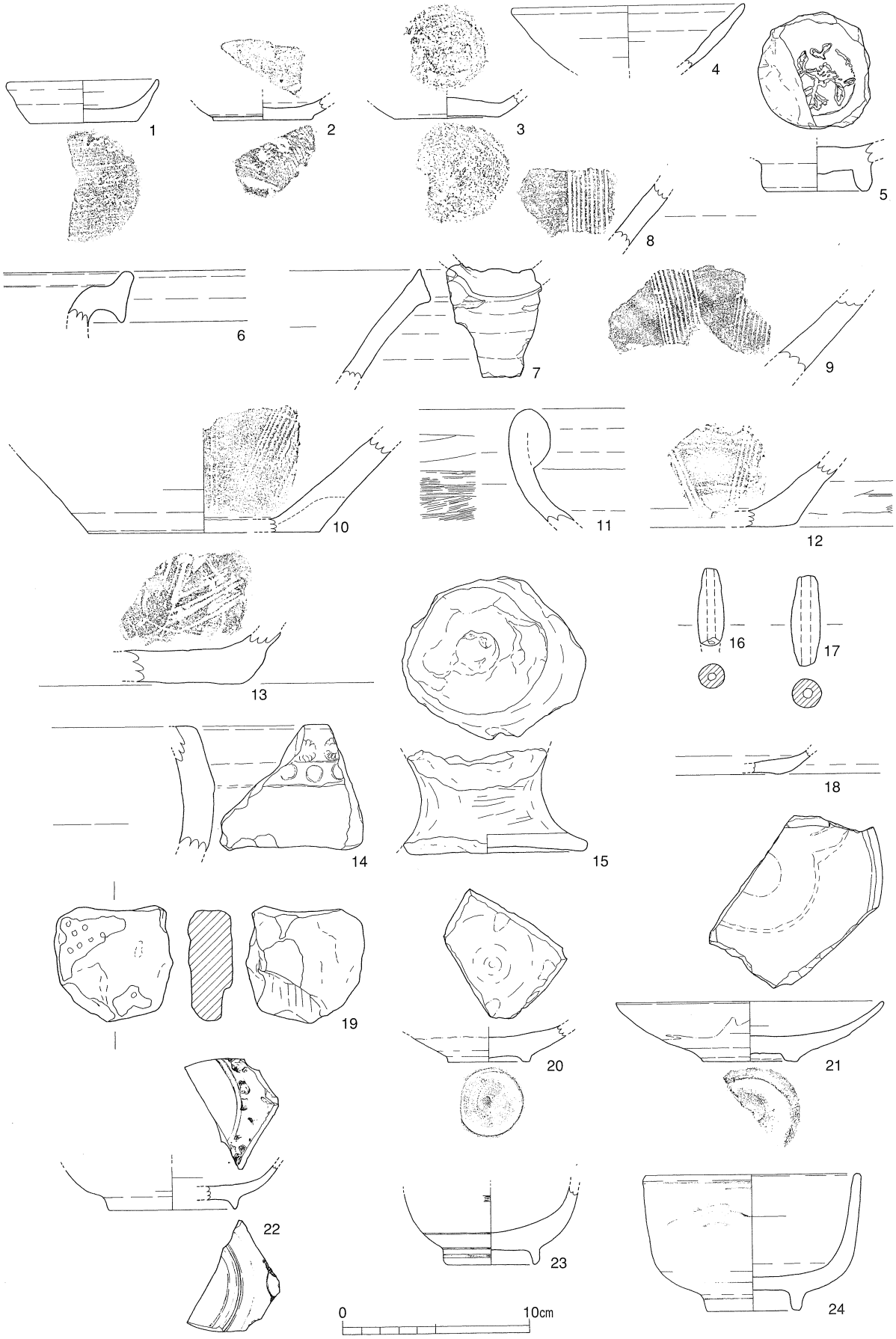
＜SE 02＞（第26～27図）

縦板方形の井戸枠を持つ井戸で、縦板を支える横木は3重に施されている。井戸枠の規模は、外側の横木外周で、東西1.27 m、南北0.47 m以上を測るが、横木外側に縦板が残ることから、実際の規模はこの大きさより一回り大きくなるものと考えられる。出土遺物から14世紀後半から15世紀前半の遺構と考えられる。

第27図1～5は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小型の坏で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖らせている。2は小皿の薄手のもので、底部に回転糸切痕が残る。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。内面にタールが付着するため、灯明具と考えられる。3～5は坏で、3～4は底部に回転糸切痕を残す。4は内面にタールが付着するため、燈明皿と考えられる。口縁部は内湾しながら立ち上がる。5は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、器壁と内面見込の界線は不明瞭である。6は瓷器系陶器の頸部で、内外面ともにナデ調整を施す。頸部内面には指頭圧痕が残る。7は備前焼甕で、口縁部の玉縁状の部分の一部が出土している。乗岡氏の中世3期から中世4期の遺物と考えられる。外面にナデ調整を施している。8～10は在地土器である。8は内面はナデ調整した後擂目を施し、外面はハケ目調整の後指頭圧痕を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。9は擂鉢で、内面にはナデ調整の後、数条の擂目を施し、外面にはハケ目の後、ナデ及び指頭圧痕を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。10は土鍋で、内外面ともにハケ目の後ナデを施す。口縁部の立ち上がりは外反するが、端部は欠損している。

＜SK 02、SK 03＞（第28～29図）

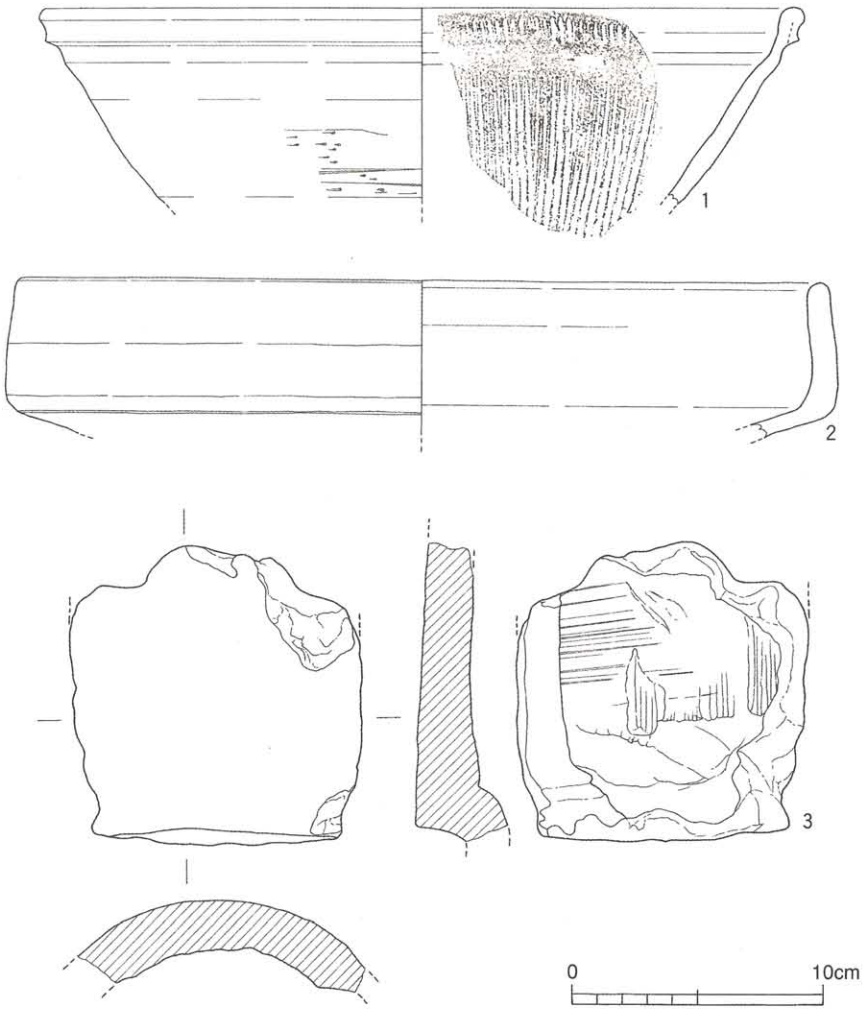
SK 02は東西0.66 m、南北0.74 m、深さ0.46 mを測る土壙で、土師質土器が1点出土している。



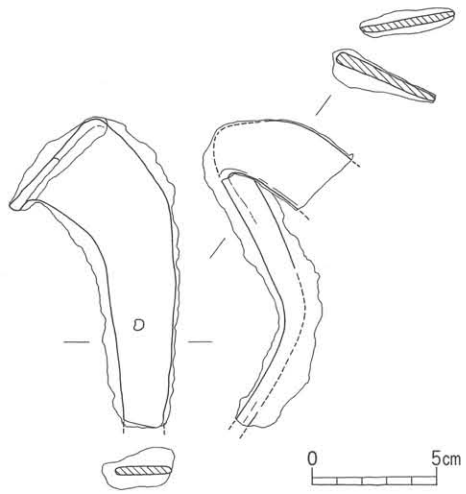
第21図　SD01 出土遺物 1

遺構の時期は、出土遺物とSK 03との切り合い関係から、SK 03より新しい時期と考えられる。SK 03は東西1.34 m以上、南北1.16 m、深さ0.39 mを測る。弥生土器が出土している。

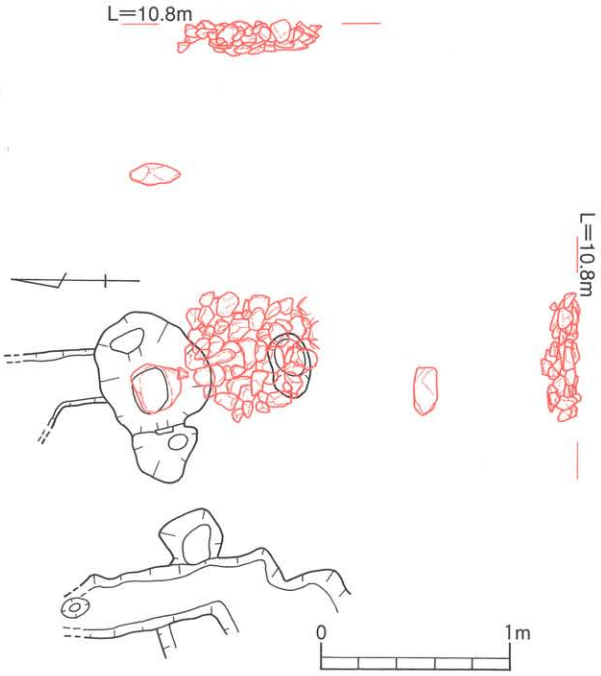
第29図1は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。2～4は弥生土器である。2～3は甕の口縁部で、2は内外面ナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、端部は肥厚させ上下を尖り気味に仕上げている。端部には刻目文を入れた後、2条の凹線を入れている。3は内面は調整不明であるが、外面にはナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部は肥厚させ、上下を尖り気味に仕上げて、3条の凹線を入れている。4は甕の底部で、内面



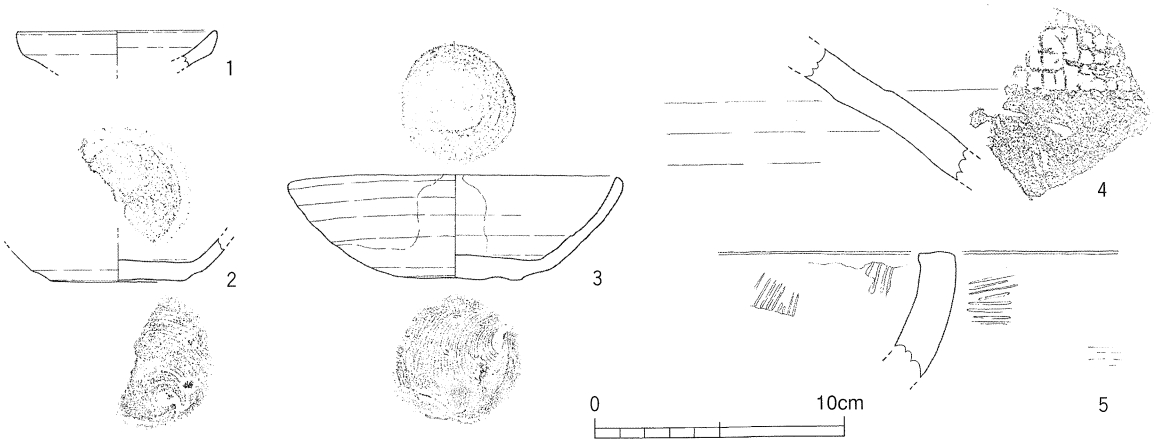
第22図　SD01 出土遺物2



第23図　SD17 出土遺物



第24図　SK08 遺構実測図（S＝1／40）



第25図　SK08出土遺物

は調整不明であるが、外面にはヘラミガキ調整を施している。1はSK 02の出土遺物、2～4はSK 03の出土遺物である。

＜SD 13＞（第8、30図）

長さ8.9 m以上、幅約0.4 m、深さ約0.18 mを測る溝状遺構で、SD 12と切り合い関係にある。切り合い関係からSD 12より古い遺構と考えられる。近世以降の陶器が出土している。

第30図1は陶器鉢で、外面施釉し、内面見込に砂粒が少量付着する。底部高台は削り出し整形しており、高台見込を高台周辺より深く抉っている。また高台周辺は釉ハギし、露胎を作っている。

＜SD 12＞（第8図）

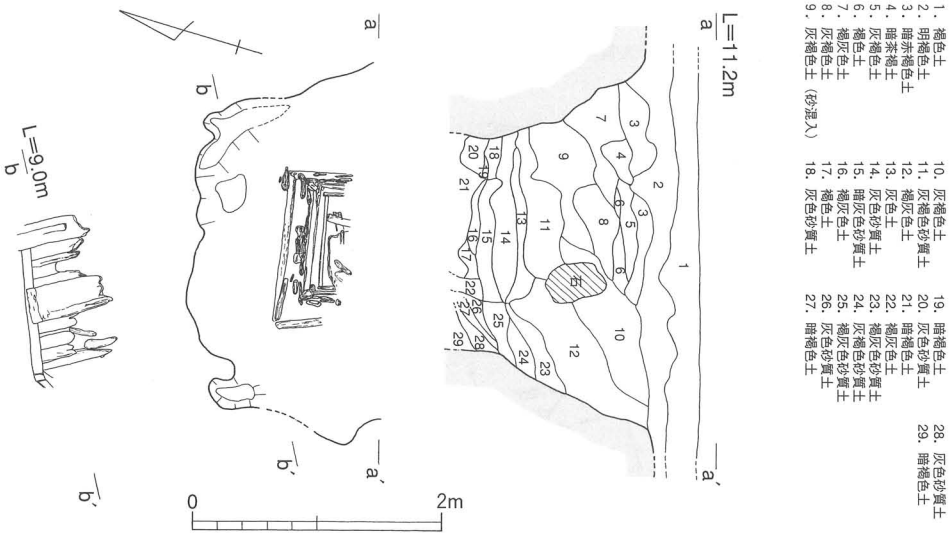
長さ9.88 m以上、幅約0.4～0.5 m、深さ0.24 mを測る溝状遺構で、SD 13との切り合い関係からSD 13より新しい遺構と考えられる。

＜SD 08＞（第31～34図）

長さ5.73 m以上、幅2.99 m、深さ0.42 mを測る溝状遺構で、溝の主軸はN～89°～Wを呈し、SD 15と垂直関係にある。壁の立ち上がりは、SD 15よりも緩やかで、南側にステップ状の平坦面が残る。遺物は土師質土器、坩堝、在地土器、瓦質土器、鉄製品など豊富で、土師質土器の時期から遺構の時期は13世紀と考えられる。しかしながら15世紀以前とされる瓦質土器角形火鉢が遺構内同層2箇所から出土しており、この火鉢が13世紀まで遡れるか検討の余地がある。

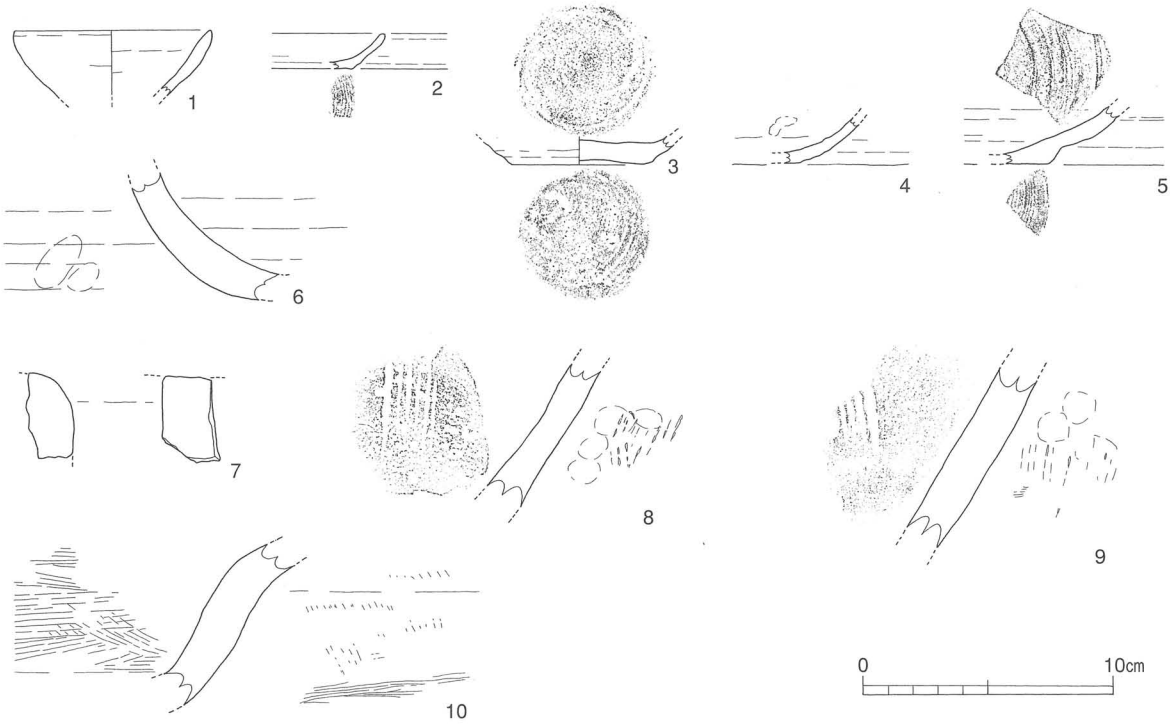
第32図1～11は土師質土器である。1～2は小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。1は口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。外面にタールが付着しており、灯明皿と考えられる。3～11は坏で、3は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。4は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面は回転ナデ調整の後ナデている。底部には回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。5～11は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。5は内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。6は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕

上げている。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。7、9は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。9は内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。8は口縁部の立ち上がりは、中程の括れのところから内湾し、直立的に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。10は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部で内側に巻き込んで尖らせている。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。11は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部で内側に巻き込んで尖り気味に仕上げている。12は坩堝で、内面には金属滓が付着する。緑青を吹いており銅滓と考えられる。

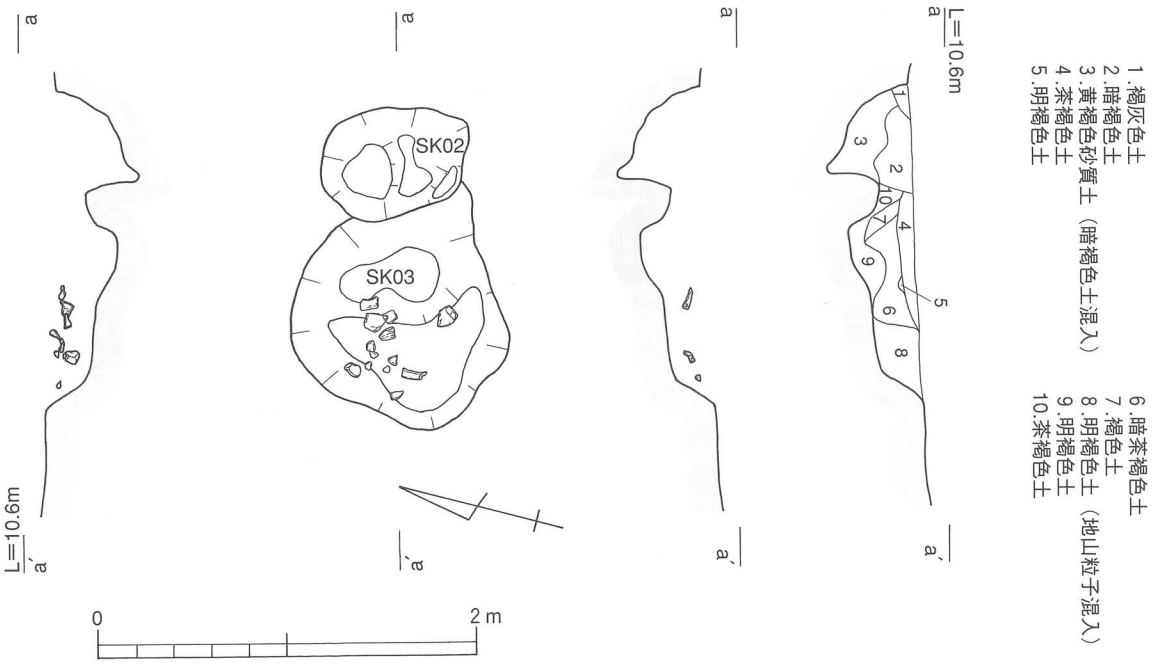


第26図　SE02遺構実測図（S＝1／60）

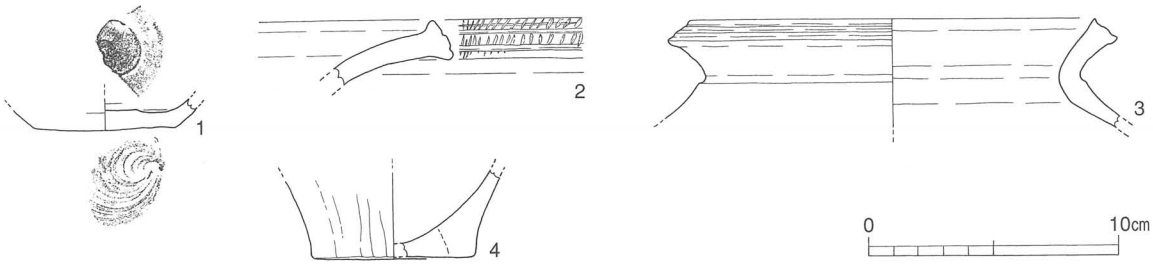
第33図1～4は在地土器である。1～2は捏鉢で、内外面ともにハケ調整した後、ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部をナデ調整し平坦面を作っている。3～4は擂鉢で、3は内面は口縁部から体部にかけてハケ目調整を施し、体部にナデ調整を施した後擂目を入



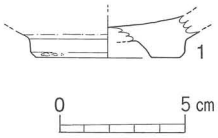
第27図　SE02出土遺物



第28図　SK02・SK03遺構実測図（S＝1／40）



第29図　SK02・SK03出土遺物



第30図　SD13出土遺物

れている。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、口唇部で内側にやや屈曲する。端部はナデ調整を施し平坦面を作っている。4は内外面ともにナデ調整を施し、体部内面には擂目が残る。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部はナデ調整を施して平坦面を作っている。5は瓦質の奈良火鉢で、角型のものである。内面はナデ調整し、外面はナデ調整及びヘラミガキ調整した後菊花文を施している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部を肥厚させて平坦面を作っている。6は瓦質土器の擂鉢で、内面はナデ調整した後擂目を施し、外面には粗いナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がる。7は砥石で、3面を使用面としていたと考えられる。

第34図1～11は鉄製品である。1～10は鉄釘で、断面方形の角釘である。釘頭の形態は1～2、5、8がL字形、4、6がT字型、3は不明で、7、9～10は釘頭が欠損している。11は刀子または鉄刀の残片で、片側に刃が作られている。

＜SD 07、SD 09、SD 10＞（第9、35図）

3条ともにトレンチ状を呈す。SD 07は長さ4.0 m、幅約0.4 m、深さ約0.15 m、SD 09は長さ3.7 m、幅約0.4 m、深さ約0.25 m、SD 10は長さ3.71 m、幅約0.4 m、深さ約0.15 mを測る。それぞれから少量の土師質土器が出土しており、近世以降の遺物を混入していないが、付近では最近まで長

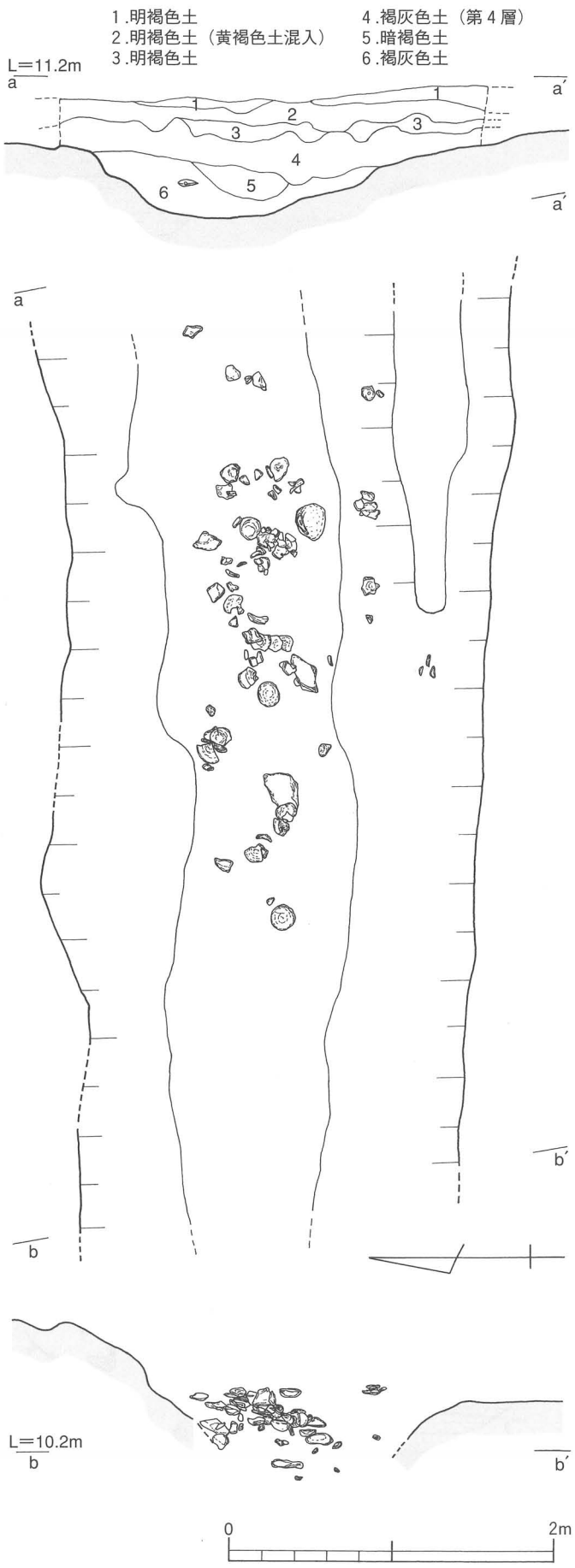
芋畑が盛んに作られていたため、長芋畑の名残である可能性もある。

第35図1～5は土師質土器で、1～3、5は坏である。1は内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部をやや肥厚させ尖り気味に仕上げる。2は内面は回転ナデの後ナデを施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3、5は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。3は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。5は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部は肥厚させて尖り気味に仕上げている。1～2はSD 09、3はSD 10、4～5はSD 07の出土遺物である。

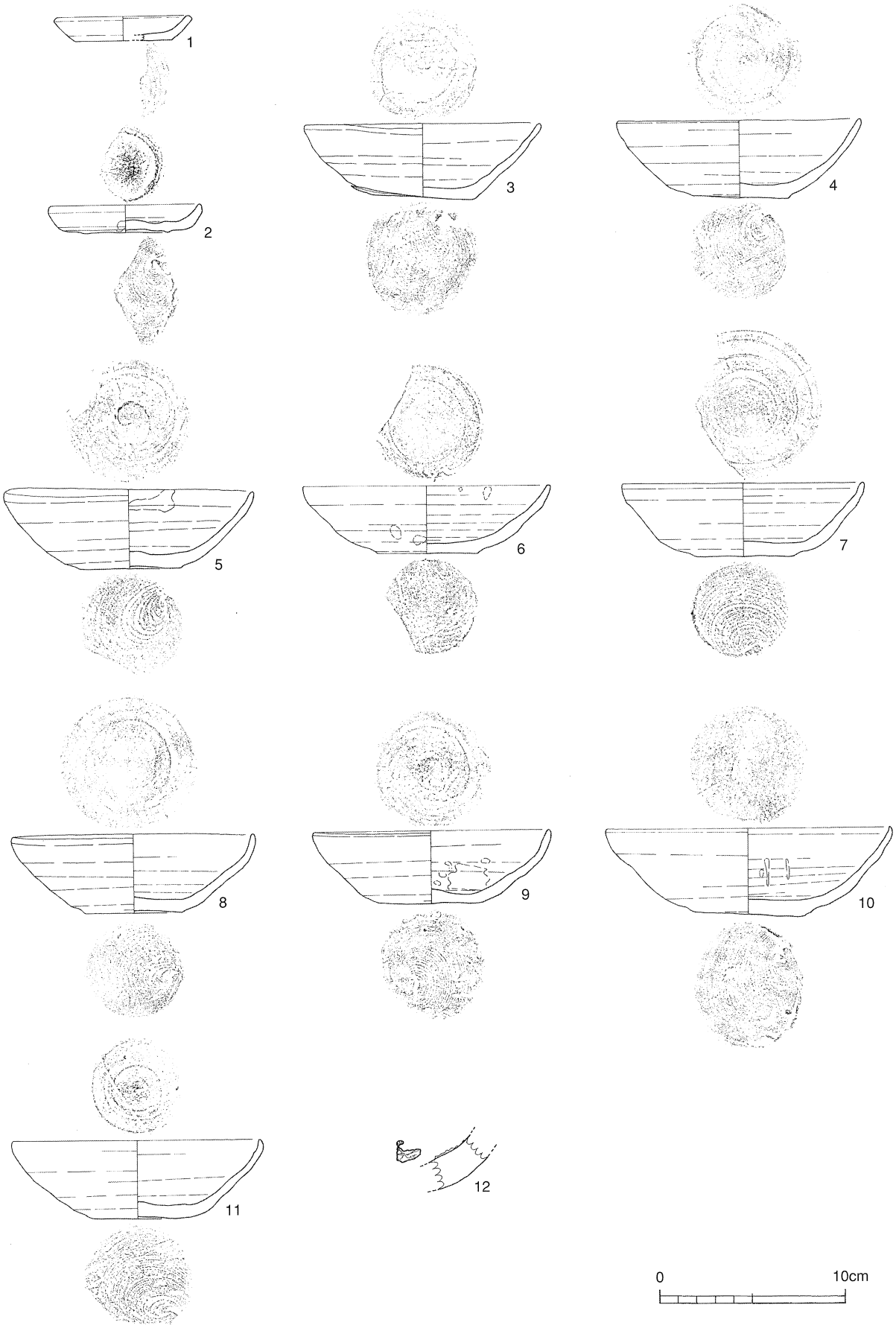
＜土器溜＞（第9～10、36図）

長さ7.6m以上、幅4.2m以上、深さ0.74m以上を測る土器溜で、埋土に包含層④層が堆積していた。

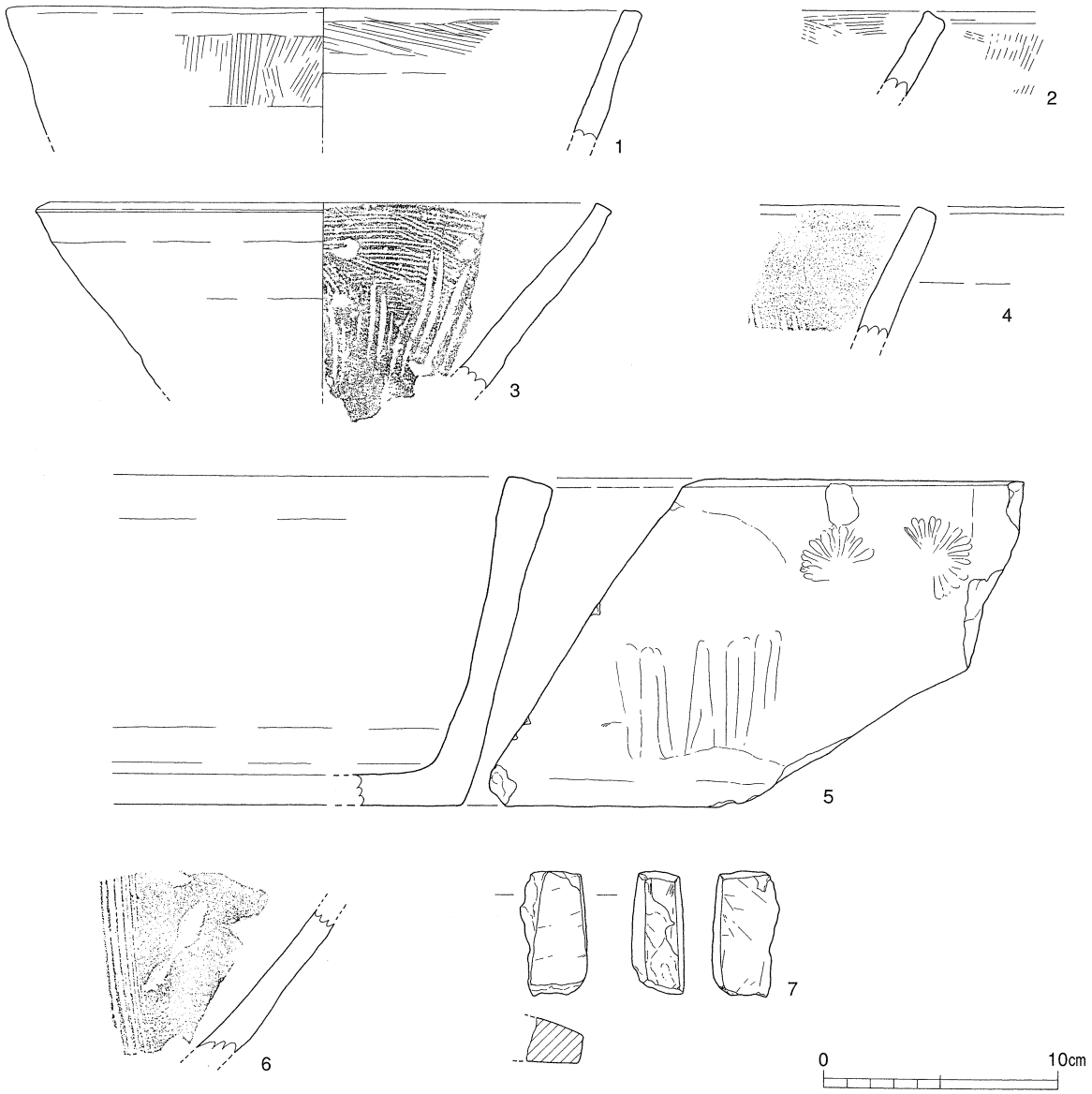
第36図1～5は土師質土器である。1は小皿で、内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。底部と器壁の境界に括れを作る。2～5は坏である。2～3は内外面回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。2は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は器壁中程で外側に屈曲し直線的に伸びる。4は内外面回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、



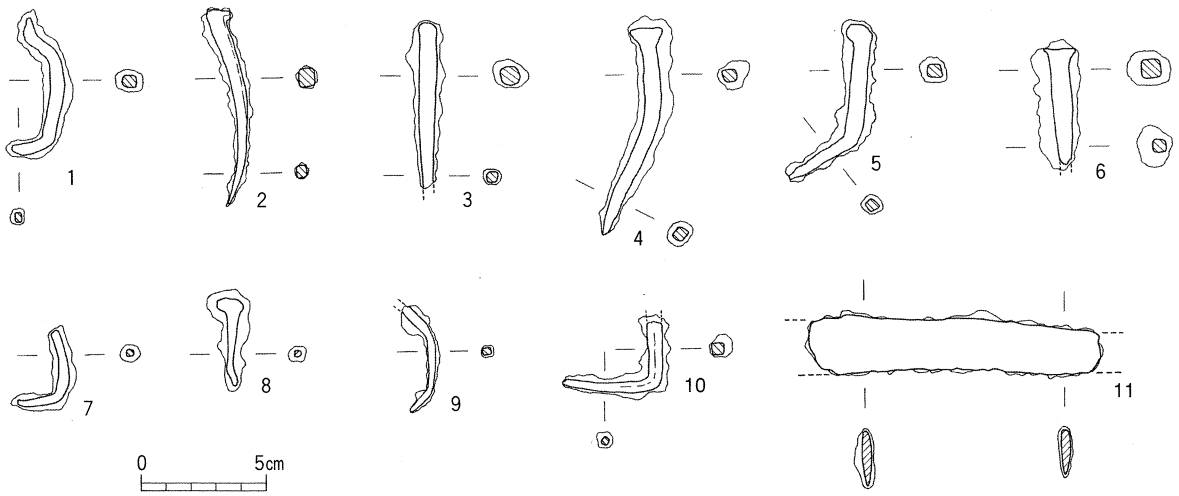
第31図　SD08遺構実測図（S＝1／40）



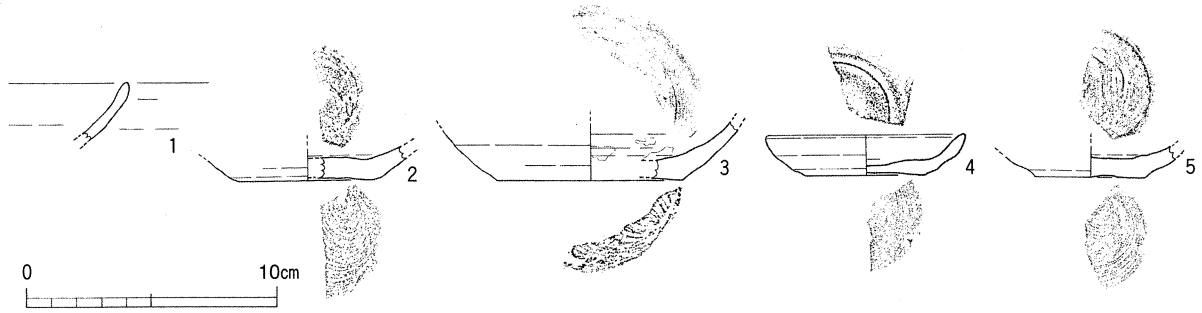
第 32 図　SD08 出土遺物 1



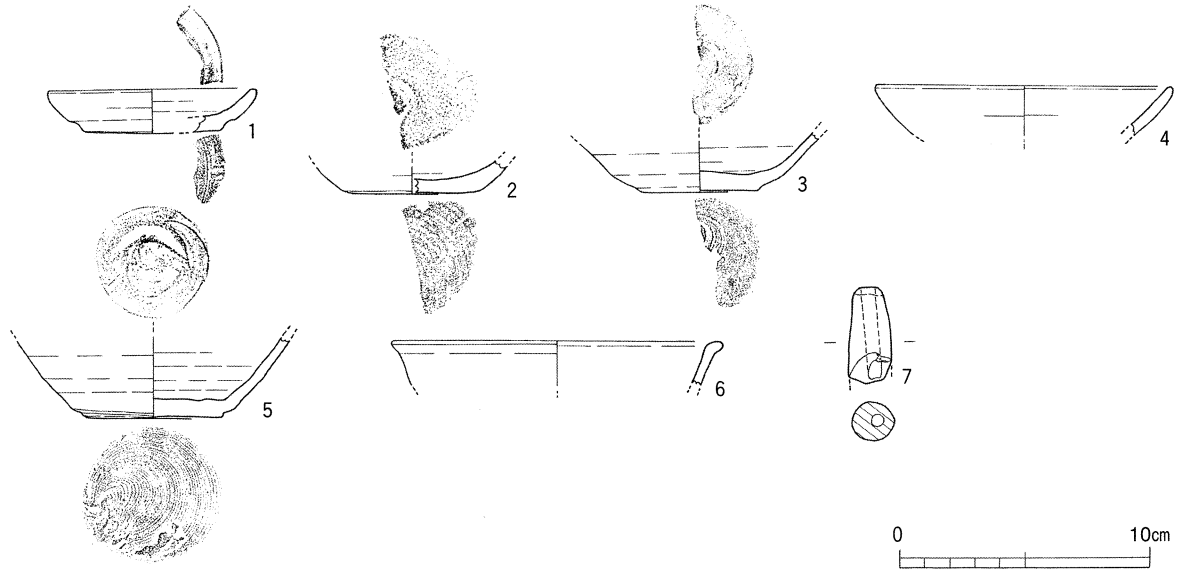
第33図　SD08 出土遺物 2



第34図　SD08 出土遺物 3



第35図　SD07・SD09・SD10出土遺物



第36図　土器溜出土遺物

内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。5は内面は回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。6は白磁碗の口縁部で、内外面施釉している。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がった後、やや肥厚させた端部を外方に屈曲させている。7は土錘で、外面をヘラミガキ調整し赤彩している。径4.5～5.5mmの楕円状の穿孔をしている。

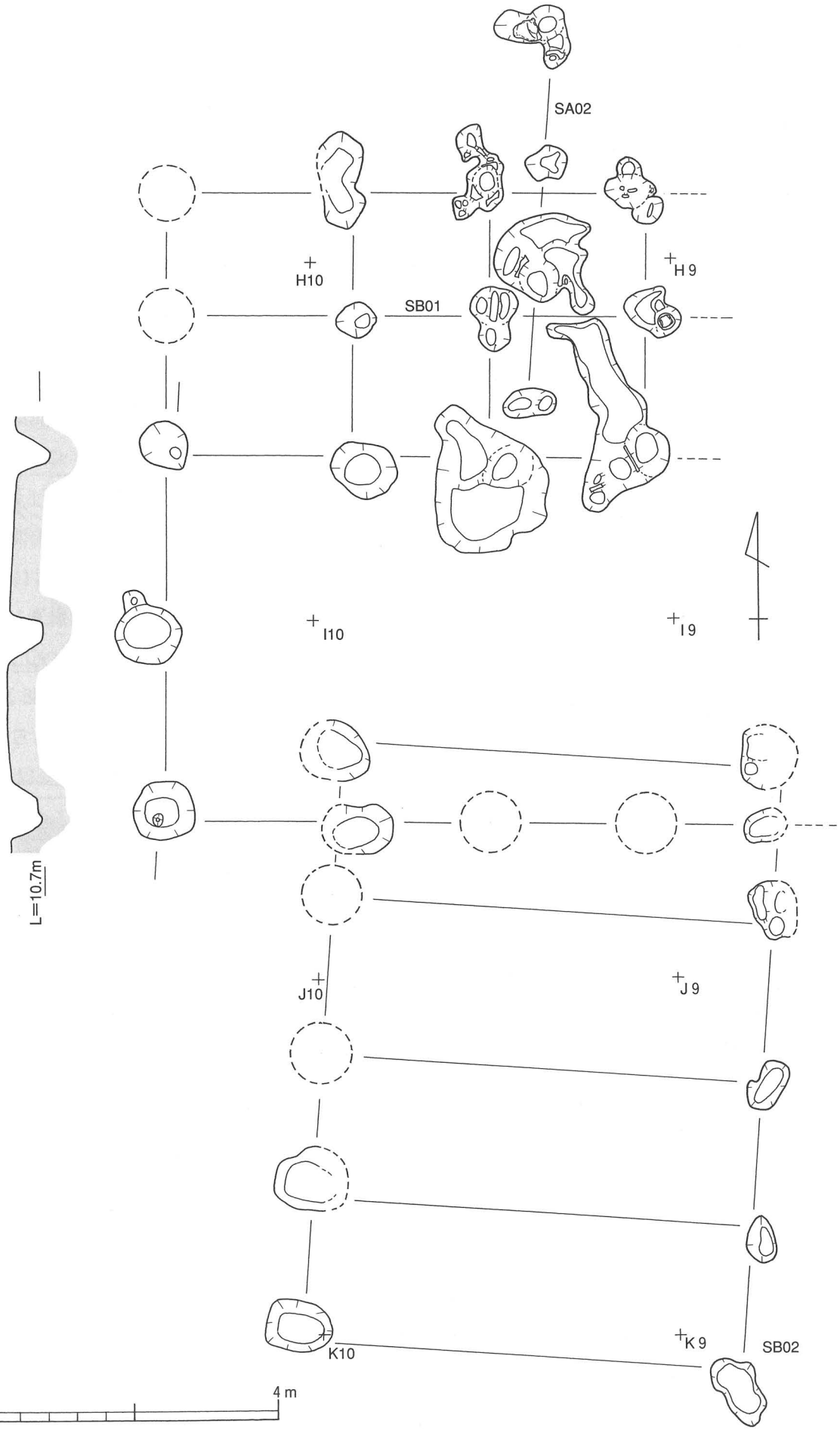
＜SA 02＞（第37～38図）

柱間約1.8m、3間の柵列で、主軸はN～5°～Eを呈す。SB 01と重複していることから、SB 01とは時期差があるものと考えられる。

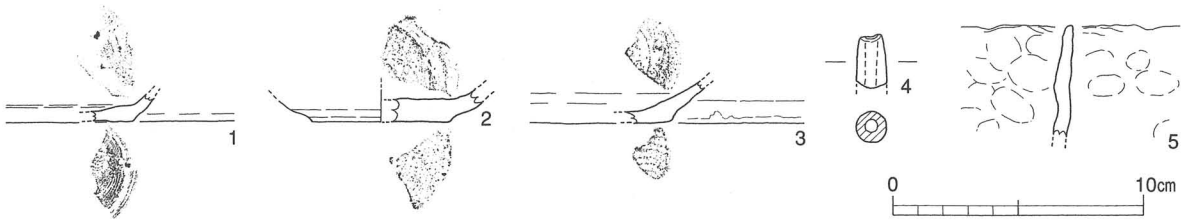
第38図1～3は土師質土器である。1は小皿で、内面は回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕の後板目を残す。2～3は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。2は内湾気味に立ち上がり、3は外方に直線的に立ち上がる。4は外面をヘラミガキ調整し、直径5mm程度の穿孔を施す。5は製塩土器で、内面にナデ調整及び指頭圧痕、外面に指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部の屈曲部から外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げる。

＜SB 01＞（第37、39図）

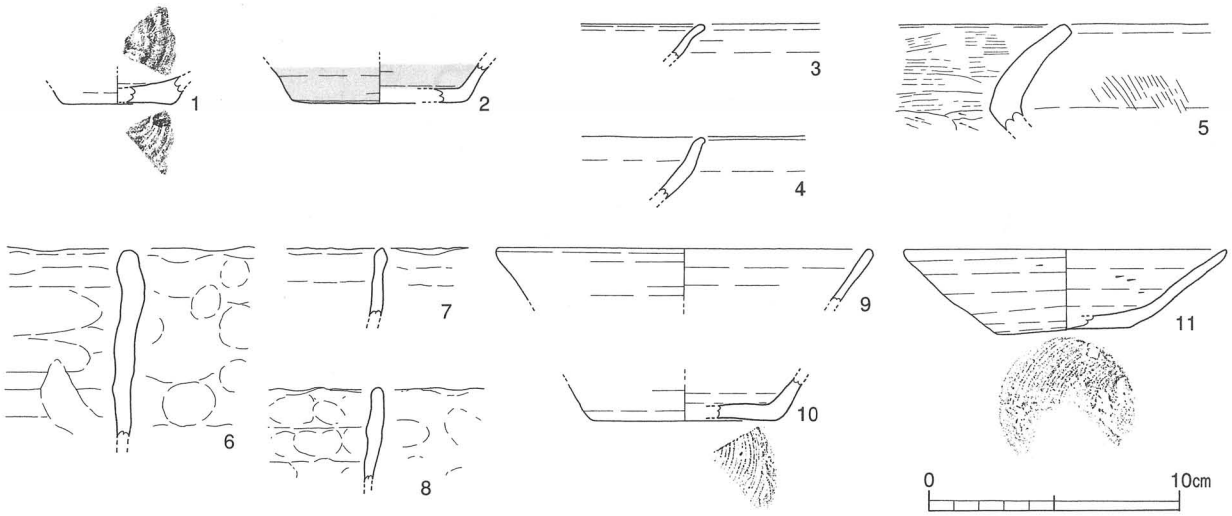
2×2間以上の総柱部分と2×4間以上の側柱建物跡が結合した状態で検出されており、寺の本堂になると考えられる。総柱部分は本堂の内陣と考えられる部分で、東端のピット1穴の床面に平石



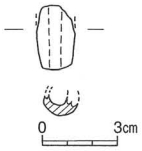
第37図　SA02・SB02・SB01 遺構実測図（S＝1／80）



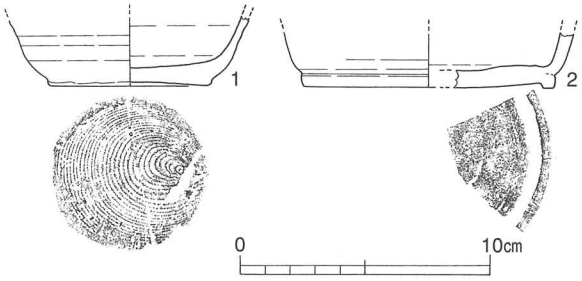
第38図　SA02出土遺物



第39図　SB01出土遺物



第40図　P44出土遺物



第41図　SB02出土遺物

が埋設されている。平石は唯一残った根石の可能性もあるが、本堂遺構の内陣には、中央から外した位置に地鎮のための石を埋設する例があり、この遺構もその可能性を考える必要がある。内陣の両側には脇陣があると推定されたが検出できなかった。側柱部分は、この脇陣と内陣に対応して南側に伸びるものと考えられ、本堂の外陣にあたる部分と考えられる。建物の軸は南北でN～1°～E、東西でN～89°～Wで、SD 15及びSD 08の軸との平行関係で一致する。遺物の時期と建物の平行関係から13世紀の遺構と考えられる。

第39図1～4、9～10は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿、2～4、9～10は坏で、このうち2～3、9は赤彩土器である。1は底部に糸切痕が残る。2は内面に赤彩を施す。底部の調整は不明で、立ち上がりは外反気味に立ち上がる。3、9は内外面に赤彩を施す。3は口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がった後外傾する。9は口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を肥厚させ丸く仕上げている。4は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がった後外反させ、端部は丸く仕上げている。10は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程で外方に屈曲し直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。内面に少量の漆が付着している。5は土師器甕で、内面は口縁部から頸部にハケ調整を施し、体部にヘラ削り調整を施す。外面は口縁部にナデ調整を施し、頸部にハケ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち

上がり、端部を平坦気味に仕上げている。6～8は製塩土器である。6は内面にナデ調整、外面に指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは口唇部で内傾し、端部は丸く仕上げている。7は内面にナデ調整、外面に粗いナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外形気味に立ち上がり、端部は肥厚させ尖り気味に仕上げている。8は内外面に指頭圧痕を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。11は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。1～8は内陣の出土遺物、9～11は外陣の出土遺物である。

＜P 44＞（第10、40図）

土錘の破片が1点出土している。周辺は土錘の出土率がやや高い。SB 01と重複していることから、SB 01とは時期差があるものと考えられる。

第40図は土錘で、外面にヘラミガキを施す。直径5mm程度の穿孔を施している。

＜SB 02＞（第37、41図）

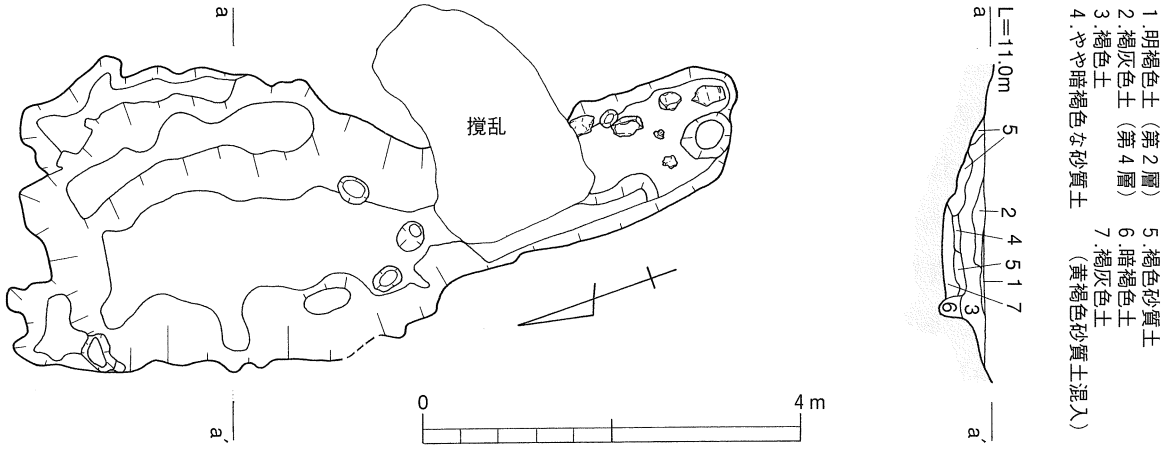
4×1間以上の建物跡で、建物の軸は南北でN～4°～E、東西でN～86°～Wで、SA 02の軸と平行関係で一致する。

第41図1は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。2は須恵器坏で、内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデを施している。底部は回転ヘラ切りを施した後高台を接合している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。

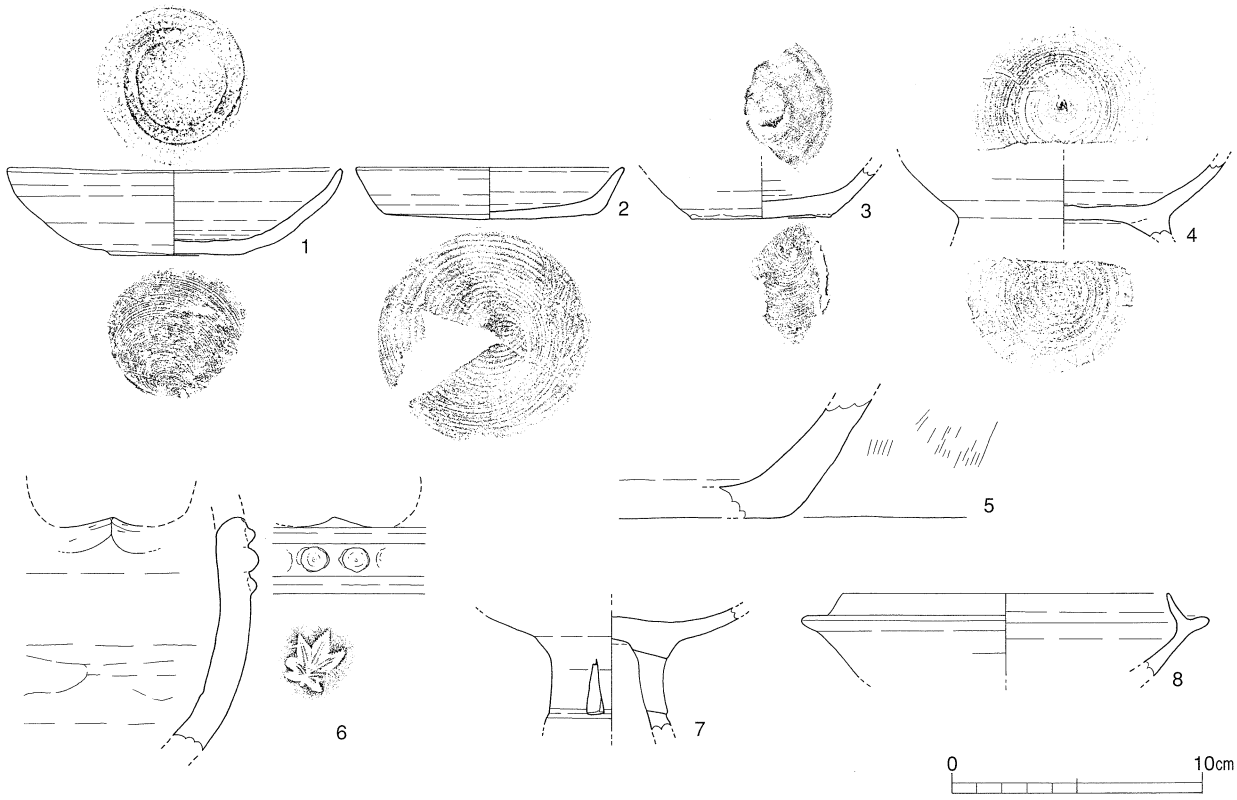
＜SK 38＞（第42～43図）

長さ8.1m、幅3.34m、深さ0.5mの南北縦長の土壙で、瓦質土器風炉等が出土している。

第43図1～4は土師質土器坏で、1は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデを施している。底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程で括れ内湾気味に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。2は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。底部に少量の朱が付着する。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。4は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼り付けて回転ナデ調整している。内面に少量のタールが付着しており、灯明具の可能性がある。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は在地土器捏鉢で、内面にナデ調整、外面は底部周辺でナデ調整、体部



第42図　SK38遺構実測図（S＝1／80）



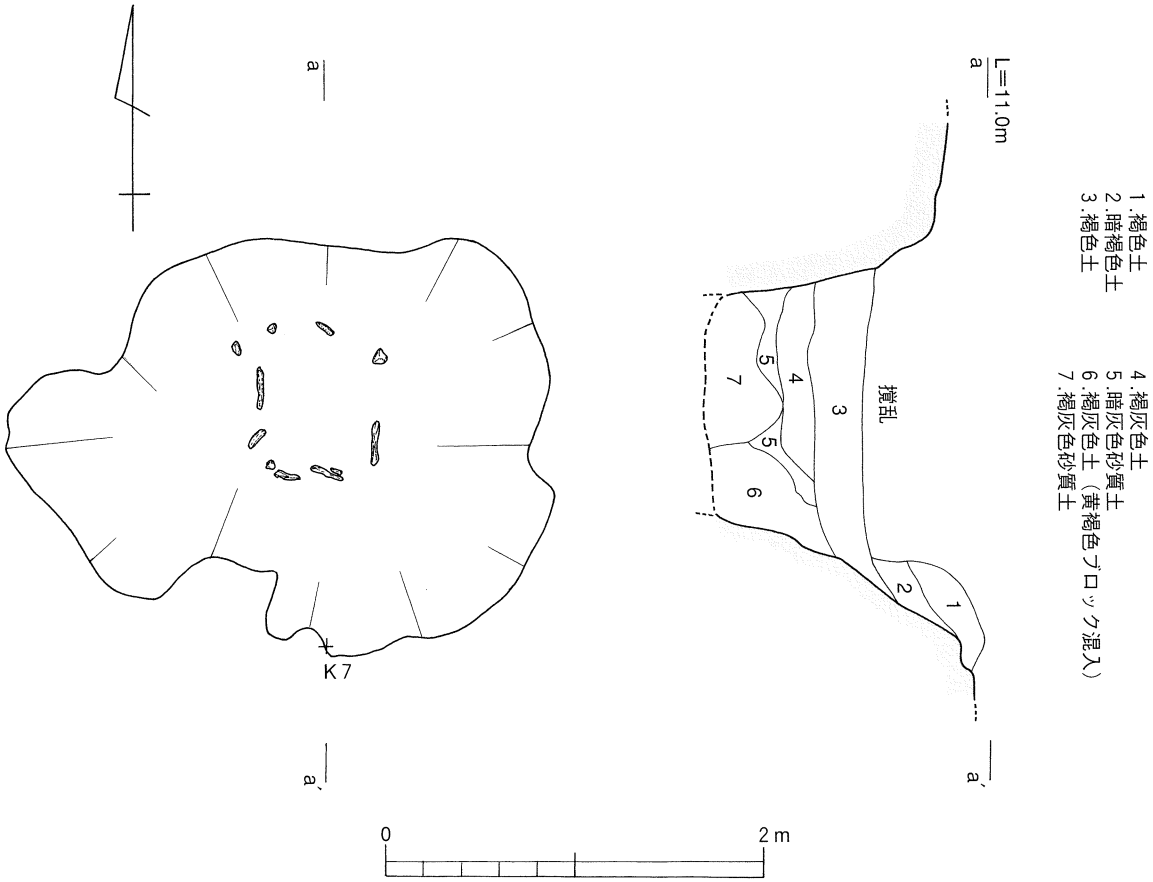
第43図　SK38出土遺物

でハケ目調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。6は瓦質土器風炉である。内面に粗いナデ調整、外面にナデ調整及びヘラミガキ調整を施し、2条の貼付突帯の間に珠文を貼付している。貼付突帯の上部には透かしの一部が残り、下部には紅葉のスタンプ文が施されている。7～8は須恵器である。7は高坏で、内面は回転ナデ調整の後ナデ調整し、外面は回転ナデ調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。脚部は3方向に三角透かしを施し、透かしの下に1条の沈線を残す。8は坏身で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部のかえりは反り上がるように立ち上がり、端部は尖らせている。

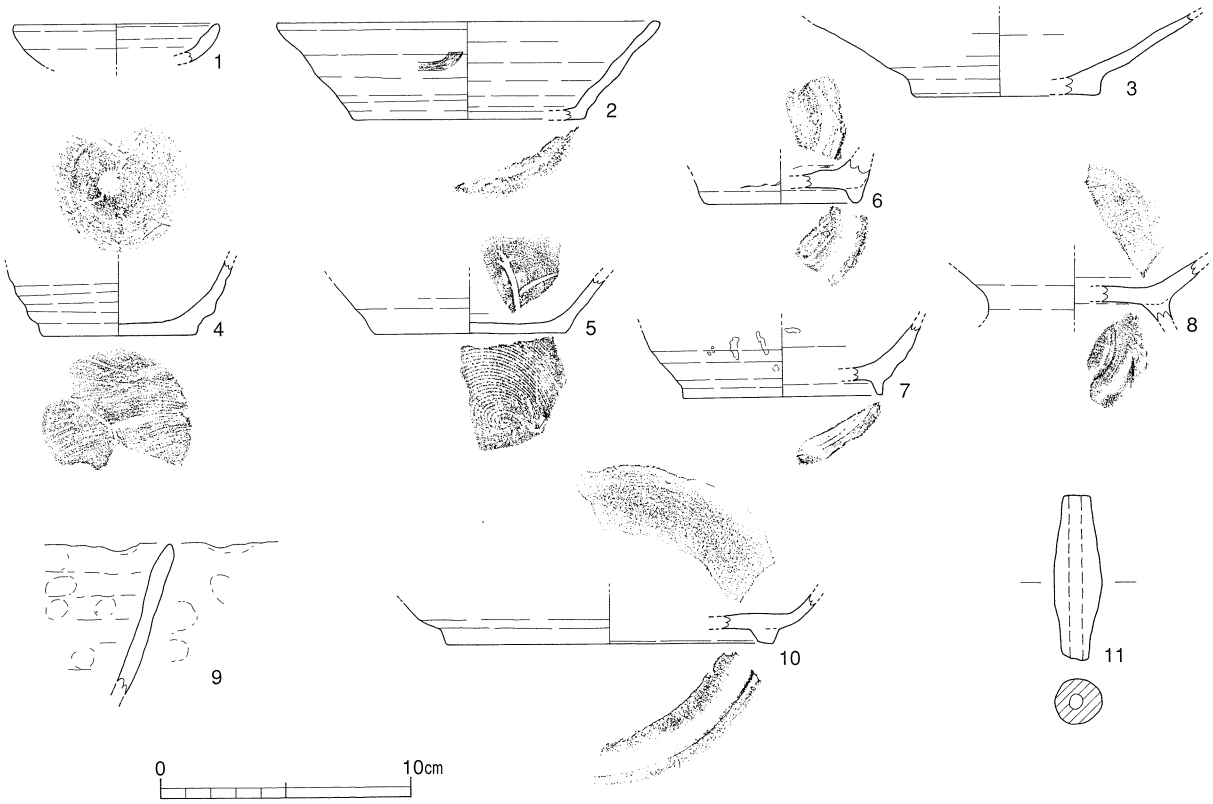
＜SE 01＞（第44～45図）

井戸枠は残存状況が悪いものの、元位置の井戸枠と杭から復元すると、方形状の井戸枠になるものと考えられる。上面は後世の撹乱により削平されているが、堀方は現状で東西2.9 m、南北2.2 mを測る。壁の立ち上がりは、北側で外反しながら立ち上がり、南側で外反気味に立ち上がる。遺物から13～14世紀の遺構と考えられる。

第45図1～8は土師質土器で、1～3、5～8は内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿で、口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。2～8は坏である。2は内外面に朱を施した後、外面に墨書を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。3は外方に直線的に立ち上がる。底部を強調して作っており、器壁と内面見込の界線は明確でない。4は内面に回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には静止糸切痕が残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は底部に回転糸切痕、内面見込にヘラ状工具痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。6は底部に高台を後付し、ナデ調整している。7は底部に高



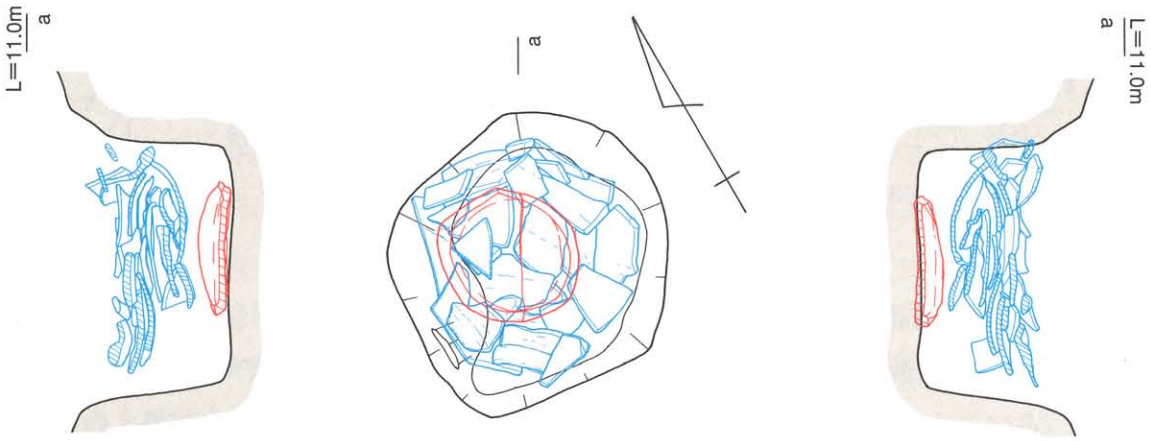
第44図　SE01 遺構実測図（S＝1／40）



第45図　SE01 出土遺物

台を作り、高台見込には回転ヘラ削り調整を施す。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。8は底部に回転糸切を施した後高台を後付し、回転ナデ調整を施している。内面には少量の朱が付着している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。9は製塩土器で、内面はナデ調整の後、指頭圧痕を施し、外面には指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。10は須恵器盤で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を後付けして、ナデ調整している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。11は土錘で、外面にはヘラミガキ調整を施す。径5.0～5.5 mmの穿孔を施す。

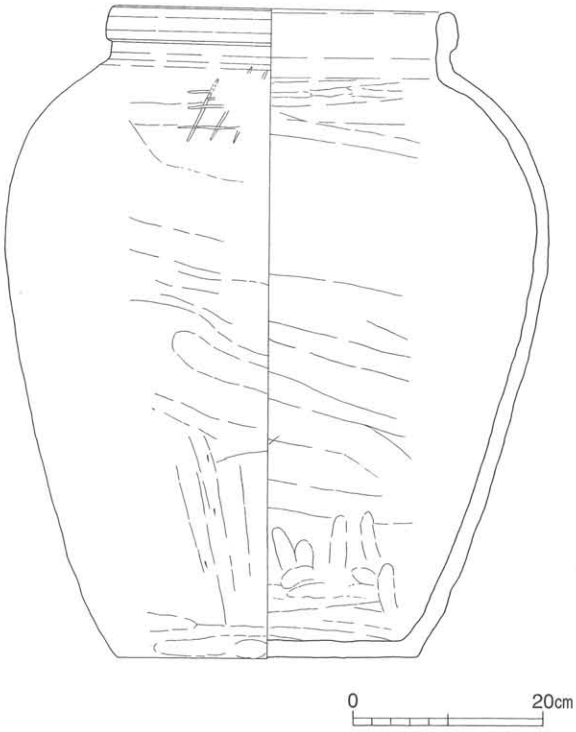
＜SK 41＞（第46～47図）



第46図　SK41遺構実測図（S＝1／20）

備前焼の大甕を埋設していたと考えられる土壙で、上面は後世の撹乱により削平されている。堀方は現状で東西0.76 m、南北0.74 m、深さ0.43 mの平面隅丸五角形状を呈す。埋土中には同一個体の備前焼甕片が大量に混入しており、床面には底部片が元位置で残存していた。大甕の時期から15世紀後半の遺構と考えられる。

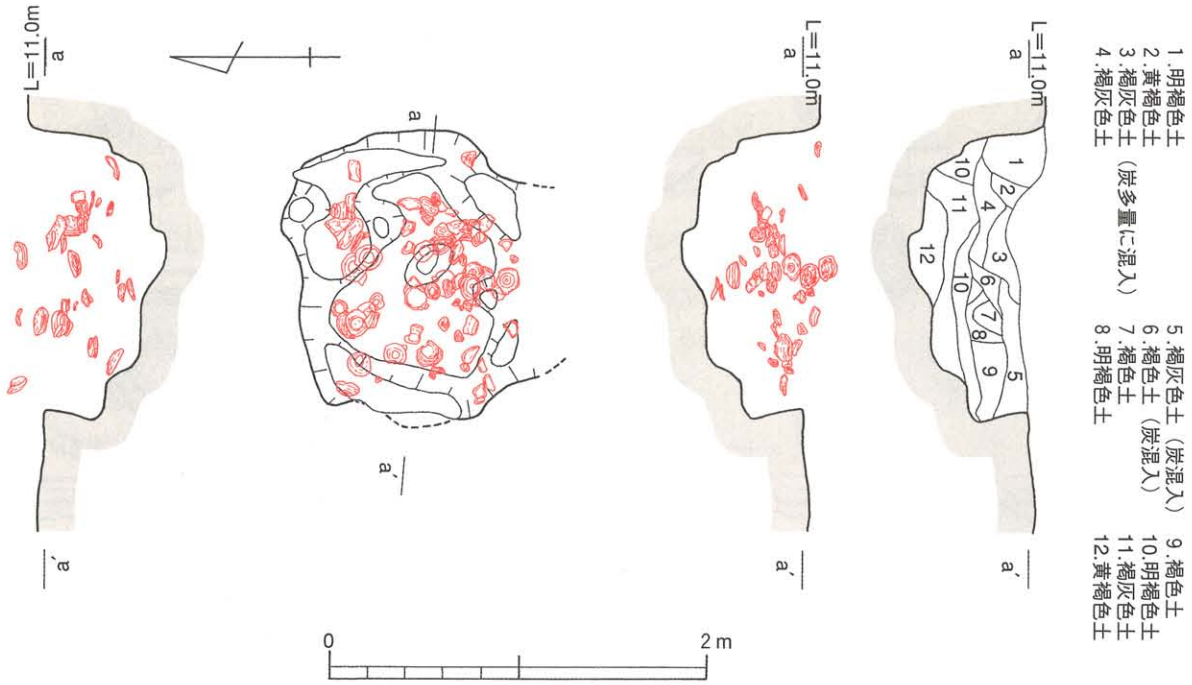
第47図は備前焼の甕で、内外面ともにナデ調整を施し、肩部にヘラ描きの窯印を残す。口縁部は直立的に立ち上がり、玉縁状の口縁を作る。端部は平坦気味に仕上げている。乗岡氏の編年の中世5期に相当する遺物と考えられる。



第47図　SK41出土遺物

＜SK 09＞（第48～51図）

多量の遺物を含む土壙で、上面は後世の撹乱により削平されているが、現状で東西1.56 m、南北1.36 m以

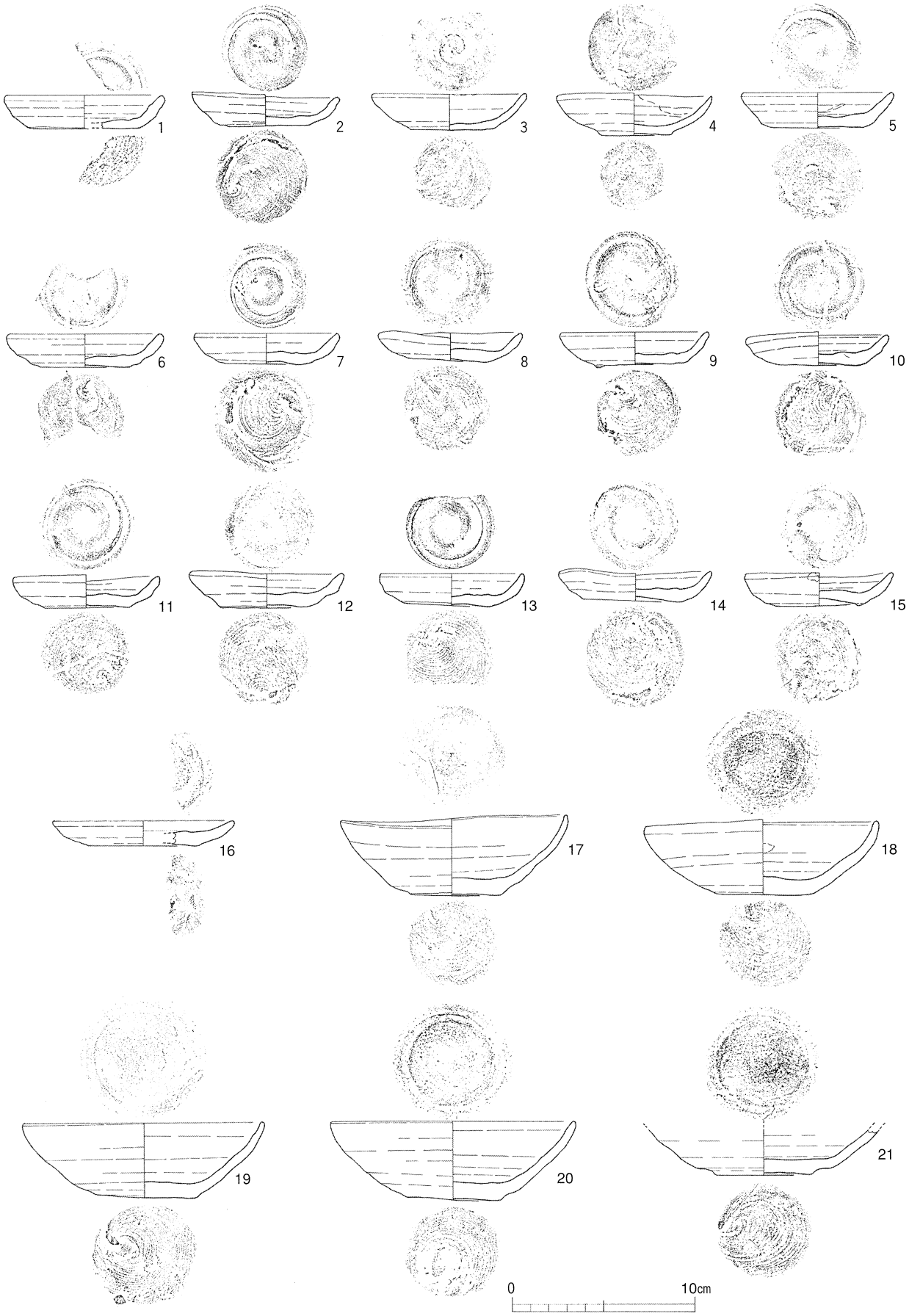


第48図　SK09遺構実測図（S＝1／40）

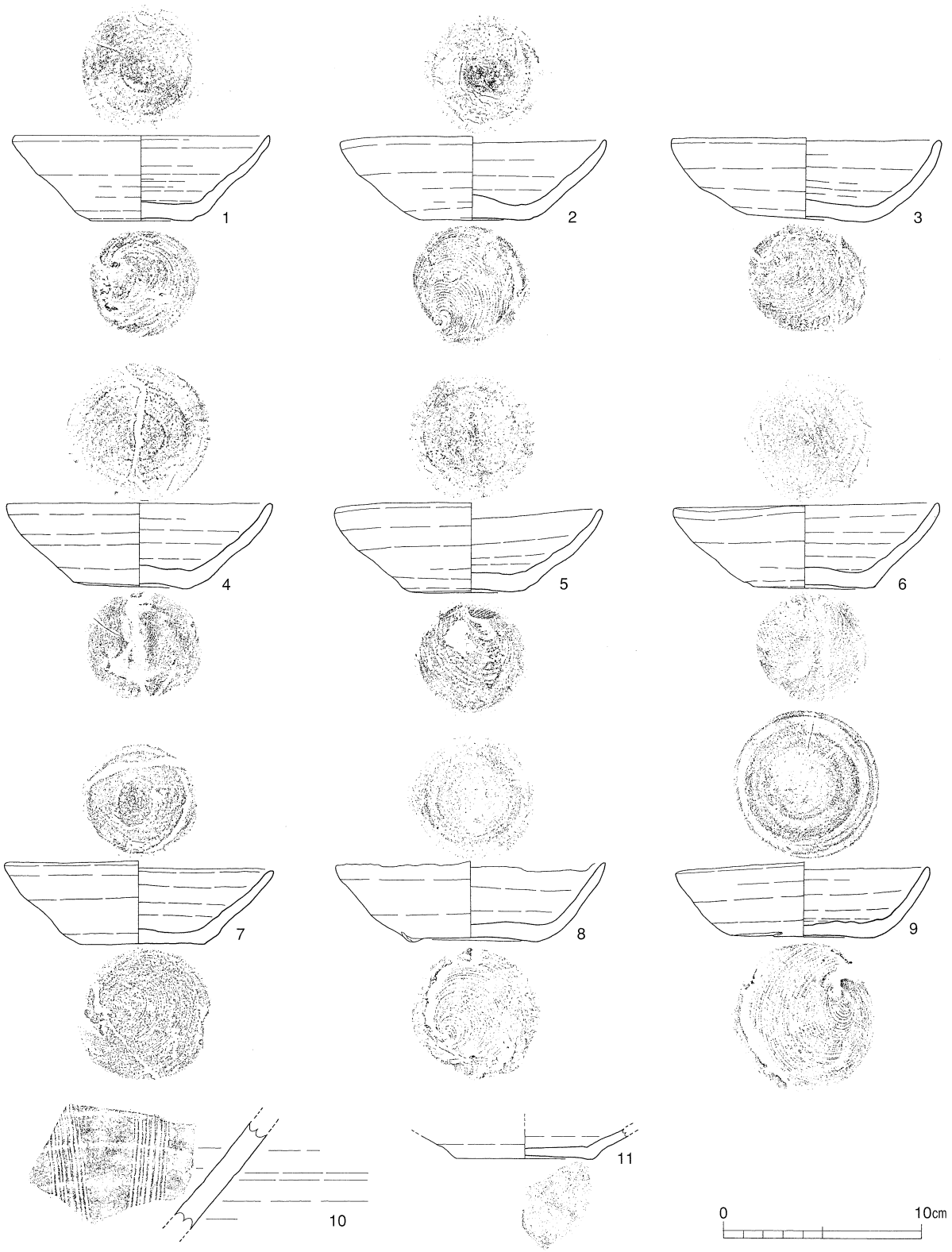
上、深さ0.72ｍを測る。床面は中央に向かって壇状に落ち込み、壁は西側で袋状に、東側で内湾気味に立ち上がる。遺物の時期から13世紀の遺構と考えられる。

第49図1～21は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。1～16は小皿である。1～3、6、11～13、15～16は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がる。1は端部を平坦気味に、2は端部を尖り気味に、3は端部を尖らせている。3は口縁部内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。6は端部をやや肥厚させ丸く仕上げている。11は端部を尖り気味に、13は端部を丸めに、12、15、16は端部を丸く仕上げている。12は内面見込にヘラ状工具痕を残す。15は外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。4は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。内外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。5、7～10、14は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がる。5、7、9は端部を尖り気味に仕上げている。5は内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。8は端部をやや肥厚させ丸く仕上げている。10は端部を丸めに仕上げ、14は端部を丸く仕上げている。17～21は坏である。17～18は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。18は内外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。19は口縁部の立ち上がりは、器壁中程周辺から内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。20は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。21は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。

第50図1～9は土師質土器坏である。1～2、4は内外面回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。4は内面にタールが少量付着しており、灯明具の可能性がある。3は内外面回転ナデ調整を施し、底部は回転糸切の後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げる。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。5～6は内面は



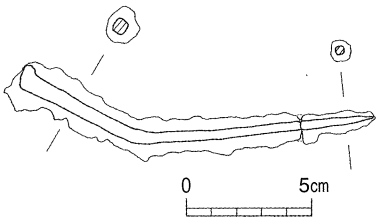
第 49 図　SK09 出土遺物 1



第50図　SK09出土遺物2

回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整している。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、5は器壁やや下方の括れのところから内湾しながら、6は内湾気味に立ち上がる。端部は丸めに仕上げている。5は内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。7～9は内外面回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。7は口縁部の立ち上がりは、器壁やや下方の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。8～9は口縁部の立ち上が

りは、外方に直線的に伸び、8は端部を尖り気味に、9は端部を丸めに仕上げている。10は陶器擂鉢で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面には一単位8条の擂目を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。上面撹乱土からの混入遺物である可能性もある。11は須恵器皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。



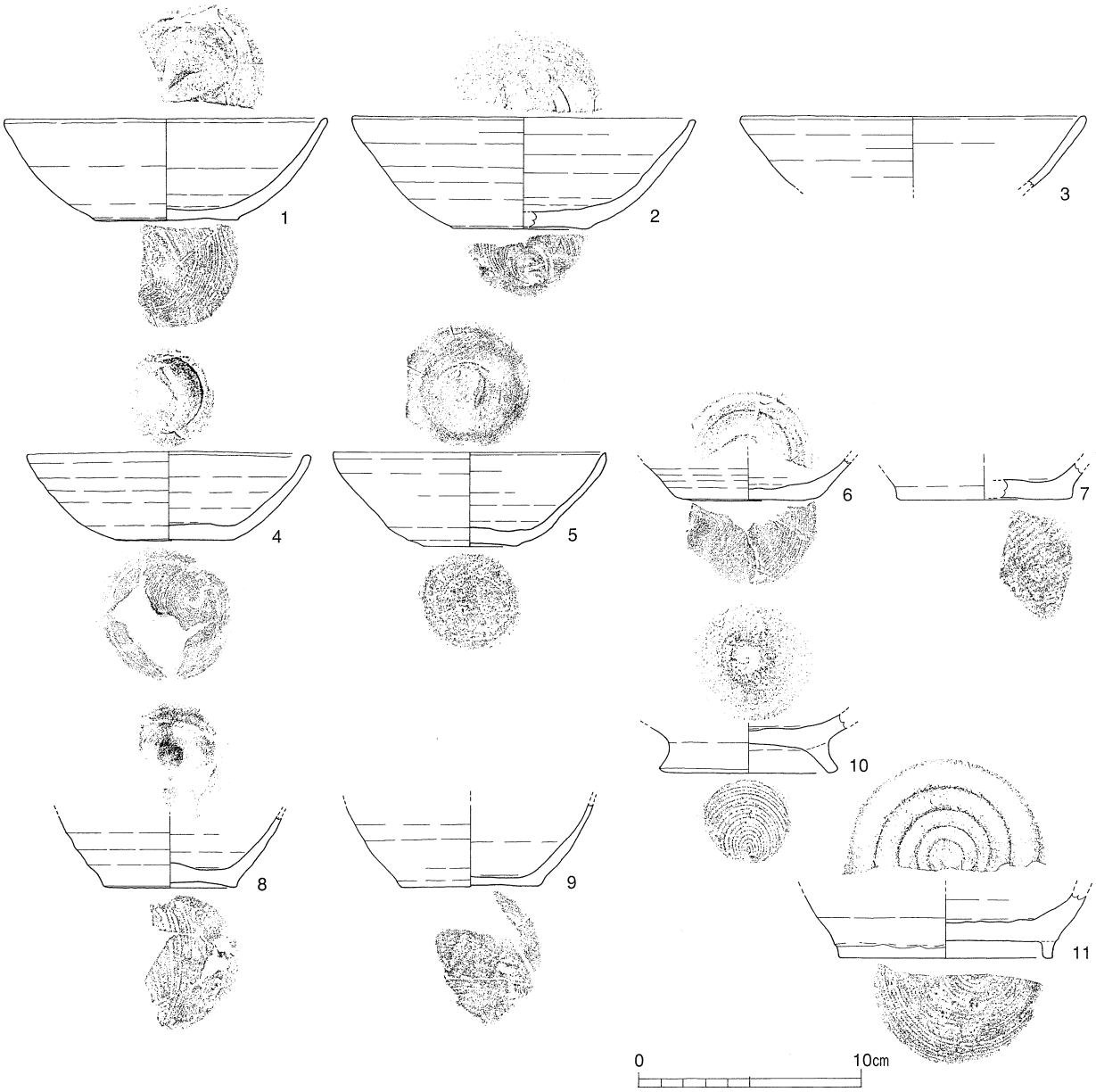
第51図　SK09出土遺物3

第51図は鉄釘で、釘頭がL字形のものである。

＜SK 93＞（第11、52図）

東西2.08 m、南北0.96 m以上の土壙で、遺物の時期から13世紀の遺構と考えられる。

第52図1～10は土師質土器坏である。1～2は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。1は底部には回転糸切の後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直



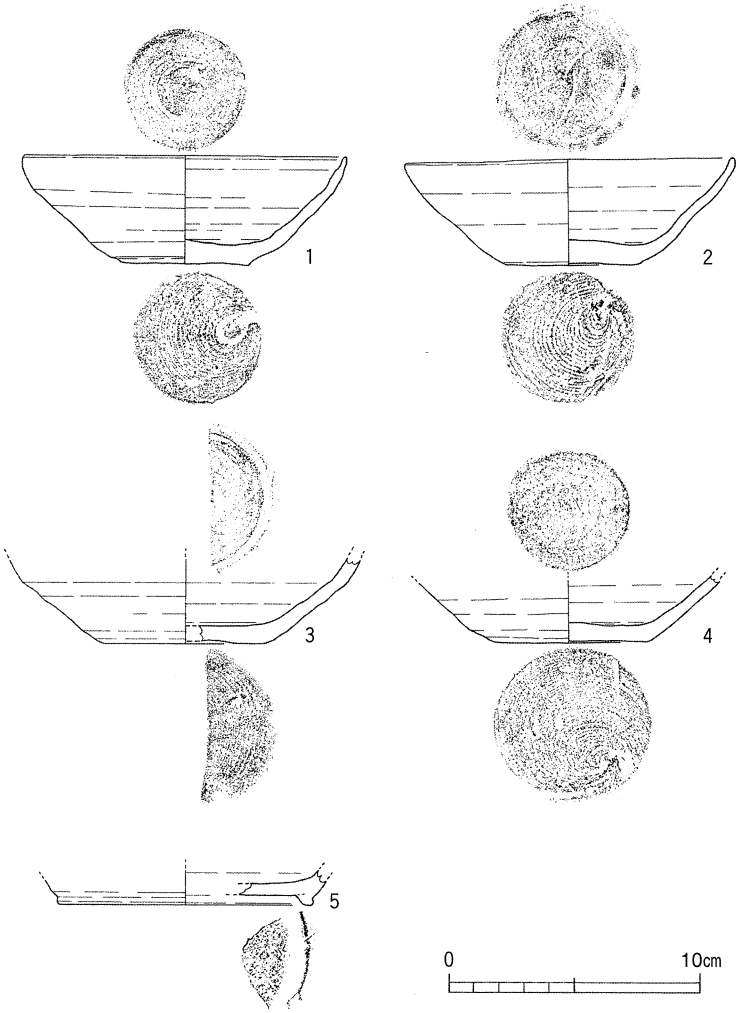
第52図　SK93出土遺物

線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。2は底部には回転糸切の後ナデを施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部で内側に屈曲し尖り気味に仕上げる。3は内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がりやや肥厚させる。端部は丸く仕上げている。4は内面に回転ナデ調整を施し、外面には回転ナデ調整の後一部にハケ目を施す。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、口唇部で内側に屈曲する。端部は丸く仕上げている。5は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。6～10は内外面ともに回転ナデ調整を施す。6は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。7～9は底部に静止糸切痕を残す。7は外面に赤彩を施す。8は内湾気味に立ち上がり、9は内湾しながら立ち上がる。10は底部に回転糸切を施した後、高台を後付している。11は須恵器瓶または鉢の底部で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切を施した後、高台を後付している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

＜SX 03＞（第11、53図）

上面は後世の撹乱により削平されているが、現状で平面プランは東西3.4 m、南北3.05 m以上を測る。遺構の時期は出土遺物から13世紀と考えられる。

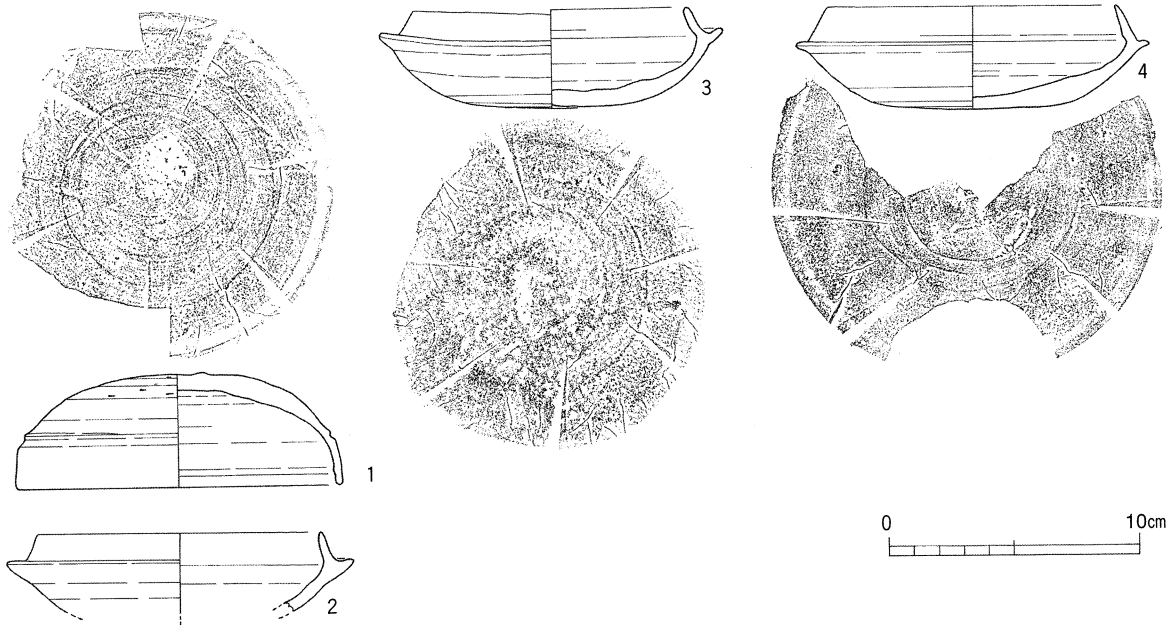
第53図1～4は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1、3は底部に回転糸切痕を残す。1は口縁部は器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、口縁部内側を強くナデている。端部は尖らせている。3は口縁部の立ち上がりは、口唇部で内側に屈曲させている。2、4は底部に回転糸切を施した後板目を残す。2は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4は外方に直線的に立ち上がる。5は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に高台を貼付している。



第53図　SX03出土遺物

＜SK 96＞（第11、54図）

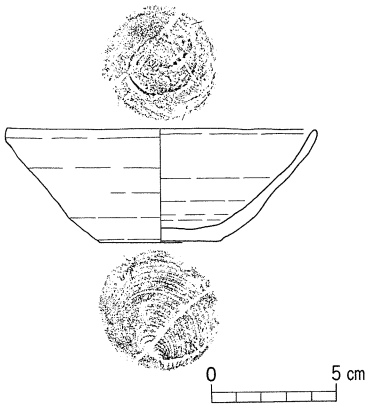
東西0.7 m、南北0.46 m、深さ約0.3 mを測る土壙で、遺構内上層から須恵器蓋坏の一括遺物を確



第54図　SK96出土遺物

認している。遺物の時期から6世紀後半頃の遺構と考えられる。

第54図1～4は須恵器蓋坏である。1は蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施すが、天井部は内面にナデ調整、外面に回転ヘラ削り調整を施す。外面には自然釉が付着する。口縁部は内湾しながら立ち上がり、外面に1条の稜線をナデ出している。口縁部内面には1条の沈線を施し、端部は丸く仕上げている。2～4は坏身である。2は1とセット関係にあると考えられる遺物で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面には自然釉が付着する。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、かえりで徐々に直立気味となる。端部は尖り気味に仕上げている。3～4は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。3は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、かえりで徐々に直立気味となる。端部は丸く仕上げている。底部外面に自然釉が多量に付着している。4は底部外面に回転ヘラ切りを施す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、かえりは内側に直線的に伸びる。端部は尖らせている。

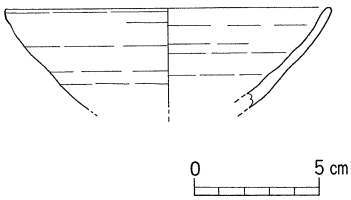


第55図　SX04出土遺物

＜SX 04＞（第11、55図）

東西1.79 m、南北2.23 mを測る土壙で、遺構内から13世紀の土師質土器が出土している。

第55図は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部は器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

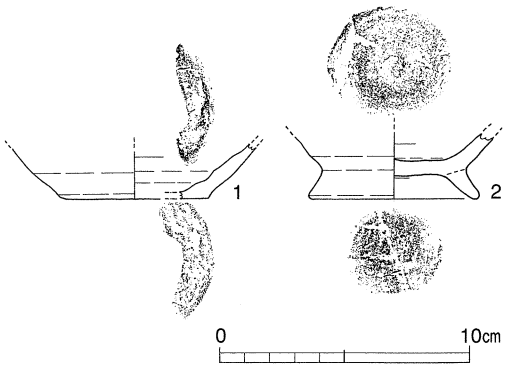


第56図　SK103出土遺物

＜SK 103 ＞（第 11、56 図）

東西 0.41 m、南北 0.61 m、深さ約 0.4 mの土壙で、平面プランは南北に長くなっている。少量の土師質土器片が出土している。

第56図は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。

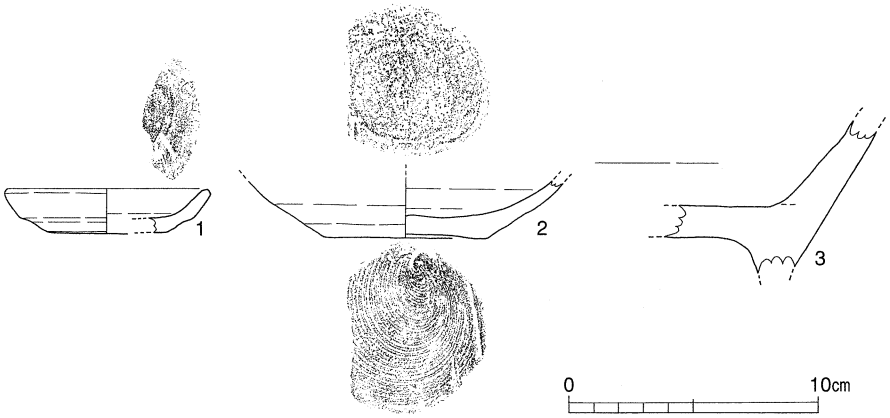


第 57 図　SK159 出土遺物

＜SK 159 ＞（第 11、57 図）

東西 1.71 m、南北 2.06 m、深さ約 0.25 mを測る土壙である。少量の土師質土器片が出土している。

第 57 図 1 ～ 2 は、土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2 は底部に高台を貼付している。

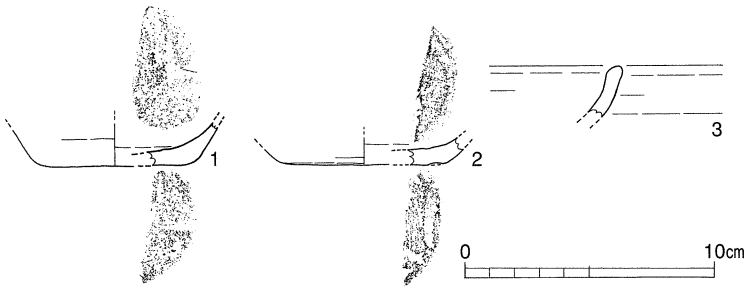


第 58 図　SK161 出土遺物

＜SK 161 ＞（第 11、58 図）

東西0.89 m、南北0.52 m以上、深さ約0.25 mを測る土壙である。土師質土器及び瓦質土器が少量出土している。

第 58 図 1 ～ 2 は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1 は小皿で、口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。2は坏で、底部に回転糸切を施した後板目を残す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。3は瓦質土器火鉢で、内面及び底部にナデ調整を施すが、外面は風化が著しく調整不明である。底部に脚部を後付している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。



第 59 図　SK163 出土遺物

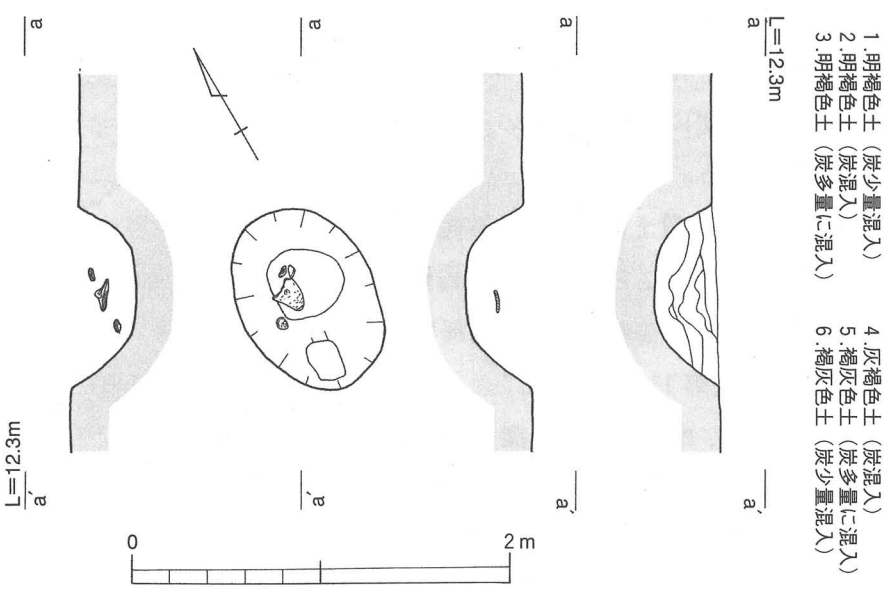
＜SK 163 ＞（第 11、59 図）

東西0.74 m、南北0.63 m、深さ約0.15 mを測る土壙である。土師質土器及び須恵器が少量出土している。

第 59 図 1 ～ 2 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1 は底部は風化が著しいものの板目の痕跡が残る。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2 は底部に回転糸切痕を残す。3 は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

＜鍛冶炉 1 ＞（第 60 ～ 61 図）

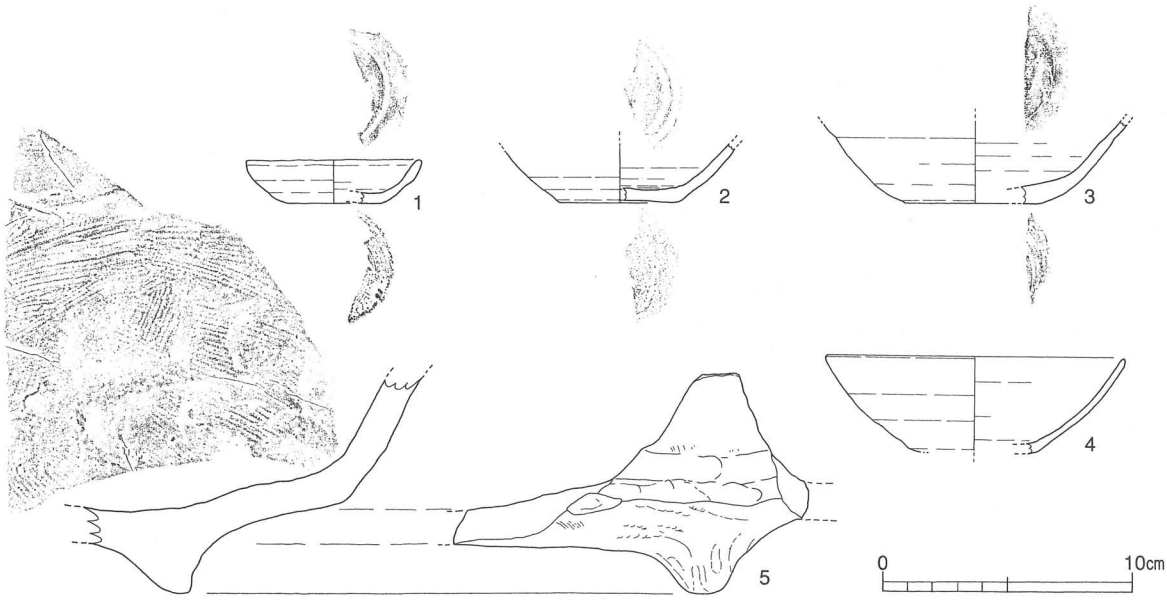
東西 0.74 m、南北 1.01 m、深さ 0.35 mを測る土壙である。周辺からは鍛造薄片が多数検出されており、鍛冶炉と考えられる。遺構内から土師質土器片と在地の奈良火鉢が出土している。



第60図　鍛冶炉１遺構実測図（S＝１／40）

第61図１～４は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、１～２、４は底部に回転糸切痕が残る。１は小皿で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を肥厚させて尖り気味に仕上げる。２～４は坏である。２は内湾気味に立ち上がる。

３は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。４は口縁部の立ち上がりは、口唇部で外側に屈曲する。５は在地土器火鉢で、内面は器壁にナデ調整を、見込にハケ目調整を施す。外面は器壁にハケ目調整の後ナデ調整を施し、器壁と底部の界線上部では、２条の強いナデ調整を施している。底部には脚を貼付し、ハケ目調整の後ヘラミガキ調整を施している。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。



第61図　鍛冶炉１出土遺物

＜鍛冶炉２＞（第62～63図）

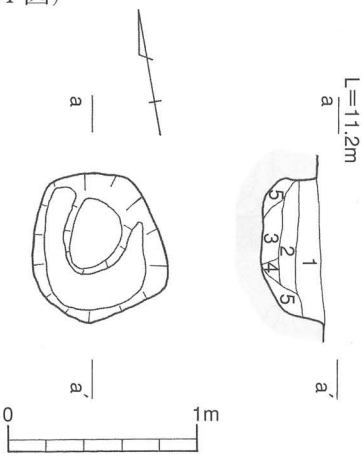
東西0.7 m、南北0.79 m、深さ0.33 mを測る土壙である。周辺からは鍛造薄片が多数検出されており、鍛冶炉と考えられる。遺構内から土師質土器片と円筒埴輪片が出土している。

第63図１～２は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。１は立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。２は底部に回転糸切痕が残り、内面見込にはタールが付着している可能性がある。立ち上がりは口唇部で外側に屈曲する。３は円筒埴輪で、透かし及びタガが残る。

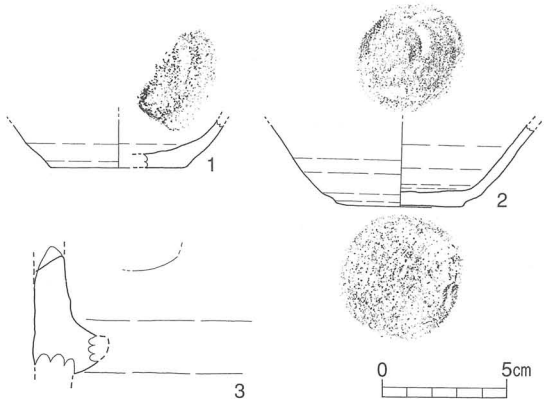
＜SD 28 ＞（第 11、64 図）

長さ2.1 m以上、幅約0.4 mを測る溝状遺構である。少量の土師質土器片が出土している。

第 64 図は土師質土器坏である。風化が著しいが、内外面には回転ナデ調整を施していると考えられる。



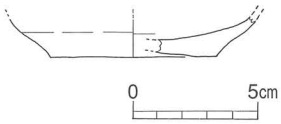
第 62 図　鍛冶炉 2 遺構実測図(S =1／40)



第 63 図　鍛冶炉 2 出土遺物

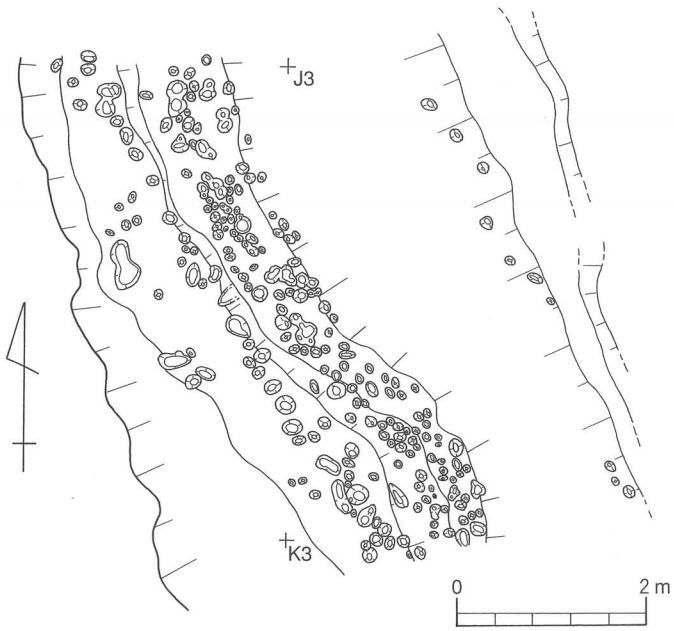
＜SD 29 ＞（第 65 ～ 67 図）

長さ 6.22 m以上、幅 5.52 m以上、深さ 1.62 m以上を測る自然河道で、西側の壁は緩やかに立ち上がる。埋土は黒色系粘土と灰色系粘土または砂質土が互層となっており、堆積土による河道規模縮小の過程で、岸辺が湿地となった面が残る。西岸のこの面からは 200 以上の小ピットを検出した。その大半は岸辺に生息した植物の痕跡と考えられるが、杭跡も含まれており護岸していた可能性もある。河道からは埋土の最下層から松本岩雄氏の弥生土器編年のⅤ—4 の甕片が出土しており、遺物と溝の方向からSD 30 と一連の河道である可能性がある。



第 64 図　SD28 出土遺物

第 67 図 1 ～ 12 は弥生土器である。1 は把手付短頸壺で、立ち上がりは内側に内湾しながら立ち上がる。2 ～ 11 は甕である。2 は口縁部から頸部の内面にハケ目調整、外面にナデ調整を施し、体部は内面にヘラ削り調整、外面にハケ目調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。外面にススが付着する。3 は口縁部から頸部の内外面及び体部外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を内側に丸く仕上げている。4 は口縁部から頸部の内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整、外面にハケ目調整を施す。頸部には貼付突帯が施され、口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、3 条の凹線



第 65 図　SD29 遺構実測図 1（S ＝ 1 ／ 80）

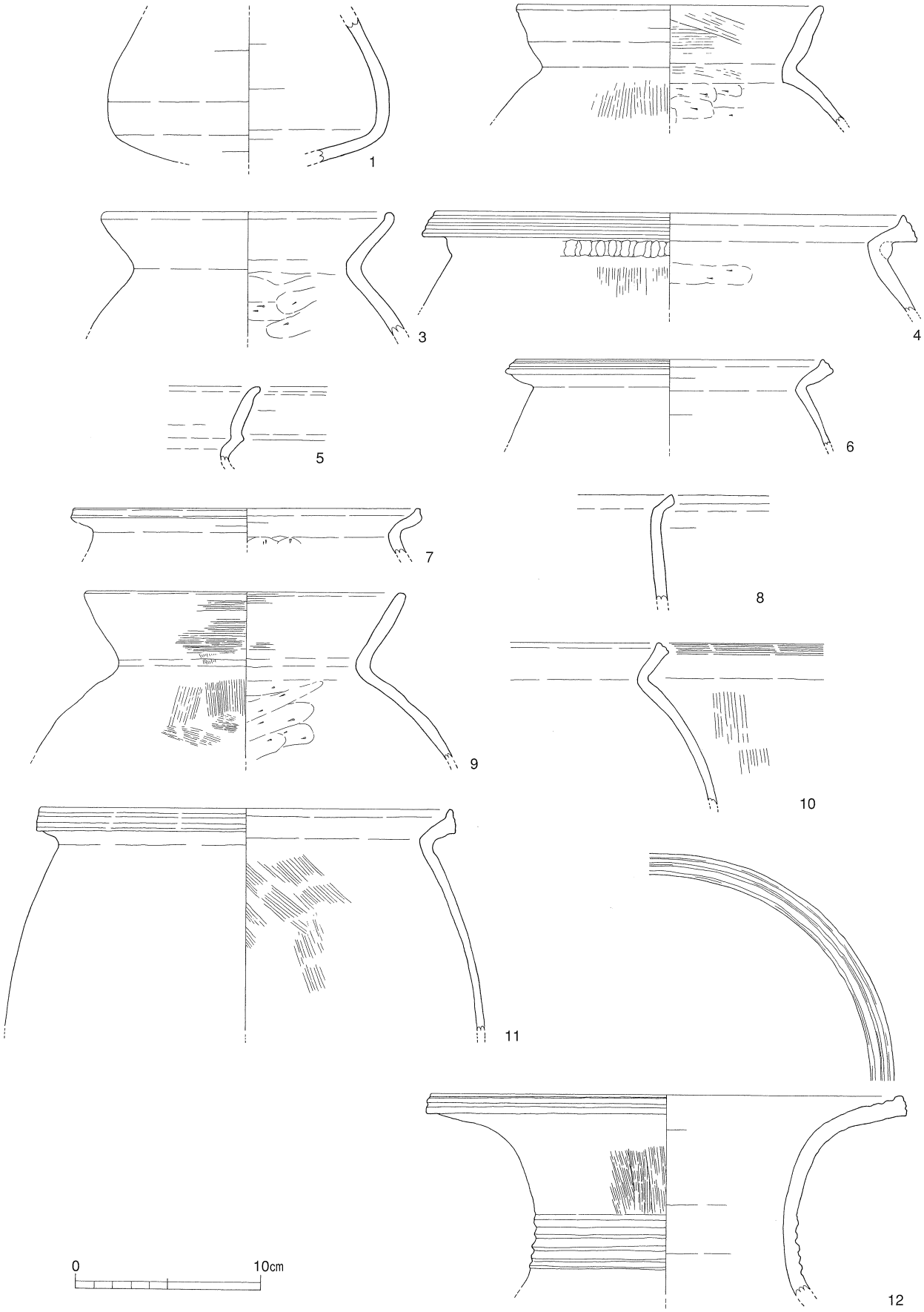
を施している。5は内外面ともにナデ調整している。口縁部は複合口縁を呈し、端部は外傾させて丸く仕上げる。外面にススが付着する。6～7、10～11は口縁部から頸部内外面にナデ調整を施している。6は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。7は体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を上部に拡張させて、1条の凹線を施している。10は体部外面にハケ目調整を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。11は体部内外面にハケ目調整を施している。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。口縁部内外面にススが付着している。8は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に平坦面を作る。9は口縁部から頸部の内外面及び体部外面にハケ目調整を施した後、頸部内外面にナデ調整を施す。体部内面にはヘラ削り調整を施している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部に平坦面を作る。12は広口壺で、口縁部内外面及び頸部内面にナデ調整を施し、頸部外面にハケ目調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に2条、口縁部内面に3条の凹線を施す。頸部には突帯文を施している。

第66図　SD29遺構実測図2（S＝1／80）

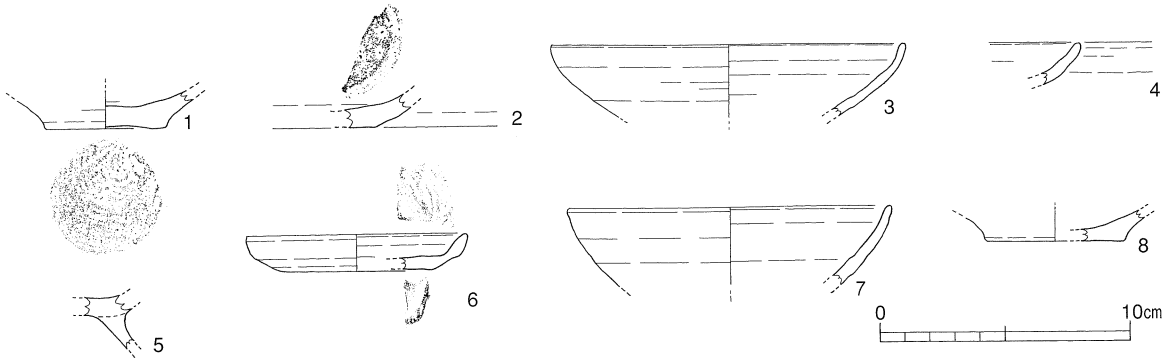
<P 255、258、259、268、359＞（第11、68図）

P 255、P 259はL 5 Gr、P 258はK 5 Gr、P 268はL 3 Grで検出されたピットで、中世の遺構面からの掘り込みである。一方、P 368はK 2 Grで検出されたピットで、中世の遺構面とSD 29の間の面からの掘り込みである。

第68図1～8は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1～3、5、7～8は坏で、1は底部に回転糸切を施した後板目を残す。2は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3、7は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり口唇部で内湾する。端部は丸く仕上げている。5は底部に



第67図　S029出土遺物



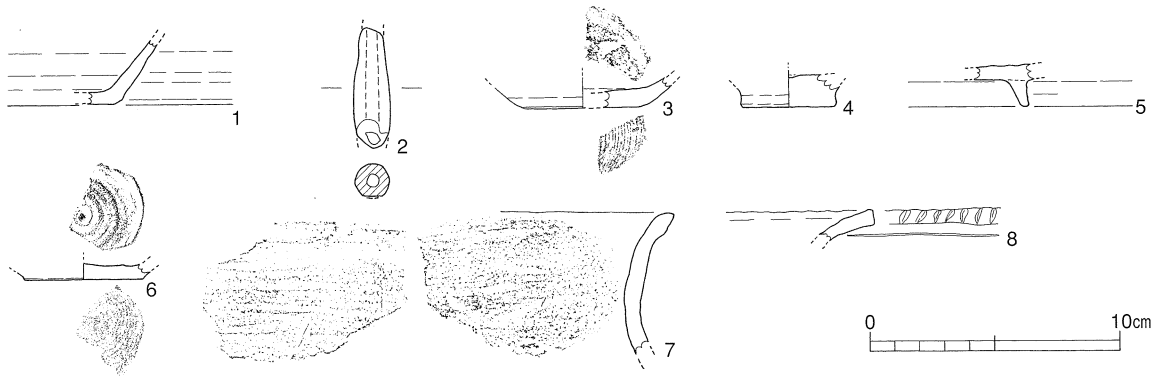
第68図　P255・P258・P268・P275・P259出土遺物

高台を貼付し、ナデ調整または回転ナデ調整を施している。4、6は小皿で、4は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。6は底部に回転糸切痕を残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を肥厚させ尖り気味に仕上げている。1はP 255、2～3はP 258、4～5はP 259、6はP 268、7はP 275、8はP 359の出土遺物である。

＜SK 120、139、144＞（第11、69図）

SK 120は東西1.04 m以上、南北0.76 m、深さ0.46 mを測る土壙、SK 139は東西0.85 m以上、南北0.28 m以上、0.14 m以上を測る土壙、SK 144は東西1.01 m、南北0.61 m、深さ0.41 mを測る土壙である。

第69図1、3～4、6は土師質土器で、1、3～4は坏である。1、3、6は内外面ともに回転ナデ調整を施し、3、6は底部に回転糸切痕を残す。1、3～4は坏である。1は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。3は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。4は底部周辺を強く回転ナデ調整し、底部

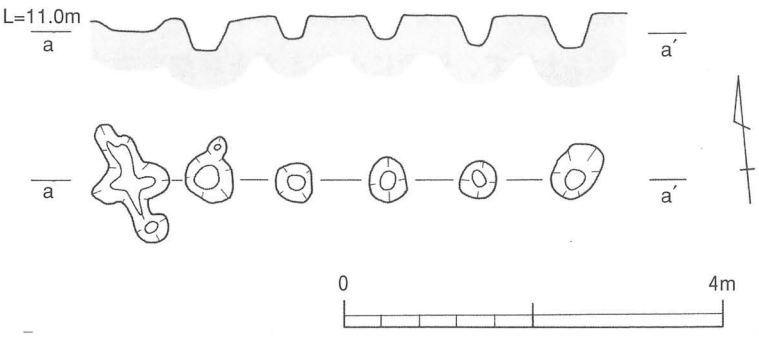


第69図　SK120・SK133・SK144出土遺物

を強調している。6は坏または小皿の底部である。2は土錘で風化が著しいものの、外面にヘラミガキ調整を施している可能性がある。直径4.5～5.5mmの穿孔を施している。5は須恵器坏で、内面に回転ナデ調整の後ナデを施す。底部には高台を貼付しナデ調整している。7は縄文土器で、口縁部・肩部内外面及び頸部内面にナデ調整を施し、頸部外面にはヘラミガキ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち上がり、端部は無文の突帯を貼付して、尖り気味に仕上げている。8は弥生土器で、内外面にナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下にやや拡張させ刻目文を施す。1～2はSK 120、3～5はSK 139、6～8はSK 144の出土遺物である。

＜SA 01 ＞（第 70 図）

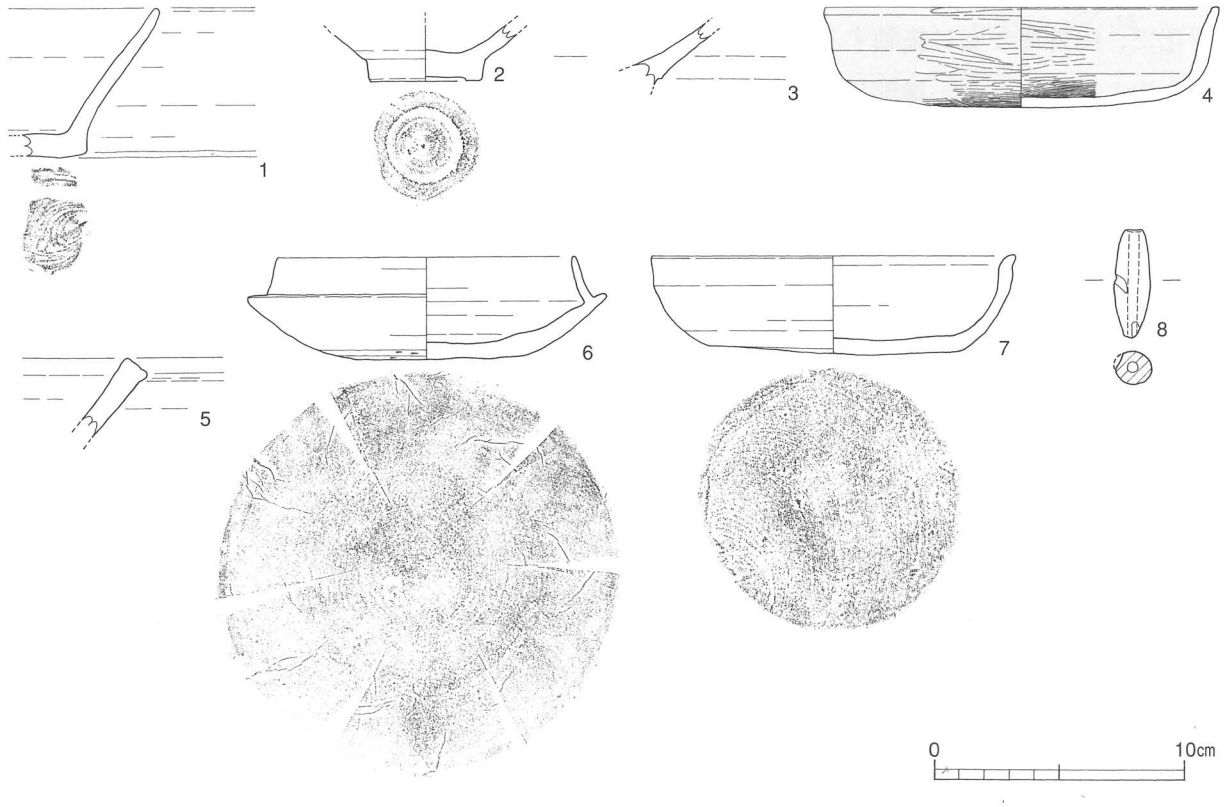
5間以上の柵列で、柱間は1間約0.96mを測る。柵列の方向はN～85°～Wで、SB 02 の東西軸とほぼ平行関係にあり、SA 02 の軸とは、ほぼ垂直関係にある。これらの遺構は同時期に存在していたものと考えられる。



第 70 図　SA01 遺構実測図

3. 包含層出土遺物

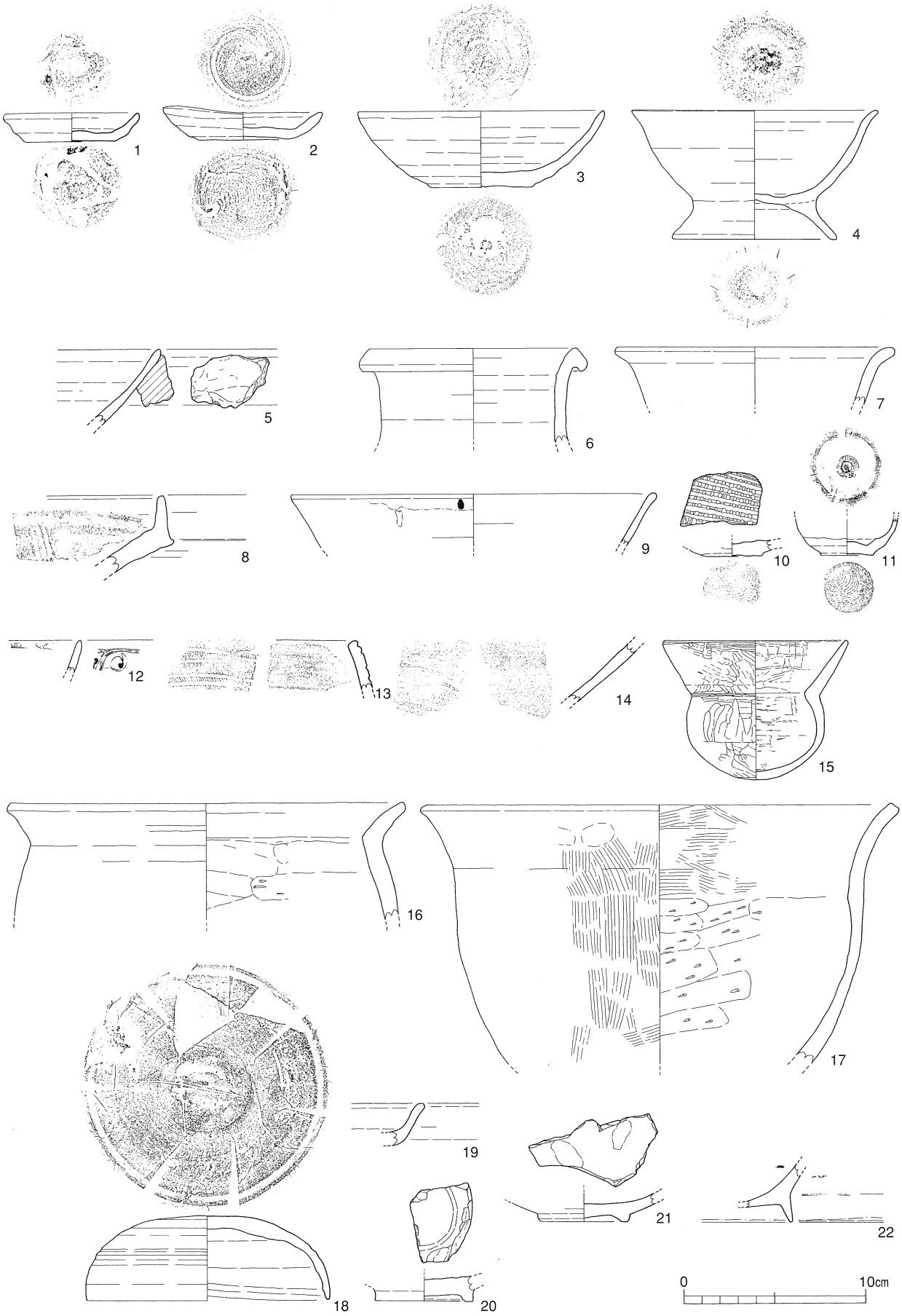
第 71 図は第 1 層の出土遺物である。1 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁やや下方の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2 ～ 3 は瀬戸焼椀で、内面を施釉し、底部外面に露胎を作る。2 は天目茶椀で、高台は削り出し高台としている。3 は灰釉陶器椀で、器壁下部に回転ヘラ削り調整を施した後、高台周辺部に回転ナデ調整を施している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4 は赤彩土器で全面を赤色塗彩する。内面はハケ目調整を施した後、見込端部にナデ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部で外側にやや屈曲し、端部を丸く仕上げている。5 ～ 7 は須恵器である。5 は鉢で内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部に平坦面を作る。6 ～ 7 は口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。6 は坏身で、底部には回転ヘラ切り痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、かえりは反り上がるように立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。7 は坏



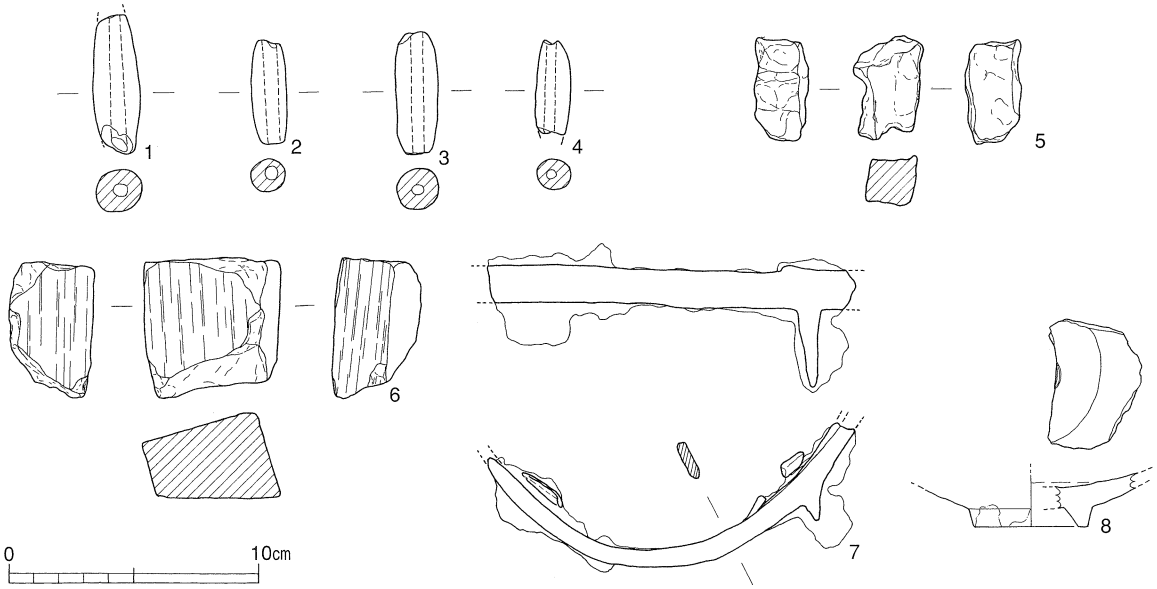
第 71 図　第 1 層出土遺物

で、底部に静止糸切痕を残す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を外側に屈曲させ丸く仕上げている。8は土錘で、外面にヘラミガキ調整を施す。直径3.5mm程度の穿孔を施している。

第72～73図は第2～3層の出土遺物である。1～5は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1～2は小皿で、1は底部に回転糸切の後ヘラ状工具痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。2は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部をやや肥厚させて丸めに仕上げる。内面にタールが付着している可能性がある。3～5は坏で、3は底部に回転糸切痕を残す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4は底部に高台を貼付し、ナデ調整している。口縁部は内湾しながら立ち上がり口唇部で外反する。端部は尖らせている。5は外面に鉄滓が付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。6は白磁四耳壷で、内外面ともに施釉している。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部で鋭角に折り曲げ丸く仕上げている。威信財的な遺物と考えられる。7は青磁碗で、内外面ともに施釉している。口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部から外反する。端部は丸く仕上げている。龍泉窯系碗D類の遺物である。8は備前焼擂鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に擂目を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部上側を上方に発達させ平坦気味な面を作っている。一方端部下側はシャープに仕上げている。乗岡氏の編年の中世5期aの遺物と考えられる。9～10は瀬戸焼である。9は椀で、内外面ともに施釉するが、口縁部外面の釉はかなり剥げ落ち、一部に漆が付着する。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がった後やや外反する。端部は丸く仕上げている。10は卸皿で、内面に卸目を施し、底部には回転糸切痕を残す。11は中国製と推定される茶入れである。内面には回転ナデ調整を施す。外面は施釉するが、底部周辺を露胎としており、回転ナデ調整を確認できる。底部には回転糸切痕が残る。12は青花で、内外面ともに施釉する。内外面に染付を施しており、このうち外面の染付は唐草文様になるものと考えられる。端部は尖り気味に仕上げている。小野正敏氏の分類のF群の遺物と考えられる。13～14は縄文土器浅鉢と考えられる。13は内面にヘラミガキ調整を施し、外面には磨消縄文を施す。口縁部の立ち上がりは、内側に内湾するものと考えられる。端部には平坦面を作っている。14は内面にヘラミガキ調整を施し、外面には貝殻条痕文を残す。15は弥生土器で、口縁部内外面及び体部外面にヘラミガキ調整、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸めに仕上げている。16～17は土師器甕である。16は口縁部及び頸部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。口縁部周辺にススが付着している。17は外面及び口縁部にハケ目調整を施した後、口縁部外面に指頭圧痕を施す。体部内面にはヘラ削り調整を施す。口縁部は頸部から外反しながら立ち上がり、端部に平坦面を作っている。外面にススが付着する。18は須恵器蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施すが、天井部は内面にナデ調整、外面に回転ヘラ削り調整を施した後ヘラ記号「×」を施す。肩部には粘土塊が付着する。口縁部は内湾しながら立ち上がり、外面に1条の稜線をナデ出している。口縁部内面には1条の沈線を施し、端部は丸く仕上げている。19は須恵器坏の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び外傾する。端部は丸く仕上げている。20は京都系緑釉陶器で、内外面に緑釉が残る。内面見込には1条



第72図　第2～3層出土遺物1

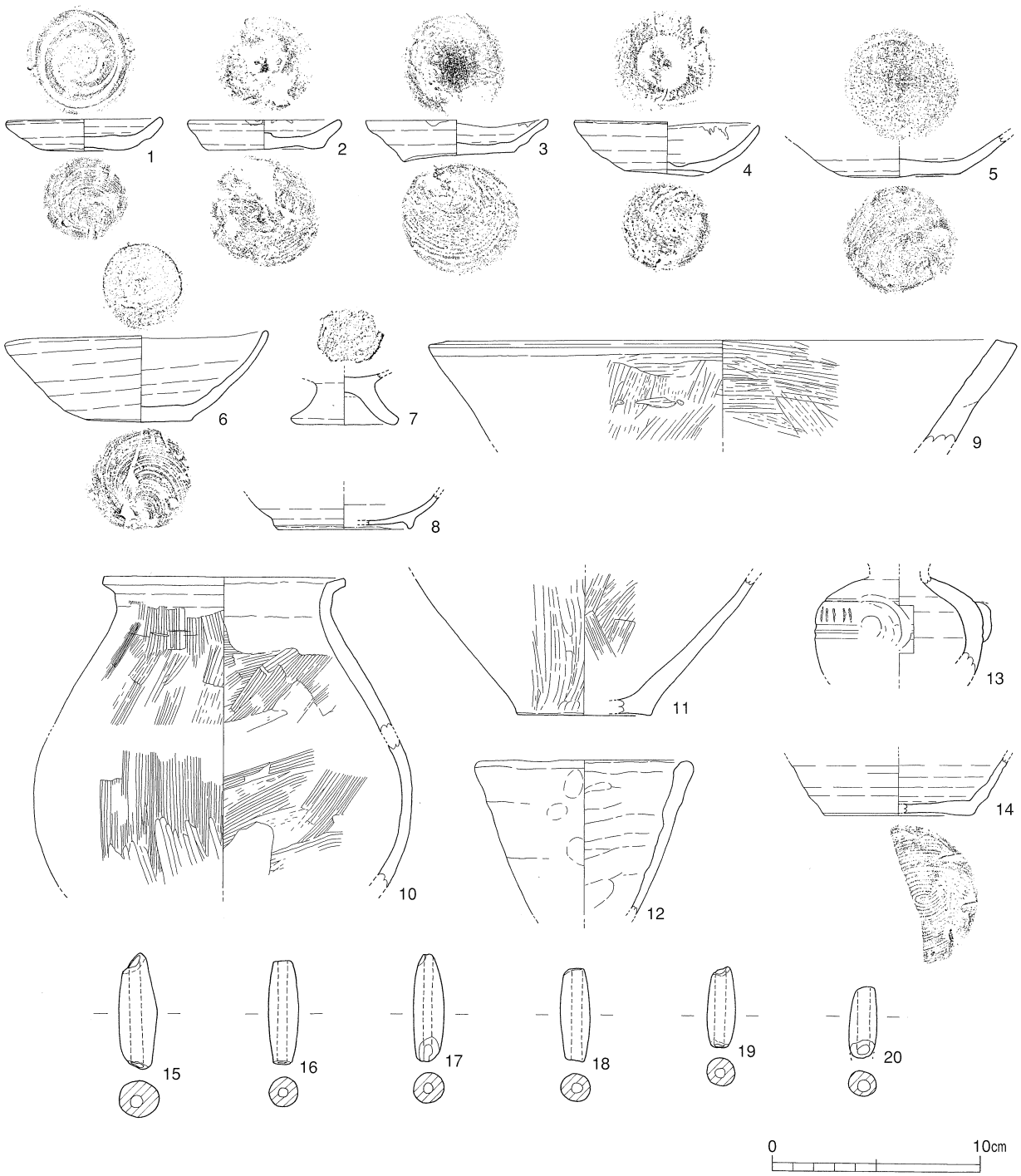


第73図　第2～3層出土遺物2

の沈線を施し、底部には削り出しの高台を施している。21は肥前系陶器である。内面見込は施釉し、胎土目積みの痕跡を残す。底部には削り出しの高台を施し露胎としている。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。22は肥前系染付広東碗である。内外面施釉し染付を施す。立ち上がりは高台に対し急角度で立ち上がる。

第73図1～4は土錘で、外面にヘラミガキ調整を施している。それぞれ3.5～5.5 mm、5 mm、4 mm、3.5 mmの穿孔を施している。5は用途不明の粘土塊で、企画性のない6面体を呈する。6は砥石で、3面を砥面として使用している。7は鉄製品で、五徳である。内面には土師質土器片が付着している。8は近世以降の白磁で、内外面ともに施釉するが、高台は露胎としている。高台は削り出し高台と考えられ、内面見込には蛇ノ目釉ハギを施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

第74図は第4層の出土遺物である。1～6は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。1～4は小皿で、1は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部をやや肥厚させて丸めに仕上げる。2～4は口縁部にタールが付着し、灯明皿と考えられる。2～3は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、2は端部を丸く仕上げ、3は端部を尖り気味に仕上げている。4は口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。5～6は坏で、5は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。6は口縁部の立ち上がりは、器壁中程から内湾気味に立ち上がり、端部をやや肥厚させて尖り気味に仕上げている。7は土師器低脚坏である。内面にヘラミガキ調整を施し、底部に脚部を貼付して、回転ナデ調整を施している。8は白磁碗で、内外面ともに施釉し高台畳付を釉ハギしている。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。小野C群の遺物と考えられる。9は在地土器捏鉢で、内外面ともにハケ目調整を施し、口縁部外面及び端部にナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部から外方に直線的に伸び、端部に平坦面を作っている。10～11は弥生土器である。10は壺で、口縁部及び頸部内外面にナデ調整、体部にはハケ目調整を施す。外面底部周辺にはヘラミガキ調整が施されているようである。口縁部の立ち上



第74図　第4層出土遺物

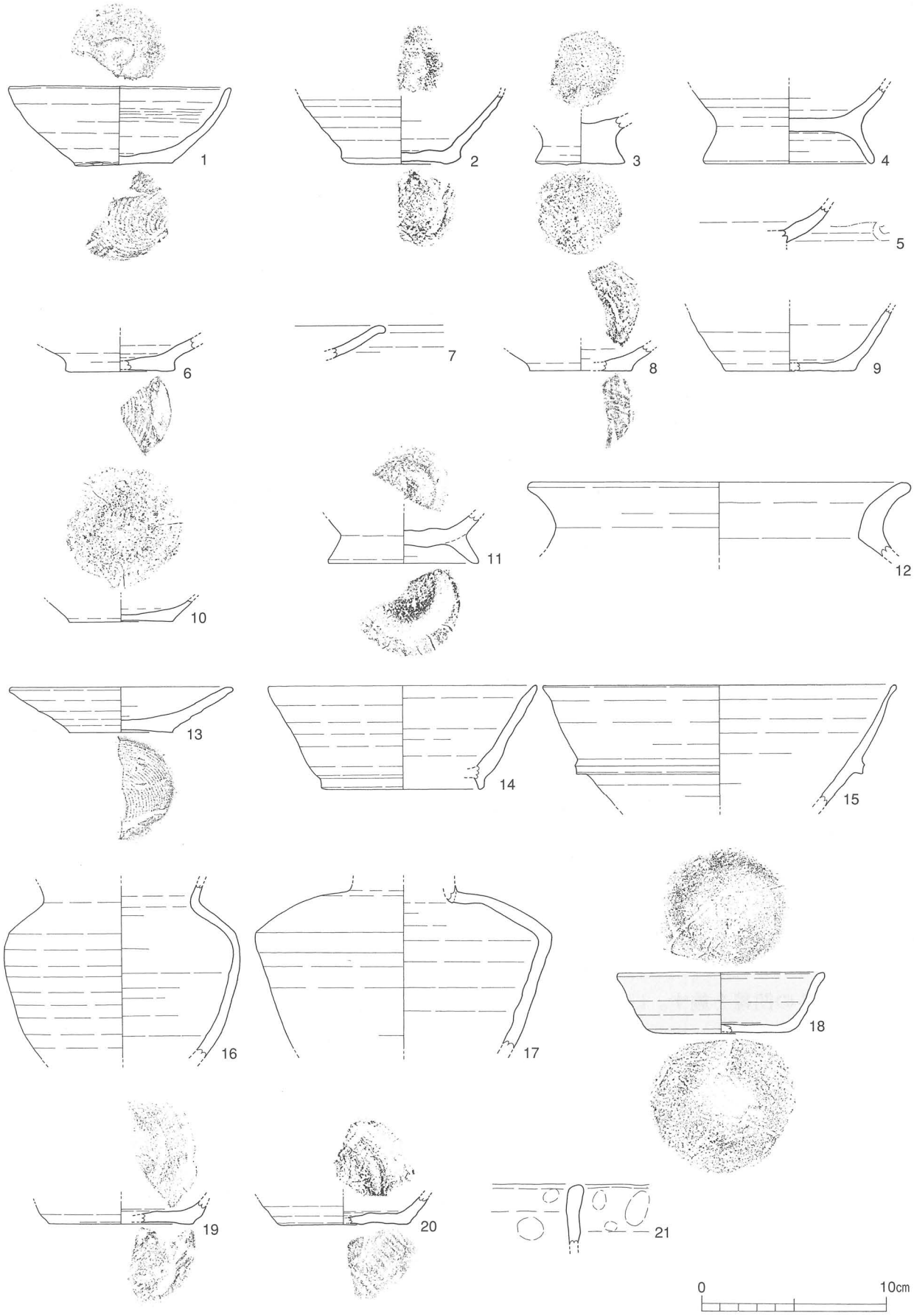
がりは、外方に直線的に伸び端部に平坦面を施している。11は甕で、内面は体部にハケ目調整、底部にナデ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施す。立ち上がりは、外方に直線的に伸びる。底部外面にススが付着する。12は製塩土器で、内面にナデ調整を施し、外面にはナデ調整の後指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。13～14は須恵器である。13は瓶で、内外面ともに回転ナデを施す。体部外面に1条と2条の沈線を施し、間に刺突文を施す。体部には穿孔が施されている。14は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。15～

20は土錘で、外面にヘラミガキ調整を施す。15は6mm、16は3.5～4mm、17は4mm、18は4.5～5mm、19は5mm、20は5mmの穿孔を施す。

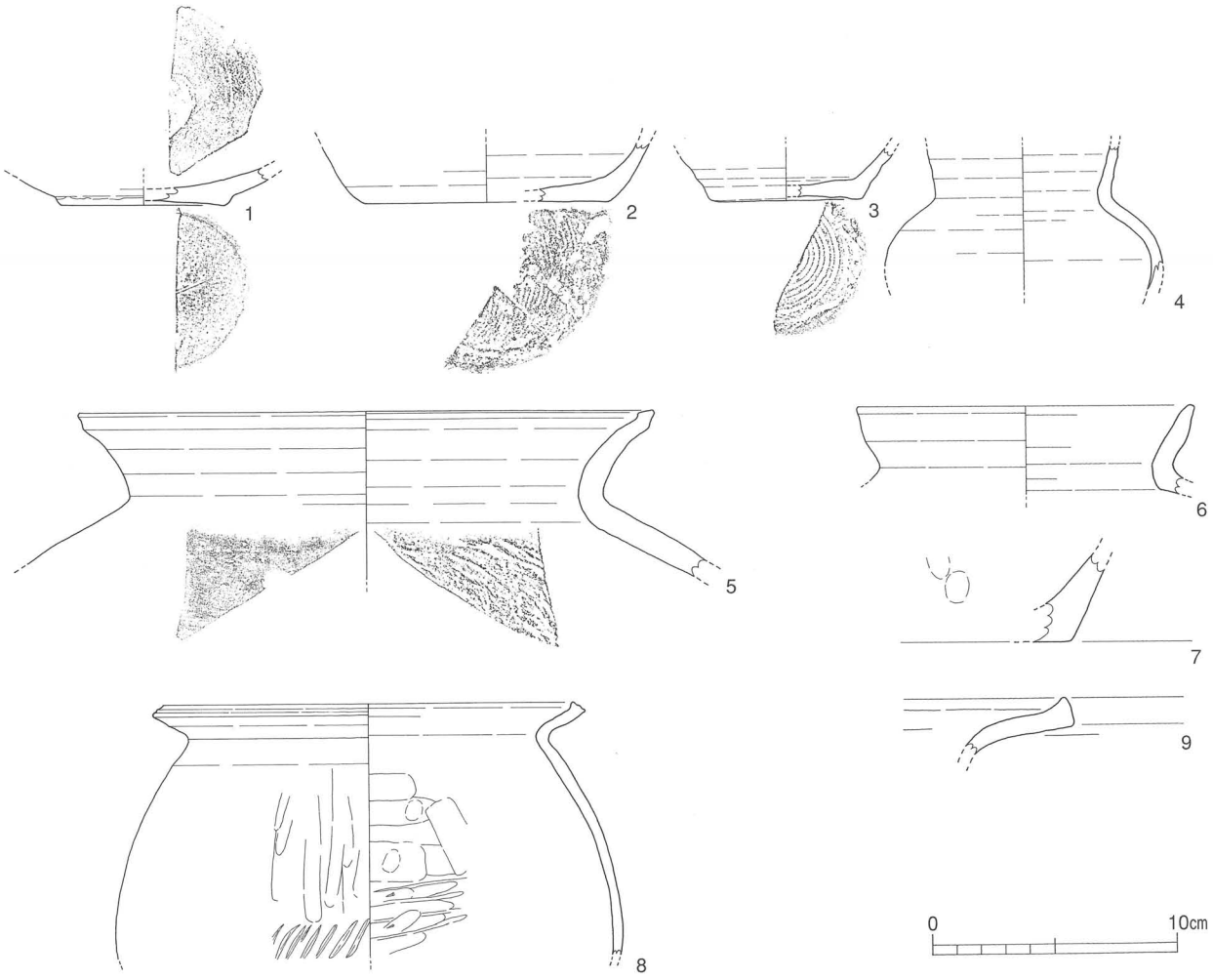
＜その他の遺物＞（第75～77図）

第75図1～4は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1～2は坏である。1は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。3は柱状高台付坏の脚部で、底部は風化が著しいものの、回転糸切を施している可能性がある。脚部の立ち上がりは内側に直線気味に立ち上がる。4は底部に高台を貼付し、回転ナデ調整している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は白磁碗で、内外面ともに施釉するが、底部外面は露胎とし、高台は欠損しているが削り出し高台を呈するものと考えられる。底部内面には器壁と内面見込の界線を入れている。6は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。7は京都系緑釉陶器皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し施釉している。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり外傾する。端部は丸く仕上げている。8～11は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。8～10は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。8は底部に回転糸切痕を残す。11は底部に高台を貼付し、回転ナデ調整を施している。12は土師器甕で、口縁部内外面にナデ調整を施す。風化が著しいが、体部内面にはヘラケズリ調整、外面にはハケ目調整を施している可能性がある。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。13～17は須恵器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。13～14は坏である。13は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。14は底部に高台を施している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。15は高坏で、外面に1条の突帯を施す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり外傾する。端部は丸く仕上げている。16は壷で肩部をやや強調している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。17は長頸瓶で肩部に界線を作り強調している。18～20は土師質土器坏である。18は内面に回転ナデ調整を施した後、見込にナデ調整を施す。外面には回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び外傾する。端部は丸く仕上げている。内外面ともに赤彩を施す。19～20は内外面ともに回転ナデ調整を施す。19は底部に静止糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。20は底部に静止糸切痕を残した後板目を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。21は製塩土器で、内外面ともにナデ調整を施した後指頭圧痕を施す。口縁部は端部で肥厚させ丸く仕上げている。

第76図1は京都系緑釉陶器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部にヘラ描きを施して、全面に施釉している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2～5は須恵器である。2～3は須恵器坏で、内面は回転ナデを施した後、見込にナデ調整を施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは2は内湾しながら立ち上がり、3は外反気味に立ち上がる。4は直口壺で内外面ともに回転ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は甕で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面に青海波を施し、体部外面は風化が著しいが、平行タタキを施している可能性がある。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、端部は上方に屈

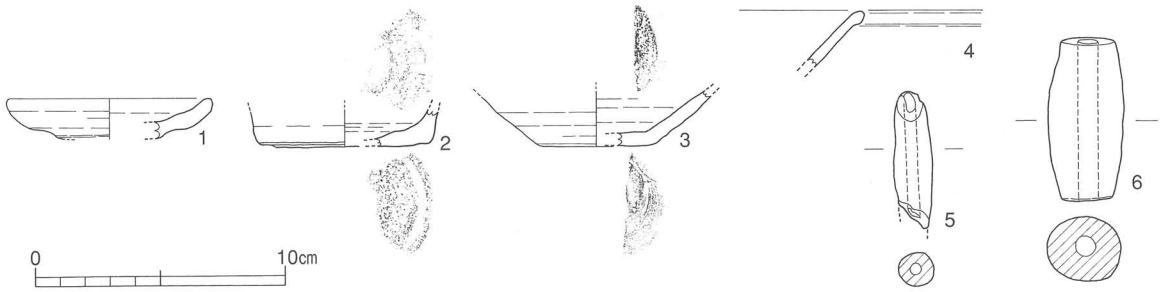


第75図　その他の遺物1



第76図　その他の遺物2

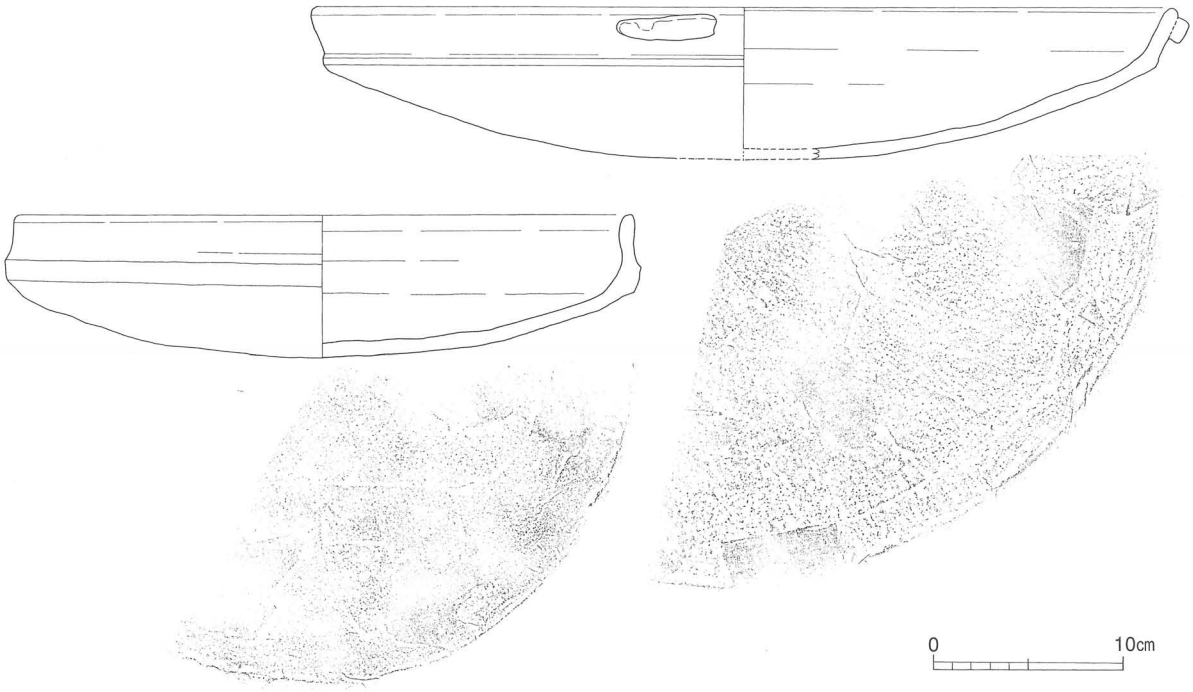
曲し平坦面を作る。6～9は弥生土器甕である。6は口縁部で内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部に平坦気味な面を作っている。7は底部で、内外面ともに風化が著しいが、内面に指頭圧痕が残る。8は口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面上部にヘラケズリ調整、下部にヘラミガキ調整を施す。体部外面にはヘラミガキ調整を施し、体部中程付近に刺突文を施している。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部上方を拡張させている。端部には2条の凹線を施す。口縁部にはススが付着している。9は口縁部で内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部上方を拡張させている。



第77図　その他の遺物3

第77図1～3は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿で、口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は底部に糸切痕を残す。立ち上がりは外反気味である。3は坏で、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。4は白磁碗で、内外面ともに施釉する。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を外側に折り曲げて玉縁を作っている。端部は丸く仕上がっている。5～6は土錘で、外面にヘラミガキ調整を施す。5は4mm、6は7～8mmの穿孔を施している。

第78図は撹乱土に混入している遺物である。1～2は焙烙で、口縁部内外面及び内面見込にナデ調整を施し、底部外面にチヂレ目調整を施す。1は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。両端に粘土紐状の把手を施している。口縁部を中心にススが付着している。2は口縁部の立ち上がりは、内傾しながら立ち上がり、徐々に直立していく。口縁部にススが付着している。撹乱土からはこのほか縄文土器の小片が出土している。



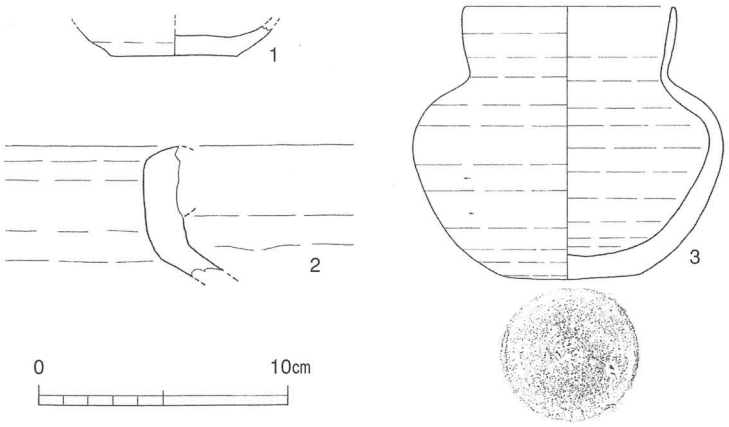
第78図　撹乱土出土遺物

4. 中屋山の調査

「中屋山」は山の所有者の屋号が「中屋」であることから通称で呼ばれていた寿昌寺遺跡の東に隣接する山である。当山は試掘調査で遺跡が確認されていなかったが、造成工事中に五輪塔及び宝篋印塔の石が土留めとして積み上げられているのを確認したため、緊急調査を実施した。中屋山の踏査を実施したところ、山の中腹付近で宝篋印塔の残片などの石製品を少量確認したが、既に元位置からは流れているものと考えられた。一方、土留めを確認した西側斜面には、土留めを確認した地点（T－2）と平坦面が残る地点（T－1）の2つのトレンチを設定し調査を実施した。T－2では土留めの下から近世以降の遺物を確認したため、土留めが近世以降に積み上げられたものであることが確認された。一方T－1では遺物は出土したものの、遺構は検出されなかった。五輪塔及び宝篋印塔の個体数が多く、遠方から搬入されたと考え難いことや、中屋山中腹でも宝篋印塔の残片が確

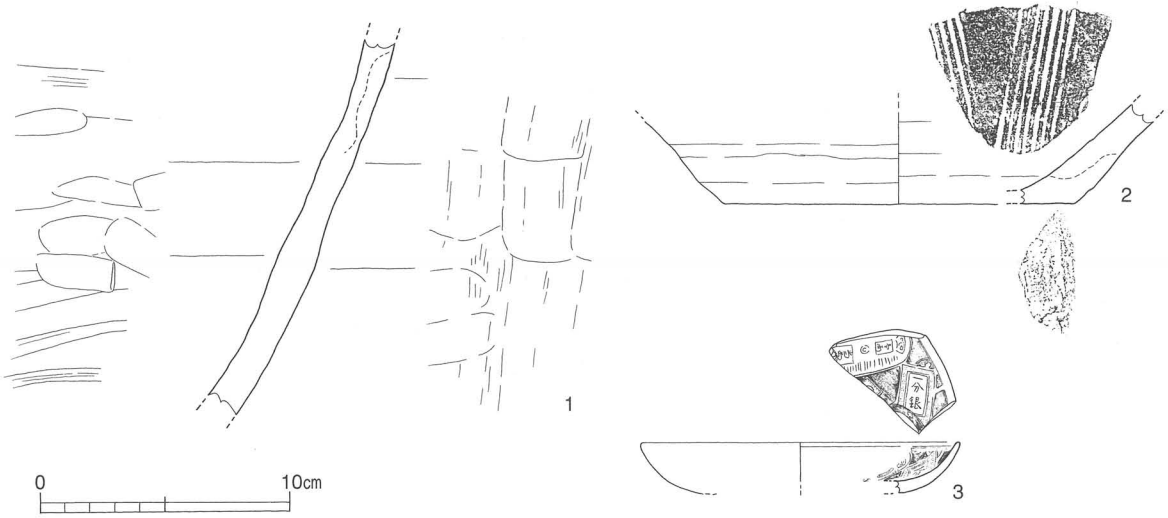
認されていることから、中屋山は中世には墓山であった可能性がある。

第79図はT－1出土遺物である。1は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2は備前焼甕で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、内傾気味に立ち上がり、外側に折り曲げて玉縁状にしている。端部には平坦気味の面を作っている。口縁部端部と肩部外面に灰が付着している。3は須恵器直口壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、体部中程から底部に回転ヘラケズリ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、やや外方に内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。



第79図　中屋山T－1出土遺物

第80～82図はT－2出土遺物である。第80図1は瓷器系陶器甕の体部である。内面にナデ調整及びヘラケズリ調整、外面にナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味である。内面は下側になるほど灰を被る。2は備前焼擂鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に1単位7～8条の擂目を施す。断面及び外面に粘土の繋目痕、底部にはヘラ状工具痕が残る。3はコンニャク印版の技法を用いた肥前系染付である。内湾にはコンニャク印版により、1両及び1分銀の図柄が描かれている。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。



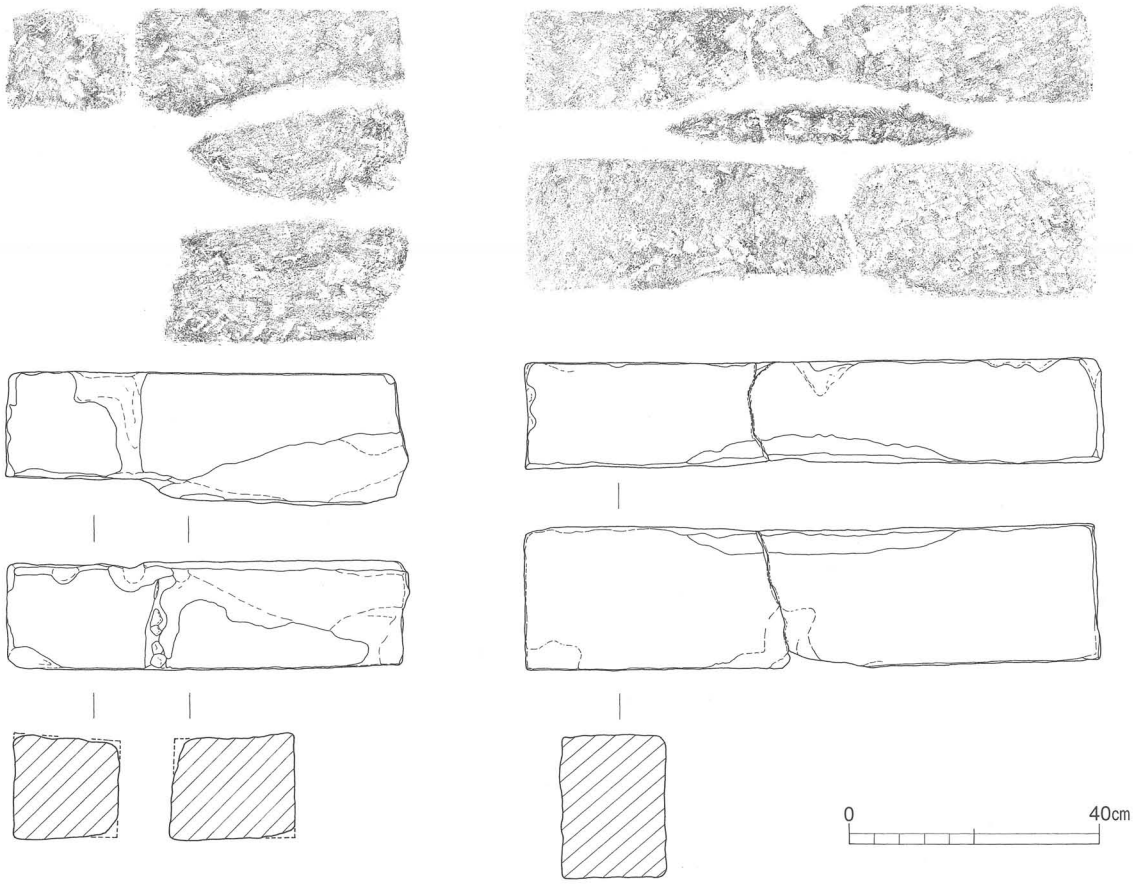
第80図　中屋山T－2出土遺物

第81図1～11は五輪塔である。1～5は空風輪で、1は空輪が欠損し風輪のみが残存している。風輪を前後に平面的に作っているタイプである。2は風輪が小型のタイプで、鏡餅状に作っている。3は空輪が宝珠状になっているタイプである。4は風輪下のほぞを比較的長く作っている。5は空輪が球状のタイプで、ほぞは短く作っている。6～7は火輪で、6は天井部を広くし笠の勾配を緩やかにしたタイプ、7は天井部を狭くし笠の勾配を急にしたタイプ、8～9は水輪で、8は最大径を下方

第81図　中屋山出土五輪塔・宝篋印塔ほか

に持つタイプ、9は最大径を中程に持つタイプ、10～11は地輪で、10は繰込を小さく作るタイプ、11は繰込を大きく作るタイプである。12～14は宝篋印塔である。12～13は相輪部、14は笠部である。15は用途不明の石製品で、断面台形のドーナツ状を呈すると考えられる。大井谷Ⅱ遺跡出土遺物に類似例がある。寺院関連遺物と考えるなら、仏像下部の蓮華座の固定装置を巻き込む根巻石なども考える必要があろう。

第82図1～2は石部材である。1は片側をほぞ状に加工し、2は角柱状に加工している。

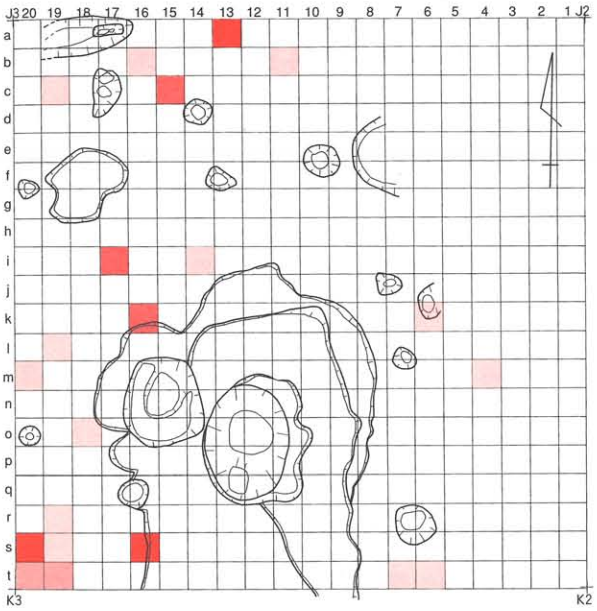


第82図　中屋山出土石部材

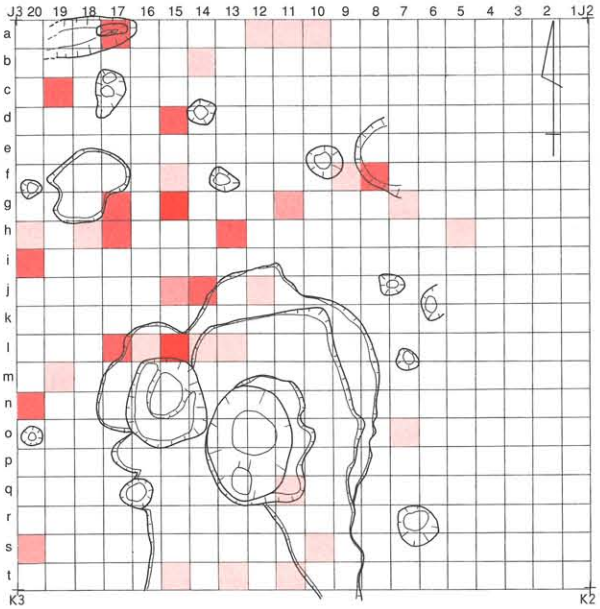
第２節　考察

1. 鍛冶炉遺構について（第 83 ～ 85 図）

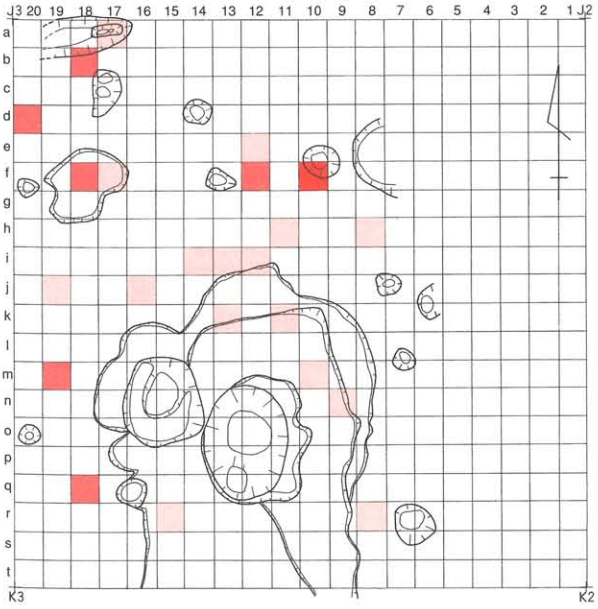
調査区東側山際から鍛冶炉遺構の可能性がある土壙を２穴確認したため、約５×５ｍの区域内で25cm メッシュ３層に分けて土を採取し、鍛造薄片の分布状況を調べた。分布状況を調べた結果、第１面（第 83 図）では鍛冶炉南西隣及び北側に鍛造薄片が集中しており、第２面（第 84 図）では北西隣に集中している。また第３面（第 85 図）では北東隣に集中している。調査区が狭いため鍛冶炉の付属施設については検出できなかったが、鉄を鍛造する場所が時期により移動している可能性が考えられる。



第 83 図　鍛造薄片分布状況（第１面）



第 84 図　鍛造薄片分布状況（第２面）



第 85 図　鍛造薄片分布状況（第３面）

1 片検出
2 片検出
3 片検出
4 片検出

2. 遺物の組成について（表１～４）

寿昌寺遺跡からは、２万７千点以上の中世土器片が出土しているので、遺物の組成から若干の検討を加えてみたい。計数作業は接合作業を終えた状態（接合し同一個体と証明できた場合は１点）で、総破片数を全てカウントした。

計数作業の結果、出土遺物のうち99.07％が土師質土器で、残りを国産製品0.8％、輸入製品0.13％で占めた。出土遺物の大部分を占める土師質土器の種別の組成では、93.19％を皿・坏が占め、灯明具（3.13％）、赤彩土器（3.01％）が続く。灯明具・赤彩土器の割合は、浄土宗寺院関連遺跡と推定されている大井谷Ⅱ遺跡の計数値と比較してもかなりの高率で、これらの遺物は寿昌寺遺跡の性格の一端を示すものと考えられる。

一方、土師質土器以外の中世土器を、中世朝山家惣領家の居館の可能性が指摘されている蔵小路西遺跡（総破片数22,459点、土師質土器97.1％、国産製品1.7％、輸入製品1.2％）と比較してみると、寿昌寺遺跡からは国産製品で約１／２倍、青磁で約１／14倍、白磁で約１／６倍の出土しかない。また土師質土器を除く国産製品及び輸入製品の百分比は、寿昌寺遺跡が86：14であるのに対し、蔵小路西遺跡は58：42、大井谷Ⅱ遺跡は65：35を示し、寿昌寺遺跡は国産製品の割合がかなりの高率となる。各遺跡での嗜好も考えられるため、この数値が３遺跡の経済格差をどの程度示しているかは不明である。

土師質土器以外の製品の組成を大井谷Ⅱ遺跡と比較してみると、寿昌寺遺跡では瓷器系、備前が多く青磁は少ない。これらの差異は寿昌寺遺跡の国産製品偏重の主体となるものである。

瓦質土器は総数18点で多くないが、奈良火鉢、角形火鉢などが含まれており、坩堝や鍛造薄片といった生産関連遺物が見られることも寺院との関連を推定させる。

一方、寺院との関係は不明であるが、京都系緑釉陶器が同時期の須恵器とともに7点出土していることや、威信財的な遺物である白磁の水注が出土していることから、寿昌寺遺跡は以前より有力者との関係があった可能性がある。

以上を整理すると次のようになる。

① 在地のものが多く、蔵小路西遺跡、大井谷Ⅱ遺跡と比較して搬入品が少ない。

② 土師質土器には、灯明具・赤彩土器が高率で含まれる。

③ 搬入品は、蔵小路西遺跡、大井谷Ⅱ遺跡と比較して、国産製品の占める割合が高く、瓷器系が多い。

④ 奈良火鉢・角形火鉢など寺院関連的な遺物が含まれる。

⑤ 輸入製品には、蔵小路西遺跡、大井谷Ⅱ遺跡と同様に、威信財として長期に保持される可能性のある高級品が含まれる。

No.	種類	破片数(点)	出土割合(%)
1	土師質土器	27608	99.07
2	瓦質土器	18	0.06
3	東播系	0	0
4	亀山系	5	0.02
5	瓷器系	124	0.44
6	備前	57	0.2
7	瀬戸	19	0.07
8	青磁	20	0.07
9	白磁	11	0.04
10	青白磁	0	0
11	青花	3	0.01
12	その他の中国陶磁器	2	0.01
13	朝鮮系	0	0
	国産製品小計	27831	99.87
	輸入製品小計	36	0.13
	合計	27867	100

表1　寿昌寺遺跡　中世土器の組成

No.	種類	破片数(点)	出土割合(%)
①	灯明具	865	3.13
②	赤彩土器	831	3.01
③	墨書土器	2	0.01
④	その他の皿・坏	25728	93.19
⑤	鉢	158	0.57
⑥	火鉢	8	0.03
⑦	鍋	4	0.01
⑧	その他	12	0.04
	皿・坏小計	27426	99.34
	その他小計	182	0.66
	合計	27608	100

表2　寿昌寺遺跡　土師質土器の組成

No.	種類	破片数(点)	出土割合(%)
2	瓦質土器	18	6.95
3	東播系	0	0
4	亀山系	5	1.93
5	瓷器系	124	47.88
6	備前	57	22.01
7	瀬戸	19	7.34
8	青磁	20	7.72
9	白磁	11	4.25
10	青白磁	0	0
11	青花	3	1.16
12	その他の中国陶磁器	2	0.77
13	朝鮮系	0	0
	国産製品小計	223	86.1
	輸入製品小計	36	13.9
	合計	259	100

表3　寿昌寺遺跡　土師質土器以外の組成

No.	種類	破片数(点)	出土割合(%)
2	瓦質土器	17	7.33
3	東播系	2	0.86
4	亀山系	10	4.31
5	瓷器系	63	27.16
6	備前	38	16.38
7	瀬戸	21	9.05
8	青磁	45	19.4
9	白磁	18	7.76
10	青白磁	10	4.31
11	青花	0	0
12	その他の中国陶磁器	7	3.02
13	朝鮮系	1	0.43
	国産製品小計	151	65.09
	輸入製品小計	81	34.91
	合計	232	100

表4　大井谷Ⅱ遺跡 土師質土器以外の組成

第3節　まとめ（表5）

今回の調査結果や他の関連遺跡の調査結果・資料を整理してまとめとしたい。寿昌寺遺跡の調査では13世紀を中心として13～15世紀の遺構・遺物が確認されている。関連遺跡を整理してみた。（遺跡位置図）

	遺跡名	場所	遺構名	方向	時期	軸群	備考	文献
1	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SB01	N～1°～E N～89°～W	13c	①	寺院本堂?	
2	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SB02	N～4°～E N～86°～W		②		
3	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SD08	N～89°～W	13c	①	区画溝	
4	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SD15	N～1°～E	13c	①	区画溝	
5	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SA01	N～85°～W		②		
6	寿昌寺遺跡	上塩冶町	SA02	N～5°～E		②		
7	角田遺跡	上塩冶町	SD21	(N～1°～W) N～89°～E	13c	①	鍛冶関連施設に伴う区画溝?	(1)
8	角田遺跡	上塩冶町	SD25	N～1°～W	13c	①	水路?	(1)
9	角田遺跡	上塩冶町	SD26	N～3°～W	13c	①	鍛冶関連施設に伴う溝?	(1)
(10)	神門寺境内廃寺	塩冶町	土塁	N～1°～E N～89°～W	江戸時代	(参考)	神門寺に伝塩冶判官高貞首塚あり	(2)
11	浄音寺境内遺跡	塩冶町	土塁	N～72°～E N～18°～W	15c～	③	後塩冶氏の居館	
12	大井谷Ⅱ遺跡	上塩冶町	石敷遺構	N～72°～E N～18°～W	15c	③		(3)
13	大井谷Ⅱ遺跡	上塩冶町	SB01	N～73°～E N～17°～W	15c	③	寺院本堂	(3)
14	築山遺跡	上塩冶町	SB01	(N～3°～E) N～87°～W			伝塩冶氏館跡から最も近い位置で確認された礎石建物	(4)
(15)	伝塩冶判官館跡	上塩冶町	SD01	N～12°～E	13～14c	(参考)	自然流路	(5)
16	観音寺境内遺跡	渡橋町	土塁	(N～82°～E) N～8°～W			塩冶判官高貞再興 現住職朝山氏	
17	蔵小路西遺跡	渡橋町	西大溝	(N～78°～E) N～12°～W	13～15c	④	朝山氏館跡区画溝	(6)
18	矢野遺跡	矢野町	SD05	N～78°～E (N～12°～W)	14～15c前	④	屋敷地区画溝	(7)
19	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB11	N～76°～E N～14°～W	13c前	④	集落 第1群中心建物	(8)
20	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB21	N～77°～E N～13°～W	13c中～後	④	集落 第2群中心建物	(8)
21	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB01	N～70°～E N～20°～W	13c後～14c		集落 第3群中心建物 鬼門・裏鬼門を地鎮	(8)

表5　旧塩冶郷周辺遺構

表5は旧塩冶郷周辺の遺構を抜粋した表である。表2の結果からおおよそ①N～—3°—1°～Eの遺構群、②N～4°—5°～Eの遺構群、③N～72°—73°～Eの遺構群、④N～76°—78°～Eの遺構群の4群に分けられる。

第 86 図　周辺の主要中世遺跡（1 ／ 40000）

①は寿昌寺遺跡と角田遺跡で確認した遺構群で、13世紀の遺構で確認例が多い。②は寿昌寺遺跡で確認された遺構群で、切り合い関係から①と時期差があると考えられる。③は大井谷Ⅱ遺跡と浄音寺境内遺跡で確認されている。2遺跡は直線距離で3km以上離れているが、いずれも①、②の遺構群が確認された遺跡の周辺地域に所在しており、15世紀以降の遺構という点でも共通している。④は全て北側に位置する四絡遺跡群に分布しており、中心となる朝山氏館跡（蔵小路西遺跡）の軸方向に準じているものと考えられる。

①～④にはある程度の時期的なまとまりや地理的なまとまりが見られる。しかしながら、これが佐々木氏、塩冶氏、後塩冶氏に直接関連するのかは不明である。資料が僅少であることもあり、これについては資料の増加を待ち改めて検討することにしたい。

＜参考文献＞

(1) 出雲市教育委員会『角田遺跡第3次発掘調査報告書』2004

(2) 出雲市教育委員会『神門寺境内廃寺』1985

(3) 出雲市教育委員会『斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書Ⅲ　大井谷Ⅰ遺跡・大井谷Ⅱ遺跡』2001

(4) 出雲市教育委員会『上塩冶築山古墳』2004

(5) 出雲市教育委員会『塩冶判官館跡』2003

(6) 島根県教育委員会『蔵小路西遺跡　一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2』1999

(7) 出雲市教育委員会『出雲健康公園整備プロジェクト事業に伴う矢野遺跡第2地点発掘調査報告書』1991

(8) 島根県教育委員会『渡橋沖遺跡　一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告3』1999

寿昌寺遺跡遺物観察表

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
7－1	試掘 T－4	土師質土器 坏	口径:(12.2) 器高:4.5 底径:6.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:赤橙色 内面:橙色 (一部淡橙色)	・外面に墨書あり
15－1	SE03 B4Gr 下層	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 器高:1.5 底径:(4.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:淡黄橙色	
－2	SE03 B4Gr 上層	土師質土器 小皿	口径:(7.4) 器高:1.3 底径:(3.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	軟	明灰橙色	
－3	SE03 B4Gr 下層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	外面:暗淡橙色 内面:橙灰色 (一部淡橙色)	
－4	SE03 B4Gr 下層	青磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(5.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:黄緑色 露胎:青灰色	・貫入が入る ・高台見込 ・畳付釉ハギ
16－1	SK85 B3Gr	常滑焼 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒多量に混入	良	外面:暗茶色 内面:褐色	・外面肩部に押印文 ・断面に粘土の接合痕 ・肩部に灰が被る
－2	SK85 B3Gr	瓦質土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:格子タタキ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒少量混入	軟	暗褐色	・在地産?
17－1	SK76 B5Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	2㎜以下の砂粒少量混入	軟	外面:淡橙色 内面:橙色 (高台内橙色)	・高台貼付
－2	SK76 B5Gr	須恵器 皿	口径:(18.1) 器高:2.1 底径:(15.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:灰白色 内面:黄灰色 (底部淡青灰色)	・底部にヘラ状工具痕
19－1	SD30 B5Gr	弥生土器 壺	口径:(8.2) 器高:9.1	外面:ナデ、ハケ目 内面:ナデ 底部:不明	2㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色(一部淡橙色、暗褐色)	
－2	SD30 B5Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ 底部:ナデ	1～2㎜の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:黄橙色	
－3	SD30	弥生土器 甕	口径:(11.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	明黄灰色	
20－1	P120 B7Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:7.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1㎜未満の砂粒少量混入	軟	外面:淡橙色 内面:橙色	・高台貼付
－2	SD20 B5Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:不明 底部:回転ナデ	2㎜以下の砂粒混入	軟	淡橙色	・高台貼付
－3	SD20 B5Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(11.8)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色 (一部暗褐色)	・内面見込に擂目
21－1	SD01 D9Gr	土師質土器 坏	口径:(8.2) 器高:2.3 底径:(5.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切	黒色粒子少量混入	良	橙色	
－2	SD01 D9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	外面:暗橙色 内面:橙色	
－3	SD01 D10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1～2㎜の砂粒及び黒色粒子混入	やや軟	橙色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
21－4	SD01	土師質土器 坏	口径:(12.4) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	0.5㎜未満の砂粒多量に混入	やや軟	淡黄橙色	
－5	SD01 C7Gr	青磁 碗	口径:不明 高:不明 底径:5.6	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:乳緑色 露胎:明黄灰色	・内面見込にスタンプ文 ・高台見込釉ハギ ・貫入が入る
－6	SD01 C7Gr	瓷器系陶器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1～2㎜の砂粒混入	良	暗赤褐色 (一部黄褐色)	
－7	SD01 C7Gr	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:暗赤褐色	・乗岡編年中世3期b
－8	SD01 D9Gr	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗黄灰色 内面:青灰色	・内面に1単位9条の擂目
－9	SD01 D10Gr	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:暗灰色	・内面に1単位10条の擂目
－10	SD01 D9Gr	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(12.4)	外面:ナデ 内面:ナデ	1㎜未満の砂粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:褐色	・内面に1単位10条の擂目
－11	SD01 C7Gr	備前焼 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、ハケ目 底部:不明	密	良	外面:暗茶色 内面:暗褐色	
－12	SD01 C7Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	黒色粒子混入	やや軟	橙色	・内面に擂目
－13	SD01 C6Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	・内面見込に擂目
－14	SD01 D9Gr	瓦質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	軟	黒褐色	・外面に珠文帯・菊花文
－18	SD01 C7Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:青灰色 内面:灰褐色	
－20	SD01 D9Gr	肥前系陶器	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:乳緑色 露胎:暗橙色	・内面見込胎土目積 ・高台削り出し ・三日月高台
－21	SD01 D8Gr	肥前系陶器 皿	口径:(14.4) 器高:3.2 底径:(5.1)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:灰白色 露胎:淡橙色	・内面見込蛇ノ目釉ハギ ・三日月高台
－22	SD01 D9Gr	肥前系染付 皿	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・内外面に染付
－23	SD01 D10Gr	肥前系染付 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・外面に染付 ・貫入が入る ・高台畳付露胎
－24	SD01 D9Gr	陶胎染付 碗	口径:(11.5) 器高:7.3 底径:(5.0)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡緑灰色	・外面に染付 ・貫入が入る ・高台畳付露胎
22－1	SD01 C7Gr	陶器 擂鉢	口径:(30.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	良	外面:暗茶色 内面:茶褐色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
22－2	SD01 D9Gr	焙烙	口径:(32.0) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ヘラケズリ	1～3㎜の砂粒混入	良	橙色 (一部暗褐色・暗橙色)	・都市型焙烙
25－1	SK08 D8Gr	土師質土器 小皿	口径:(7.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	橙色	
－2	SK08 D8Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:橙色 (外面一部橙色)	
－3	SK08 D8Gr	土師質土器 坏	口径:13.1 器高:4.2 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	・外面にタール付着 ・灯明具
－4	SK08 D8Gr	在地土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:格子タタキ、ナデ 内面:ナデ 底部:	1㎜以下の砂粒やや多く混入	良	赤橙色	・外面スタンプ文 ・亀山系の模倣
－5	SK08 D8Gr	在地土器 捏鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
27－1	SE02 D8Gr	土師質土器 坏	口径:(7.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色 (一部暗黄橙色)	
－2	SE02	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:淡黄橙色	
－3	SE02 D8Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	3㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－4	SE02	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:淡橙色 内面:暗黄橙色	・外面にタール付着 ・灯明具
－5	SE02	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:淡黄橙色 (一部黄灰色・暗褐色)	
－6	SE02 D8Gr	瓷器系陶器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、指頭圧痕 底部:不明	1㎜以下の砂粒やや多く混入	良	赤褐色	・内外面に灰被る
－7	SE02	備前焼 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	0.5㎜未満の砂粒少量混入	良	暗褐色	・乗岡中世3～4期
－8	SE02 D8Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、指頭圧痕 内面:ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色 (外面一部橙色)	・内面に1単位6条の擂目
－9	SE02 D8Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ、指頭圧痕 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗淡橙色 内面:暗橙色	・内面に1単位4条以上の擂目
－10	SE02 D8Gr	在地土器 鍋	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
29－1	SK02 C10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
－2	SK03 C10Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	暗黄橙色	・端部に刻目文・2条の凹線

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
29－3	SK03 C10Gr	弥生土器 甕	口径:(16.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:黄橙色	・端部に3条の凹線
－4	SK03 C10Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(3.4)	外面:ヘラミガキ 内面:不明 底部:ナデ	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色	
30－1	SD13 D10Gr	陶器 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(5.8)	外面:施釉 内面:露胎 底部:露胎	密	良	茶褐色	・高台削り出し ・内面見込に砂付着
32－1	SD08	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 器高:1.3 底径:(5.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－2	SD08 E9Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.5 底径:(5.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:暗淡橙色	・外面にタール付着 ・灯明具
－3	SD08 E10Gr	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:4.1 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色	
－4	SD08 E9Gr	土師質土器 坏	口径:13.0 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、板目	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－5	SD08	土師質土器 坏	口径:13.2 器高:4.4 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	茶色粒子混入	やや軟	淡橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
－6	SD08	土師質土器 坏	口径:13.2 器高:3.6 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	・内外面にタール付着 ・灯明具
－7	SD08	土師質土器 坏	口径:(12.9) 器高:3.9 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙灰色 (一部暗褐色)	
－8	SD08	土師質土器 坏	口径:13.0 器高:4.1 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色 (一部橙色)	
－9	SD08	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:3.9 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	3㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄白色 内面:黄橙白色	・内面にタール付着 ・灯明具
－10	SD08 F9Gr	土師質土器 坏	口径:15.2 器高:4.8 底径:5.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	・内外面にタール付着 ・灯明具
－11	SD08	土師質土器 坏	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
－12	SD08 E10Gr	土師器 坩堝	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	良	外面:灰褐色 内面:暗褐色	・内面に銅滓付着
33－1	SD08	在地土器 捏鉢	口径:(27.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	1～2㎜の砂粒混入	やや軟	黄橙色	
－2	SD08	在地土器 捏鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:橙色 内面:暗橙色 (一部淡橙色)	
－3	SD08	在地土器 擂鉢	口径:(23.4) 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	1～2㎜の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:暗黄灰色	・内面に擂目

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
33－4	SD08 E10Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:灰橙色	・内面に1単位7条以上の擂目
－5	SD08	瓦質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:黄灰色	・外面に菊花文 ・角形火鉢
－6	SD08 E10Gr	瓦質土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:黒褐色	・内面に1単位6条以上の擂目
35－1	SD09 E10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色	
－2	SD09 E10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	淡橙色	
－3	SD10 E10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:暗橙色	・内外面にタール付着 ・灯明具
－4	SD07 E9Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.6 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	橙色	
－5	SD07 E9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1～2㎜の砂粒混入	やや軟	外面:黄灰色 内面:暗黄橙色	
36－1	土器溜 H10Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.3) 器高:1.7 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:橙色	
－2	土器溜 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:暗黄褐色	
－3	土器溜 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密 黒色粒子多量に混入	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色	
－4	土器溜 H10Gr	土師質土器 坏	口径:(11.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密 黒色粒子混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:暗黄橙色	
－5	土器溜 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:	密	良	橙色	
－6	土器溜 H10Gr	白磁 碗	口径:(13.1) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	灰白色	
38－1	SA02 H9Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、板目	黒色粒子少量混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色 (底部黄橙色)	
－2	SA02 H9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:淡橙色	
－3	SA02 I9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:橙色 内面:暗淡橙色	
－5	SA02 I9G	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕 内面:ナデ、指頭圧痕 底部:不明	密	やや軟	外面:黄橙色 内面:橙色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
39－1	SB01 I9Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:(4.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:糸切	黒色粒子少量混入	軟	淡橙色	
－2	SB01 I9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:橙色 内面:赤橙色	・内面赤彩
－3	SB01 I9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	黒色粒子少量混入	やや軟	外面:橙色 内面:赤橙色	・内外面赤彩
－4	SB01 H9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	黒色粒子少量混入	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色	
－5	SB01 H9Gr	土師器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ、ハケ目 内面:ハケ目、ヘラケズリ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:橙色 内面:暗橙色 (一部暗褐色)	
－6	SB01 I9Gr	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	橙色	
－7	SB01 I9Gr	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:黄橙色 内面:暗橙色	
－8	SB01 I9Gr	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕 内面:指頭圧痕 底部:不明	1～4㎜の砂粒多量に混入	やや軟	淡橙色	
－9	SB01 拡張区	土師質土器 坏	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗橙色 内面:暗赤橙色	・内外面赤彩
－10	SB01 拡張区	土師質土器 坏	口径:12.8 器高:3.4 底径:5.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	・内面に少量の漆付着
－11	SB01 拡張区	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	良	黄灰色	
41－1	SB02 K8Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密 黒色粒子多量に混入	やや軟	橙色	
－2	SB02 J9Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(10)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り、ナデ	密 黒色粒子混入	良	外面:青灰色 内面:黄灰色 (底部黄灰色)	・高台貼付
43－1	SK38 K9Gr	土師質土器 坏	口径:13.3 器高:3.5 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:淡橙色	
－2	SK38 J9Gr	土師質土器 皿	口径:10.7 器高:2.1 底径:8.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	・底部赤彩
－3	SK38 J9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	軟	外面:暗淡橙色 内面:暗褐色	
－4	SK38 J9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	やや軟	外面:黄橙色 内面:淡黄橙色	・高台貼付 ・内面に少量のタール付着 ・灯明具
－5	SK38 J9Gr	在地土器捏鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄灰色 内面:淡黄橙色 (一部暗橙色)	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
43－6	SK38 J9Gr	瓦質土器 風炉	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:青灰色 内面:黄灰色	·2条の貼付突帯の間に珠文 ·透かしあり ·体部外面に紅葉のスタンプ文
－7	SK38 J9Gr	須恵器 高坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:不明	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (一部暗褐色)	·脚部3方向に三角透かしあり ·透かしの下に1条の沈線
－8	SK38	須恵器 坏身	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	
45－1	SE01	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－2	SE01	土師質土器 坏	口径:(15.1) 器高:3.9 底径:(9.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色	·内外面に赤彩 ·外面に墨書
－3	SE01 K7Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:(7.6) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	外面:橙色 内面:黄橙色	
－4	SE01	土師質土器 坏	口径:不明 器高:6.2 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:静止糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
－5	SE01 K7Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:(7.6) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色	·内面見込にヘラ状工具痕
－6	SE01 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:(6.2) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	黒色粒子混入	やや軟	外面:橙色 内面:暗橙色	·高台貼付
－7	SE01 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:(8.0) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ヘラ、ナデ	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	·内外面にタール付着 ·灯明具
－8	SE01 K7Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、ナデ	密	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色	·高台貼付 ·内面に赤彩
－9	SE01 K7Gr	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕 内面:指頭圧痕、ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:橙色 内面:灰橙色 (口縁部橙色)	
－10	SE01	須恵器 盤	口径:不明 器高:(13.1) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1㎜未満の砂粒混入	良	青灰色	·高台貼付
47－1	SK41 L6Gr	備前焼 甕	口径:34.8 器高:69.5 底径:31.8	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	外面:暗赤褐色 内面:橙色 (底部暗橙色)	·肩部外面に窯印
49－1	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:1.8 底径:(5.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
－2	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.0 器高:1.9 底径:4.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗橙色 内面:暗黄橙色	
－3	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.3 器高:2.0 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	外面:回転ナデ黒色粒子少量混入	やや軟	橙色 (一部暗橙色)	·口縁部内面にタール付着 ·灯明具
－4	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.4 器高:2.3 底径:3.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	軟	暗褐色 (一部黄橙色)	·内外面にタール付着 ·灯明具

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
49－5	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.1) 器高:1.9 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
－6	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:1.8 底径:5.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗橙色 内面:やや暗い淡橙色 (一部暗褐色)	
－7	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.7 器高:1.7 底径:4.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色	
－8	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.9 器高:1.7 底径:4.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－9	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.0 器高:1.8 底径:4.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
－10	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.6 器高:1.8 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－11	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.9 器高:1.8 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:橙色	
－12	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.2 器高:2.1 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:やや暗い橙色 内面:橙色 (一部暗褐色)	・内面見込にヘラ状工具痕
－13	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.8 器高:1.8 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
－14	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.2 器高:1.7 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
－15	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.9 器高:1.8 底径:4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗橙色 内面:橙色	・外面にタール付着 ・灯明具
－16	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(9.8) 器高:1.4 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:橙色	
－17	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:12.3 器高:4.5 底径:5.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色 (一部淡橙色)	
－18	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:4.1 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	・内外面にタール付着 ・灯明具
－19	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色 (一部橙色)	
－20	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.3 器高:4.3 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗橙色 内面:橙色 (一部黒褐色)	・内面にタール付着 ・灯明具
－21	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:黄灰色 (一部橙色淡橙色)	
50－1	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:12.8 器高:4.3 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	橙色 (一部淡橙色)	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
50－2	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－3	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:6.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1～3㎜の砂粒混入	やや軟	橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
－4	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.3 底径:5.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:暗橙色 内面:黄橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
－5	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.5 器高:4.5 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	3㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
－6	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.4 底径:6.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	2㎜未満の砂粒混入	やや軟	橙色 (一部淡橙色)	
－7	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:6.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－8	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.6 器高:4.1 底径:6.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－9	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:3.8 底径:7.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－10	SK09 L6Gr	陶器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:褐色 内面:暗橙色	・内面に1単位8条の擂目
－11	SK09 L6Gr	須恵器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	軟	青灰色 (一部黄灰色)	
52－1	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(14.4) 器高:4.6 底径:(6.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、板目	密	やや軟	淡橙色	
－2	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(15.3) 器高:5.0 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、ナデ	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
－3	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(15.4) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
－4	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:12.7 器高:4.0 底径:5.4	外面:回転ナデ、ハケ目 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	淡橙色	
－5	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(12.2) 器高:4.2 底径:4.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	軟	外面:明灰橙色 内面:明橙灰色	
－6	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	淡橙色	
－7	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	軟	淡橙色	・外面に赤彩
－8	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:6.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切	1㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	橙色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
52－9	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	軟	淡橙色 (底部橙色)	
－10	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:7.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、ナデ	1㎜未満の砂粒多量に混入	やや軟	橙色	・高台貼付
－11	SK93 K6Gr	須恵器 瓶または鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(9.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、ナデ	密	良	外面:暗褐色 内面:暗黄灰色 (高台内青灰色)	・高台貼付
53－1	SX03 K6Gr	土師質土器 坏	口径:12.9 器高:4.4 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	外面:灰橙色 内面:橙灰色	
－2	SX03 K6Gr	土師質土器 坏	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1～2㎜の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－3	SX03 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	淡橙色	
－4	SX03 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:6.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:明黄灰色 内面:灰橙色	
－5	SX03 K6Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(10.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	良	青灰色	・高台貼付
54－1	SK96 L5Gr	須恵器 坏蓋	口径:(12.9) 器高:4.6	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:回転ナデ、ナデ	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (大部分暗褐色)	・外面に自然釉付着 ・外面肩部に1条の稜線 ・口縁部内面に1条の沈線
－2	SK96 L5Gr	須恵器 坏身	口径:(12.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・外面に自然釉付着 ・第54図1とセット関係か?
－3	SK96 L5Gr	須恵器 坏身	口径:(12.6) 器高:4.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り?	密 黒色粒子多量に混入	良	外面:黒褐色 内面:青灰色	・底部外面に自然釉付着
－4	SK96 L5Gr	須恵器 坏身	口径:(13.) 器高:4.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り	密 黒色粒子多量に混入	良	外面:暗灰色 内面:青灰色	
55－1	SX04 K5Gr	土師質土器 坏	口径:12.3 器高:4.5 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
56－1	SK103 K4Gr	土師質土器 坏	口径:(13.0) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜程度の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
57－1	SK159 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜程度の砂粒少量混入	軟	淡橙色	
－2	SK159 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:6.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	やや軟	外面:暗赤褐色 内面:淡橙色 (一部暗赤褐色)	・高台貼付
58－1	SK161 K4Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.8 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:淡橙色	
－2	SK161 K4Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
−3	SK161 K4Gr	瓦質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:ナデ 底部:ナデ	密	良	暗褐色	・断面に粘土の接合痕 ・脚部貼付
59−1	SK163 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:板目	1㎜以下の砂粒混入	軟	外面:灰橙色 内面:淡橙色	
−2	SK163 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	赤色粒子混入	やや軟	橙色	
−3	SK163 K3Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色	
−1	鍛冶炉1 K2Gr	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 器高:1.7 底径:(4.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
−2	鍛冶炉1 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
61−3	鍛冶炉1 K2Gr	土師質土器 坏	口径:(11.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
−4	鍛冶炉1 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
−5	鍛冶炉1 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:ハケ目、ヘラミガキ	密	やや軟	灰橙色	・脚部貼付
63−1	鍛冶炉2 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒混入	軟	外面:灰黄色 内面:灰褐色	
−2	鍛冶炉2 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒混入	軟	橙色	・内面見込にタール付着?
−3	鍛冶炉2 K2Gr	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	口径:不明 器高:不明 底径:不明	1〜2㎜の砂粒混入	やや軟	橙色	・透かし・タガあり
64−1	SD28 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	外面:淡黄橙色 内面:淡灰橙色	
67−1	SD29 K2Gr	弥生土器 把手付短頸壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	1㎜程度の砂粒多量に混入	軟	灰白色 (一部黄橙色)	
−2	SD29	弥生土器 甕	口径:(11.5) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ヘラ削り 底部:不明	2㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	暗黄褐色 (一部暗褐色・褐色)	・外面にスス付着
−3	SD29	弥生土器 甕	口径:(15.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	外面:明黄灰色 内面:黄灰色	
−4	SD29 K2Gr	弥生土器 甕	口径:(25.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	3㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:暗黄灰色 (一部暗黄褐色)	・頸部に貼付突帯 ・口縁部端部に3条の凹線
−5	SD29	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:黄灰色 (一部黒褐色)	・外面にスス付着

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
67－6	SD29	弥生土器 甕	口径:(16.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡黄褐色	・口縁部端部に2条の凹線
－7	SD29	弥生土器 甕	口径:(18.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	口縁部:淡赤橙色 頸部:褐色	・口縁部端部に1条の凹線
－8	SD29	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:明黄灰色	
－9	SD29	弥生土器 甕	口径:(17.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ヘラ削り、ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	外面:黄橙色 内面:橙色	
－10	SD29	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗黄灰色 内面:淡黄灰色 (一部黄褐色)	・口縁部端部に2条の凹線
－11	SD29	弥生土器 甕	口径:(22.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:明黄灰色 口縁部:暗黄橙色	・口縁部端部に2条の凹線 ・口縁部内外面にス付着
－12	SD29	弥生土器 広口壺	口径:(25.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1～3㎜の砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:明黄灰色	・端部に2条の凹線 ・口縁部内面に3条の凹線 ・頸部に突帯文
68－1	P255 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:淡黄橙色	
－2	P258 K3Gr	土師質土器 坏	口径:(14.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－3	P258 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－4	P259 K3Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－5	P259 K3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	暗橙色	・高台貼付
－6	P268 L3Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.8) 器高:(6.0) 底径:1.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
－7	P275 K4Gr	土師質土器 坏	口径:(12.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色	
－8	P359 K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜未満の砂粒少量混入	軟	橙色	
69－1	SK120 M9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	黒色粒子少量混入	やや軟	黄橙色	
－3	SK133 O8Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(4.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－4	SK133 O8Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:3.6	外面:不明 内面:不明 底部:不明	1㎜以下の砂粒少量混入	軟	外面:淡橙色 内面:橙色 (一部黄灰色)	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
69－5	SK133 O8Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ナデ	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (高台見込青灰色)	・高台貼付
－6	SK144 O8Gr	土師質土器 坏または小皿	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－7	SK144 O8Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色	・口縁部端部に無文の突帯
－8	SK144 O8Gr	弥生土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜程度の砂粒多量に混入	やや軟	外面:橙色 内面:黄橙色	・口縁部端部に刻目文
71－1	E10Gr 第1層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:橙色 内面:暗橙色 (底部橙色)	
－2	K6Gr 第1層	瀬戸焼 天目茶椀	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:不明 内面:施釉 底部:露胎	1㎜以下の砂粒少量混入	良	施釉:黒褐色、暗茶色 露胎:明黄灰色	・高台削り出し
－3	J9Gr 第1層	瀬戸焼 灰釉陶器椀	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:淡緑色 露胎:黄灰色	
－4	K8Gr 第1層	土師器 赤彩土器	口径:(15.8) 器高:4.0 底径:(14.2)	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目、ナデ 底部:ヘラミガキ	密	やや軟	赤橙色 (底部外面黄橙色)	・内外面赤彩
－5	B3Gr 第1層	須恵器 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	黄灰色	
－6	L8Gr 第1層	須恵器 坏	口径:13.4 器高:4.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (外面一部青灰色)	
－7	K8Gr 第1層	須恵器 坏	口径:14.6 器高:4.0 底径:10.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:静止糸切	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色	
72－1	K5Gr 第2層	土師質土器 小皿	口径:7.4 器高:1.5 底径:5.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、ヘラ状工具痕	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
－2	K4Gr 第2層	土師質土器 小皿	口径:8.8 器高:1.9 底径:4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	・内面にタール付着?
－3	K4Gr 第2層	土師質土器 坏	口径:13.5 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:淡橙色	
－4	第2層	土師質土器 坏	口径:(13.6) 器高:7.1 底径:9.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙色 (口縁部橙色) (高台内黄橙色)	・高台貼付
－5	J2Gr 第2層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	・外面に鉄滓付着
－6	K3Gr 第2層	白磁 四耳壺	口径:(11.4) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	灰白色	・威信財?
－7	J8Gr 第2層	青磁 碗	口径:(15.0) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡緑色	・龍泉窯系D類

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
72－8	C7Gr 第2層	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	外面:赤褐色 内面:暗赤褐色 (一部暗赤褐色)	・乗岡編年中世5期a
－9	I9Gr 第2層	瀬戸焼 椀	口径:(20.2) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	外面:淡黄緑色 内面:暗緑色	・口縁部に漆付着
－10	D9Gr 第2層	瀬戸焼 卸皿	口径:不明 器高:不明 底径:(3.2)	外面:施釉 内面:卸目 底部:回転糸切	密	良	黄褐色	・外面に灰釉付着
－11	C10Gr 第2層	中国製陶器 茶入	口径:不明 器高:不明 底径:(2.8)	外面:施釉 内面露胎:回転ナデ 底部露胎:回転糸切	密	良	施釉:暗黄色 露胎:暗茶色	
－12	B3Gr 第2層	青花	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡青白色	・内外面に染付 ・小野F群
－13	L5Gr 第2層	縄文土器 浅鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨消縄文 内面:ヘラミガキ 底部:不明	密	やや軟	暗茶褐色	
－14	L5Gr 第2層	縄文土器 浅鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:二枚貝条痕 内面:ヘラミガキ 底部:不明	2㎜以下の砂粒やや多く混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:暗茶色	
－15	G10Gr 第2層	弥生土器 壺	口径:10.0 器高:7.7	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ、ヘラ削り 底部:ヘラ削り	2㎜未満の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:黄橙色	
－16	J8Gr 第2層	土師器 甕	口径:(21.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:黒褐色 (一部橙色)	・口縁部周辺にスス付着
－17	I9Gr 第2層	土師器 甕	口径:(26.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、指頭圧痕 内面:ハケ目、ヘラ削り 底部:不明	3㎜以下の砂粒混入	やや軟	外面:黒褐色 内面:暗黄橙色 (一部橙色赤褐色)	・外面にスス付着
－18	L5Gr 第2層	須恵器 坏蓋	口径:13.3 器高:4.7	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・天井部にヘラ記号「×」
－19	I9Gr 第2層	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	暗黄灰色	・灯明皿の可能性あり
－20	K3Gr 第2層	緑釉陶器	口径:不明 器高:不明 底径:5.4	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	やや軟	施釉:青緑色 露胎:黄白色	・内面見込に1条の沈線
－21	D10Gr 第2層	肥前系陶器	口径:不明 器高:不明 底径:4.8	外面:露胎 内面:施釉 底部:露胎	密	良	外面:黄灰色 内面:淡緑色 (一部赤褐色・橙灰色)	・削り出し高台 ・砂目積
－22	第2層	肥前系磁器 染付	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・内外面に染付
73－8	D9Gr 第3層	白磁	口径:不明 器高:不明 底径:(4.6)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:灰白色 露胎:灰橙色	・内面見込に蛇ノ目釉ハギ ・削り出し高台
74－1	J9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:7.3 器高:1.6 底径:3.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
－2	E9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(7.1) 器高:1.5 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒混入	軟	淡橙色	・内外面に染付タール付着 ・灯明具

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
74－3	H9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(8.7) 器高:2.0 底径:(5.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	・内外面に染付タール付着 ・灯明具
－4	E9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(8.8) 器高:2.6 底径:(4.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	3㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	・内外面に染付タール付着 ・灯明具
－5	J9Gr 第4層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:淡橙色	
－6	G9Gr 第4層	土師質土器 坏	口径:(12.6) 器高:4.5 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
－7	G9Gr 第4層	土師器 低脚坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.8	外面:不明 内面:ヘラミガキ 底部:回転ナデ、ナデ	黒色粒子混入	やや軟	外面:暗黄橙色 内面:暗橙色	・脚部貼付
－8	J9Gr 第4層	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(6.4)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	乳白色	・高台畳付釉ハギ ・小野C群
－9	G9Gr 第4層	在地土器 捏鉢	口径:(28.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目 底部:不明	黒色粒子混入	やや軟	淡橙色	・断面に粘土の接合痕
－10	G9Gr 第4層	弥生土器 壺	口径:(11.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ヘラミガキ、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	良	外面:暗黄橙色 内面:暗黄褐色 (一部暗褐色)	
－11	G9Gr 第4層	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 径:(6.4)	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目 底底部:ナデ	1㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:暗黄橙色 (底部黒褐色)	・底部外面にスス付着
－12	I9Gr 第4層	土師器 製塩土器	口径:(10.0) 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
－13	I9Gr 第4層	須恵器 瓶	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	暗青灰色 (肩部暗褐色)	・体部外面に1条と2条の沈線 ・体部に刺突文 ・体部穿孔
－14	J9Gr 第4層	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	密	良	外面:青灰色 内面:黄灰色	
75－1	B5Gr	土師質土器 坏	口径:12.0 器高:4.3 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	口縁部:暗茶色 底部:暗橙色 その他:暗褐色	
－2	J3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	軟	外面:暗橙色 内面:暗灰色	
－3	K2Gr	土師質土器 柱状高台付鉢	口径:不明 器高:不明 底径:4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切?	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	暗黄橙色	
－4	J3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(9.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	2㎜以下の砂粒少量混入	軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
－5	I9Gr	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	淡黄白色	・削り出し高台
－6	K3Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜以下の砂粒混入	良	外面:青灰色 内面:暗青灰色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
75－7	K3Gr	緑釉陶器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	やや軟	淡緑色	
－8	K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:暗橙色	
－9		土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	軟	外面:橙色 内面:淡橙色	
－10	K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	軟	外面:黄橙色 内面:暗橙色	
－11	K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(8.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1㎜未満の砂粒少量混入	軟	淡橙色 (高台内淡黄橙色	・高台貼付
－12	K2Gr	土師器 甕	口径:(20.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ、ハケ目 内面:ナデ、ヘラケズリ 底部:不明	1㎜以下の砂粒多量に混入	軟	外面:淡橙色 内面:淡黄橙色	
－13	K2Gr	須恵器 坏	口径:(12.0) 器高:2.5 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	良	青灰色	
－14	K2Gr	須恵器 坏	口径:(14.6) 器高:5.6 底径:(8.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	外面:淡黄灰色 内面:淡青灰色	・底部に高台を施す
－15	K3Gr	須恵器高 坏	口径:(19.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・外面に1条の突帯
－16	K2Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
－17	K2Gr	須恵器 長頸瓶	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:淡青灰色 内面:暗青灰色	
－18	K2、J2	土師質土器 坏	口径:(11.2) 器高:3.3 底径:(8.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙白色	・内外面赤彩
－19	K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切	黒色粒子少量混入	軟	外面:黄灰色 内面:淡灰橙色 (底部褐色)	
－20	K2Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止糸切、板目	1㎜以下の砂粒混入	軟	外面:淡灰橙色 内面:淡橙色	
－21	K2Gr	土師器 製塩土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ 内面:指頭圧痕、ナデ 底部:不明	1㎜以下の砂粒混入	軟	橙色	
76－1	K2Gr	緑釉陶器	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	軟	外面:明青緑色 内面:淡緑色	・底部にヘラ描きを施す
－2	K2Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(10.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	青灰色	
－3	K2Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(6.2)	外面:回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ底部:回転糸切	密	良	青灰色	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	手法の特徴	胎　土	焼　成	色　調	備　考
76－4	K2Gr	須恵器 直口壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
－5	K2Gr	須恵器 甕	径:(23.5) 器高:不明 底径:不明	口外面:平行タタキ? 内面:青海波文 底部:不明	密	良	外面:暗褐色、褐灰色 内面:褐灰色、暗青灰色	
－6	K2Gr	弥生土器 甕	口径:(13.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	淡橙灰色	
－7	K2Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明	外面:不明 内面:指頭圧痕 底径:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	やや軟	外面:淡赤橙色 内面:暗黄橙色	
－8	K2Gr	弥生土器 甕	口径:(16.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ヘラケズリ、ヘラミガキ 底部:不明	2㎜以下の砂粒混入	やや軟	暗黄橙色 (一部褐色)	・体部外面に刺突文 ・口縁部端部に2条の凹線 ・口縁部にスス付着
－9	K2Gr	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2㎜以下の砂粒多量に混入	軟	淡橙色	
77－1	K2Gr 灰色砂質土	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:不明 底径:(4.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	橙色	
－2	K3Gr 灰色砂質土	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:糸切痕	1㎜未満の砂粒混入	軟	淡橙色	
－3		土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切痕	1㎜未満の砂粒少量混入	やや軟	淡橙色	
－4	K2Gr 灰色砂質土	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡黄白色	
78－1	K7Gr 撹乱土	土師器 焙烙	口径:45.2 器高:8.0 底径:43.6	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:チヂレ目	密	良	淡橙色 (一部黒褐色)	・粘土紐の把手を施す ・スス付着
－2	M8Gr 撹乱土	土師器 焙烙	口径:32.0 器高:7.5 底径:33.0	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:チヂレ目	密	良	良 内面:橙色 (一部黒褐色)	・口縁部にスス付着
79－1	中屋山 T－1	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1㎜未満の砂粒混入	軟	淡橙色	
－2	中屋山 T－1	備前焼 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	暗茶色	・口縁部端部・肩部外面に灰付着
－3	中屋山 T－1	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ヘラケズリ	密	良	黄灰色	
80－1	中屋山 T－2	瓷器系陶器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ、ナデ 底部:不明	密	良	暗赤褐色 (内面一部黄褐色気味)	・内面に灰被る
－2	中屋山 T－2	備前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(14.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	1㎜以下の砂粒少量混入	良	外面:暗褐色 (やや赤みを帯びる) 内面:灰褐色	・内面に1単位7～8条の擂目 ・断面・外面に粘土の接合痕 ・底部にヘラ状工具痕
－3	中屋山 T－2	肥前系磁器 染付	口径:(12.8) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	白色	・内面コンニャク印版

寿昌寺遺跡遺物観察表 2

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	備　考
20－4	P116 C6Gr	土製品 錘	縦長:5.1 横幅:2.2 孔径:0.5	
21－15	SD01 D9Gr	土製品 支脚	底径:9.9	
－16	SD01 D8Gr	土製品 錘	縦長:4.9 横幅:1.5 孔径:0.5	
－17	SD01 D8Gr	土製品 錘	残存長:4.1 横幅:1.4 孔径:0.4	・孔径4㎜程度の穿孔を施す
－19	SD01 C7Gr	土製品 平瓦	残存長:6.2 残存幅:6.3	・外面に格子タタキ ・在地土器甕の可能性もあり
22－3	SD01 D9Gr	瓦質製品 丸瓦	残存長:12 横幅:11.7	・凹面にコビキ痕・ヘラ状工具痕残る。 ・側面に粘土の接合痕
23－2	SD17 C6Gr	鉄製品 鉈?	残存長:12 残存幅:4.0 口径:0.5	・穿孔あり
33－7	SD08 F9Gr	石製品 砥石	残存長:5.3 残存幅:2.9 肥厚:2.2	・3面使用
34－1	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	縦長:5.5 最大径:0.6	・釘頭L字形
－2	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	縦長:7.8 最大径:0.8	・釘頭L字形
－3	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:6.6 最大径:0.8	・釘頭形態不明
－4	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	縦長:8.3 最大径:0.6	・釘頭T字形
－5	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	縦長:6.2 最大径:0.7	・釘頭L字形
－6	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	縦長:4.7 最大径:0.8	・釘頭T字形
－7	SD08	鉄製品 釘	残存長:3.1 最大径:0.4	・釘頭欠損
－8	SD0 F9Gr	鉄製品 釘	縦長:3.5 最大径:0.6	・釘頭L字形
－9	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:4.2 最大径:0.4	・釘頭欠損
－10	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:4.1 最大径:0.7	釘頭欠損

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	備　考
34－11	SD08	鉄製品 刀子	残存長:11.7 残存幅:2.4 肥厚:0.4	・片側に刃
36－7	土器溜 G10Gr	土製品 錘	残存長:3.8 横幅:1.8 孔径:0.45～0.55	・外面赤色塗彩
38－4	SA02 I9Gr	土製品 錘	残存長:2.2 残存幅:1.2 孔径:0.5	
40－1	P44 H9Gr	土製品 錘	残存長:2.6 残存幅:1.5 孔径:5.0	
45－11	SE01 K6Gr	土製品 錘	縦長:6.6 横幅:1.9 孔径:0.50～0.55	
51－1	SK09 L6Gr	鉄製品 釘	縦長:14.2 最大径:0.6	・釘頭L字形
69－2	SK120 M9Gr	土製品 錘	残存長:4.8 横幅:1.5 孔径:0.45～0.55	
71－8	I9Gr 第1層	土製品 錘	残存長:4.3 横幅:1.5 孔径:0.35	
73－1	I9Gr 第2層	土製品 錘	残存長:5.6 横幅:1.9 孔径:0.35～0.55	
－2	I9Gr 第2層	土製品 錘	縦長:4.2 横幅:1.4 孔径:0.5	
－3	C6Gr	土製品 錘	縦長:5.0 横幅:1.7 孔径:0.4	
－4	B5Gr 第2層	土製品 錘	残存長:3.8 横幅:1.4 孔径:0.35	
－5	K2Gr 第2層	土製品 用途不明	縦長:4.2 横幅:2.8 肥厚:2.2	
－6	D9Gr 第2層	石製品 砥石	残存長:5.6 横幅:5.5 肥厚:3.4	・3面使用
－7	J2Gr 第2層	鉄製品 五徳	口径:(16.8) 器高:4.9	・内面に土師質土器片付着
74－15	I9Gr 第4層	土製品 錘	縦長:5.6 横幅:1.8 孔径:0.6	
－16	I9Gr 第4層	土製品 錘	縦長:4.9 横幅:1.4 孔径:0.35～0.40	
－17	I9Gr 第4層	土製品 錘	縦長:5.2 横幅:1.45 孔径:0.4	

挿図番号	出土地点	種　別	法　量(cm)	備　考
74－18	I9Gr 第4層	土製品 錘	縦長:4.5 横幅:1.4 孔径:0.45～0.50	
－19	I9Gr 第4層	土製品 錘	縦長:3.9 横幅:1.35 孔径:0.50	
－20	I9Gr 第4層	土製品 錘	残存長:3.4 横幅:1.3 孔径:0.5	
77－5	出土地不明	土製品 錘	残存長:5.5 横幅:1.6 孔径:0.4	
－6	排土中	土製品 錘	縦長:6.5 横幅:3.0 孔径:0.7～0.8	
81－1	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 空風輪	残存高:15.8 横幅:15.8	
－2	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 空風輪	横幅:10.6 高さ:11.4	
－3	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 空風輪	横幅:17.8 高さ:28.4	
－4	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 空風輪	横幅:15.6 高さ:28.6	
－5	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 空風輪	横幅:16.8 高さ:27.2	
－6	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 火輪	横幅:32.0 高さ:15.8	
－7	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 火輪	横幅:22.0 高さ:11.8	
－8	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 水輪	横幅:32.0 高さ:17.8	
－9	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 水輪	横幅:26.6 高さ:17.8	
－10	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 地輪	横幅:23.4 高さ:15.2	
－11	中屋山 T－2	石製品 五輪塔 地輪	横幅:31.8 高さ:22.0	
－12	中屋山 T－2	石製品 宝篋印塔 相輪部	横幅:10.3 残存高:9.6	
－13	中屋山 T－2	石製品 宝篋印塔 相輪部	横幅:11.9 残存高:8.2	

挿図番号	出土地点	種　　別	法　量(cm)	備　　考
81－14	中屋山 T－2	石製品 宝篋印塔 笠部	残存幅:32.4 高さ:23.1	
－15	中屋山 T－2	石製品 用途不明	残存幅:26.9 残存高:6.4	・根巻石
82－1	中屋山 表採	石製品 用途不明	残存長:64.8 横幅:17.2 肥厚:20.2	
－2	中屋山 表採	石製品 用途不明	縦長:93.0 横幅:23.0 肥厚:16.7	

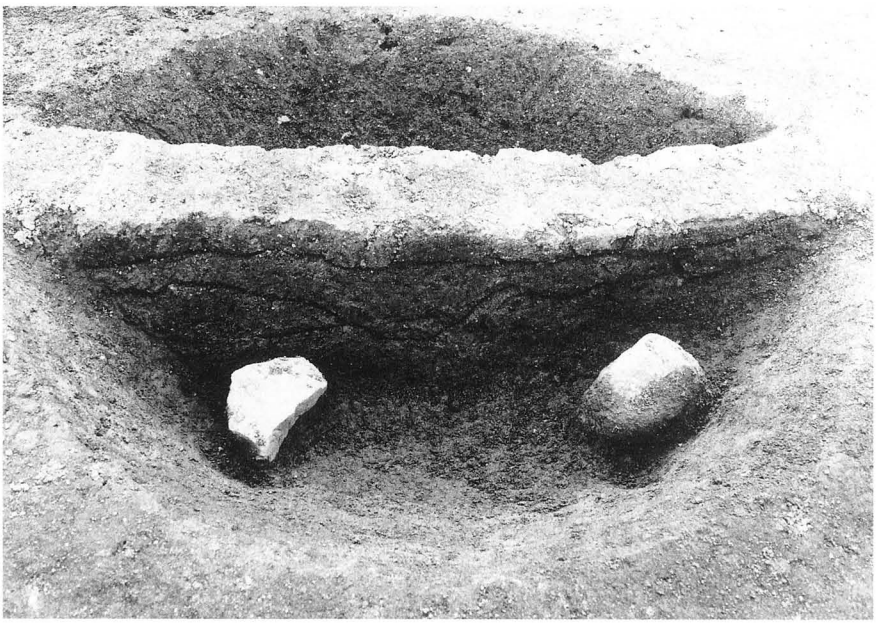
寿昌寺遺跡
図　版

図版 1

米軍空撮写真（寿昌寺遺跡周辺）

SD15土層堆積状況

SD15完掘状況



SK85土層堆積状況

図版 3

SD30

SD30遺物出土状況

SD30完掘状況